April 20th 1906.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 167.

大日本蠶絲會報

第百六拾七號要目

論議

●蠶絲業に就て　男爵　金子堅太郎
●滿洲及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎
●蠶桑文字私考　丹羽四郎
●「フォルマリン」の性質と價格　農學士　辻暢太郎

說林

●人爲淘汰の理より見たる配偶選擇に關する我邦の習慣（其他十一件）　理學博士　箕作佳吉

第一回總會錄事

●總會の光景　●業務成績報告　●評議員撰擧
●第三回功績表彰　●祝辭及答辭　●來賓の演說

雜錄

●養繭前の繭處理試驗　三谷徹

叩門

●韓國蠶業經營上の注意　農學士　林驊作
●伊太利土產　野村彥太郎

講筵

●蠶病消毒法　土屋泰

TOKYO.
The Association;
No. 2 Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japan.

賜天覽

●會員諸君に望む

春蠶期は蠶業季中最も重要の時なれば全國養蠶上の現象を相集め會報に掲載し蠶業家諸君の參考に供し度候間時節柄御多忙の事とは被存候へとも各地養蠶上の狀況に就き左記の通り御報道に接し度特に希望候也

一、桑葉發芽の模樣
二、桑葉の價格
三、蠶種掃立數若くは蟻量
四、蠶兒掃立期日
五、各齡の經過
六、上簇時日
七、收繭の豫想
八、收繭の價格
九、其他桑葉被害の有無及豊作の豐凶等參照となすべきもの

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報廣告料

		特等 一頁	特等 半頁	特等 四分ノ一頁	並等 一頁	並等 半頁	並等 四分ノ一頁	並等 一行
一圓乃至二圓	會員外	十二圓	七圓	四圓	十圓	六圓	三圓五十錢	廿五錢
	會員	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
三圓乃至六圓	會員外	十圓	六圓	三圓五十錢	八圓	五圓	三圓	二十錢
	會員	八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
七圓	會員外	八圓	五圓	三圓	六圓	四圓	二圓五十錢	十八錢
以上	會員	六圓	四圓	二圓五十錢	五圓	三圓	二圓	十六錢

一頁は一行二十七字詰七十二行とす
四分の一頁未滿は行數を以て計算す
特等は四分の一頁未滿を謝絶す
廣告料は前金に限る

●本報定價　一冊金拾五錢　一ヶ年分前金壹圓五拾錢

明治三十九年四月二十日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區美土代町三丁目二番地　小池市松

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍活版所

發行所　東京市神田區美土代町三丁目二番地　大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

大日本蠶絲會報 第百六拾七號

目次

論叢

●蠶絲業に就て　男爵 金子堅太郎
●備州及芝罘に於ける柞蠶製絲業　鹽谷清多郎
●蠶桑文字私考　丹羽四郎
●「フォルマリン」の性質と價格　農學士 辻暢太郎

説林

●人造絹法の譬より見たる配偶選擇に關する我邦の習慣（理學博士箕作佳吉）●日本蠶業の特徴（農學士石黒忠惠）●時勢を知す（加藤勇次郎）●當國需給の新法（林學博士本多靜六）●所謂無吐絲蠶に就て（坂入謙）●飲て蠶業家に徹す（江藤眞四郎）●韓國の蠶業に就て（雑錄）●蠶法に就て（岩田庄左工門）●技術界に英語研究の必要（前田武四郎）●日本蠶膠の原因（トルイスト伯）●夏秋蠶專用桑園の必要及其仕立法に就て（正木利三）●製絲に於ける桑業決算の方法に就て（岡村龍七郎）

第一回總會録事

●總會の光景　●業務及議事報告　●評議員選擧　●第三回功績表彰　●祝辭及答辭　●來賓の演說

雜録

●養蚕前の蟻處理試驗　三谷徹
●野鼠及果の驅除豫防法及被害の治療法
叩門　農學士 林驥作
●伊太利土產　野村直太郎

講筵

●蠶病消毒　土屋泰

問答

●飼育種類及從事に就ての質問並答●蠶兒の蠶笛の周緣に溜出つるに就ての質問並答●桑樹の害蟲に就ての質問並答●桑樹の移植及蠶卵の色素に就ての質問並答●種繭に就ての質問並答●蠶種再發生の件に就ての質問並答

絲況

●横濱市場●里昂市場●紐育市場

外報

●英領印度の絹織物業●爪哇の蠶業

時報

●會社錄告一　評議員會　西多摩郡文會　會員動靜
●經濟雜報　蠶病豫防の法施行期改正　官制改革十周年紀念式　造幣局の大共同購入　中央會議の動議廢止　紡績小製絲所　蠶繭の需要　牛疫注射と別　二重法定　多絲機會所月報　日綿の所
●組合會見　蠶絲會の設置定　多絲機會所月報　日綿の所
●蠶絲消息●人事異動●雜錄

汎く世の婦人に勸む

今や我國は武運自出度く戰捷の餘光四方に輝き亘り、世界の强國と仰がるゝに至りしは洵に喜ばしき極なり、されど此光榮ある國家を永遠にさゝゆべき富の力は歐米の國々に較べて著しく劣れることは掩ふべくもあらず、されば我國に於て爲すべきの務、盡すべきの事少きにあらねど、國の富を增すを以て肝要となし、民の力を養ふを以て急務となすは言ふも愚のことにして、富の力を增すには貴賤男女の區別なく國民心を一にして生產の業に從ふより外妙案あらじ、家に遊手の人なく、國に徒食の者なくば生產の力を增し、家國の富を加ふること錢に掛けて咏るが如し、さて此生產の業にも其品種々あれど婦人の業務として相應しきものを求むれば、養蠶絲織の業に優るものなかるべし。

養蠶絲織は我國神代より創まりたる業にて其後世の開くると共に此業も次第に進み行き、男子は外に出でゝ農耕を務め婦女は內にありて蠶織の業に從ふを以てなべての風習とはなせり、中古以來戰亂相繼ぎ、いたく此業を衰へしが、明治の大御世となりて深き恵の露に潤ひ、乙女等の繰しら絲も艶を增し、其產額も數殖て御國富の物產と稱らるゝに至りしこそ寔に自出度き限りなれ、さても我國にして此業の斯く進めるは、一は氣候風土の適するにも因るべきも、又歷世皇室に於て奬め勵さし給へるに基ることは既ふべくもあらず、遠くは遠古皇后の知る近くは英照皇太后の知き、尊貴の御躬を以て親ら桑を採り蠶を養ひ給へること、今に尙高天の鈴蠶し奉る所なり。

斯の如く九重の雲深き御あゝに於てすらいそしみ給へることなれば、如何に此業の貴きものなるかを知り得べし、又此業の特色として强き力はいらねども、纖密の注意と懇切の取扱とは肝要なり、夫の菴德太子ののたまへる「蠶を養ふこと父母の赤子を育つる如くせよ」との御言葉は洵に養蠶の秘訣を穿ち得たる金言にして其如何に婦人の性格に適するかを證

するに足れり、殊に絲繰る業の古より男子が敢てたつさはらざりしは婦人ならねば爲し易からぬ技藝多きに依るならめ、されば此業を彌々榮へしむるには婦人諸姉の力に待つもの多し、これ蠶絲業を以て國富の增進を期せむとする本會が特に婦人諸姉に望む所以なり、庶幾くは婦人諸姉本會の微意を諒とし速に入會せられ、既に此業を營まるゝ方は一層の奮勵を加へ、未だたづさはられざる方は此機選て此業に就かれ共に俱に愛國の誠を盡されむことを、若し夫れ本會の事業及び入會の手續に至りては、左に摘錄したるを以て牽に消費の煩を賜へ。

明治三十九年四月

大日本蠶絲會

一本會は伏見宮貞愛親王殿下を總裁に奉戴す。

一本會は民法の規定に從ひ主務官廳の許可を得て社團法人と爲す。

一本會は本邦蠶絲業の改良進歩を圖る爲め左の事業を行ふ。

一蠶絲業に關する調査を爲し又は會員の宜しきに應じ指導すること。

二會報を發行し會員に頒布すること。

三本邦生絲の海外販路擴張に關すること。

四海外に於ける蠶絲業の發達に關する事項を調査すること。

五蠶絲業に關する集會、講習會、講演會を開設すること。

六蠶絲業に關する發明、技術者等の賞讃すること。

七蠶絲に關する書籍を編纂著述又は翻譯して會員に頒布すること。

八蠶絲に關する共同事業の發達を圖ること。

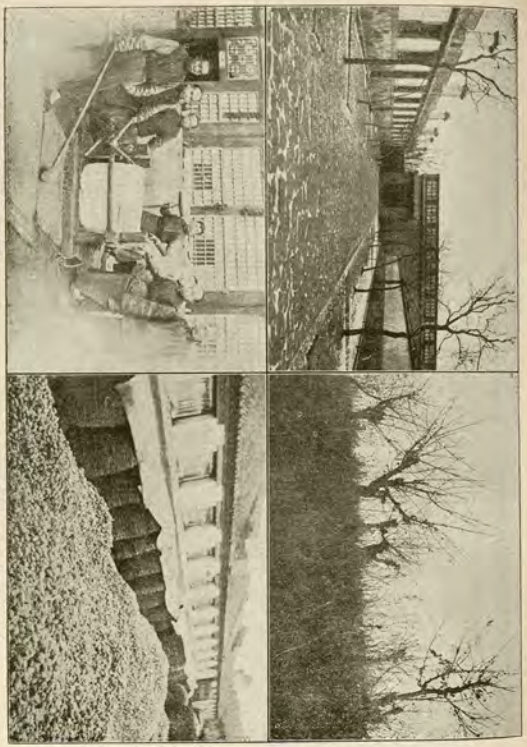
九蠶絲業に關係ある者の功勞を調査し表彰すること。

十前各號の蠶絲業の改良進歩に必要なる事項を調査すること。

一本會の主旨を賛成し入會せらるゝ場合には支會又は地方委員部のある所は其方を通じて、之が設置あらざる所は直接本會に會費を添へ申込相成たし。

一會員に特會員なれば一時に金三十圓を納付せらるゝか、又は毎年金三圓を、通常會員なれば、一時金十五圓納付せるゝか、又は毎年金一圓五十錢を前納せらるべし。

一本會定款及入會申込書は御照會次第送付致すべし。



ビスマルク蠶絲會社

Bismarck Silk-Filature in Chin-Tao.

繭を買込絲糸を製造する蠶絲會社

The Tsuzuki-Silk Package by Tsao Hsing-Chi-Yang's Purchasing House in Kai Ping

蘇州土門桑園の桑樹林

The Quercus tree Forest in Tu Mo Zong Hsin Yen.

芝罘同參興製絲蠶集散所

A Cocoon Calor of Tung Tse-Tsu's Silk-Filature in Chi-Tao.

大日本蠶絲會報　第百六拾七號

論叢

蠶絲業に就て

名譽會員　男爵　金子堅太郎

本編は大日本蠶絲會第一回總會に於て講演せられたるものなれども閲を請ふの暇なきを以て速記の儘此に掲載したるものなれば或は誤りなしとせず這は深く男爵及讀者に謝する處なり。

會頭及諸君、私は先般當會より御招待を受けて今日の蠶絲業に關する諸君の御集會に罷出で何ぞ一場の話を致すやうにと云ふ御請求でございました、單に御招待を受けたばかりでも我輩が最も光榮と存じますのみならず、此蠶絲業に付ては私は何の研究したことも無い、先刻から御演說を伺つて病理と言つて頻に學問を研究すると仰しやつた、それの一端も私は知らない、只曾て職を農商務省に奉じて居つて度々地方を巡回しまして蠶絲業の實況を觀察したことは今より十年前である、其時より此蠶絲業に付ては大いに我腦髓の刺激を受けた、それで爾來本會より會報を御贈り下されまして一々讀み、又自分も多少人に問ひ、自ら書を繙いて見たこともございます、で私の愚見は其後度々地方でも陳述し、又當業者に會つて話も致しました、所が一昨年日露戰爭の最初より飄然と亞米利加に渡り彼地の情況を見まして少しく考へた所がありますから、今日は何の經驗も學問も無いに拘らず諸君に御目に罹つて一言私の今度亞米利加で考へた所を御話して見ることが諸君の御參考にでもなれば誠に私の光榮と存じます、併し私の觀察が諸君の御參考になるや否や分らぬ、もう既にそれは充分御承知であつて或は六日の菖蒲かも分らぬ、併し見聞した事だけを御參考に申上げます、私のは只實地自分で見た所であります。

昨年の秋歸朝致しまして以來、地方の新聞を讀み、又東京の新聞も讀み、或は種々の演說などを聽いて戰後の經濟發達は最も必要である、日本は海外に向つて發展するの時機に達したと云ふことは殆ど擧國一致と私は思ふ、併し此發展の爲に經濟の發達は何れの點から先づ第一に着手するかと申しますれば、勿論內地の產業發達は必要であるが、此世界列强の間に我經濟を維持し、又國が今日日露戰爭の結果として得た所の地位を維持し、益々其地位を確實に發達させるには獨り海外貿易に依る外は無い、海外貿易で國を富すと云ふことは

宇內の定論である、それ故に日本も之に從はねばならぬ、そこで海外貿易の品物を調べて見ますると、先づ生絲より外に我國から直接に外國に出て直に外國の金を我國に引入れるものは無い、明治の初年より出して居つて今日まで多々益々多く出すものは生絲であつて實に日本第一の產物である、此生絲の豐凶は國民の休戚に關する、即ち國家の盛衰に關すると言つても私は誣言でないと思ひます、而して此生絲は海外に於てどの國が上得意で又大得意であるかと云ふことは申すまでもない、亞米利加合衆國である、而して其合衆國の有樣を見ると、只今は先づ人口八千五百萬と言つて居る、所が一箇月に三十萬ぐらゐ歐羅巴から移住民が來る、此有樣で行つたならば一億萬人になる事は數年を出でずして見らるゝと思ひます、而して其日本の大得意上得意の合衆國は佛蘭西、英吉利、獨逸の如く己れの本國が充分人口があつて充滿し、又產業も發達して居り、經濟も發達して居ると云ふ國ではない、殆んど市俄高から西は全面積の五分の四はまだ人が鍬を取つて耕せばドン／＼金が出來る、地下を掘れば色々な鑛物が出る、鐵道を開けば產物はドン／＼出ると云ふ恐らく世界で亞米利加合衆國ぐらゐ將來經濟上好望にして殆どドコ迄發達するか分らぬ國は無い、此國が日本の生絲の上得意である、我々蠶絲業に熱心なる者は此位な好い得意は探しても有りはしない日本はどの點から見ても生絲の點に至つては合衆國とは切つても切れない有樣になつて居る、先づ經濟の點から申しましても現に一週間前に私は友人から手紙を貰つたが、其人が言ふに亞米利加の經濟の發達は實に人間業とは思はれぬ程である、それは多少の同盟罷工は起るが、其同盟罷工は生產業の上にチットも響きはしない、又紐育などの各都府に行つて見れば宿屋が足らぬ、如何ほど建てゝも足らぬ、礎を据ゑる時にもうチャンと部屋の申込みが極つて居る、高架鐵道も電氣鐵道も地下鐵道もあり、川には蒸汽船が殆ど五分間毎に往復して居るが、夫でも交通の機關が足らぬと言つて居る、倫敦の如き所で世界第一の貿易市場と言つても高架線、地下線、地上線は有りはせぬ、亞米利加では三つとも有つてそれで足らぬ、經濟の發達はドコまで行くか分らぬ、而して其國の人民は此絹物をば殆ど我々が木綿物をば粗略に扱ふ如く絹物を粗略に扱つて居る、佛蘭西、英吉利、獨逸、伊太利人が絹物を扱ふことは餘程鄭重にして又貴重物として取扱つて居りますが、亞米利加人は金儲けが非常に早い、働きさへすれば金は幾らでも取れる國である、金の運轉が早い爲に所謂一夜越しの金は使はない、儲けさへすれば直ぐ絹物を勝手に着て少し古くなれば棄てゝ仕舞ふ、絹物を着ることが我々の木綿物を扱ふ如くであるから、此人種は日本の生絲に付ては大得意である紐育、バンクーバー、スヮトルには十二日間で航海が出來、桑港は布哇を經由した所で十七八日である、實に大得意のみならず私が茲に調べた表に據つて私の言ふとが詐りでないことが分ります、此間農商務省の專門家に御調べを願つた所が丁度今私が思つて居る通りに亞米利加に生絲の輸入する所の高が……古い所は言ひませぬ、いつち近い所の千九百二年、今より三年前に亞米利加合衆國に這入つた生絲の總高が日本の圓に直しまして、十萬以下は削つて八千三百萬圓である、

其中日本から這入つた生絲は四千百萬圓、殆ど半分は日本から亞米利加に行つて居る、迚も支那や伊太利や佛蘭西の及ぶ所でない、若し日本の生絲が不作であれば亞米利加の絹は非常に騰る、又實際今日は重要物品となつて居る、それから二年前の千九百三年の統計は九千八百萬圓に輸入が增加して居る、そこで今日九千八百萬圓に對して日本から出したのは四千九百萬圓であつて是も殆ど半分である、亞米利加人の着る着物は日本生絲に半分便らねければならぬ有樣である。

　而して此亞米利加の情況を少し御話致しますれば私が十餘年前に參つた時は日本生絲に對しては苦情百出、紐育の絹業協會からは書面を送られて色々日本生絲の惡いことばかり聞いた、私は當時當局者にも言ひ、又當業者にも言つたとがある、夫から七年前の三十二年に亞米利加に行つた時は自らパタソンの機場を廻つて日本生絲の製造品のアラユルものを見て當業者に聞き、歸つて紐育の蠶絲業の輸入商に會つて聞いて見ると、日本生絲はどうしても經絲にならぬ、緯絲にしかならぬ、經絲は此通り切れると言つて實際機械で以て動かして私に見せた、如何さま彼が言ふ通り經絲にはならぬ、經絲を大きな機械で運轉するとケバ立つ、其ケバが織物になると甚だ見榮を損じ商賣品にならぬ、故に經絲には佛蘭西、伊太利の絲を使つて日本絲は緯絲に使ふ、どうか日本絲が經絲に使はれるやうに改良が願ひたいと云ふことであつた、それが三十二年である、それから歸朝後一週間經つて農商務大臣の官邸に蠶絲業の人を集めて其席で其御話をしました、迚も日本の生絲は經絲にならぬ、誠に慨嘆に堪へぬと言つたが、今度私は此席で諸君に齎し來つた所の土產は私は多くの國民に代つて感謝する所の言葉である、諸君も御滿足であらうと思ひます、今度も私は紐育の絹業協會の人に會ひました、先づ眞先きに七年前に會つた者に會つてさて日本生絲は相變らず經絲にならぬかと言ふと、今日は立派に經絲になる、日本人民が僅か五年の間に此通り改良したから私は日本の爲に貿易の發達、又は我々共は是から伊太利、佛蘭西の高い絲を買はず日本の安絲で經絲になることを喜ぶ、あなたに證言して見せると言つて被衣の絹で造つたのを見ると、經緯とも日本絲である、其品物を今度日本に持つて歸つて此間京都東京の絹織物に關係のある當業者を呼んで、是は果して日本の絲であるか否やと言つたら、皆是は日本絲に相違ないと言つた、其光澤の奇麗なことと、手觸りの柔いことと、又織上げた品物の奇麗なことは伊太利、佛蘭西の經絲で織つた絹物とチットも變らない、是は全く諸君の御盡力の結果であつて私は國民に代つて謝するのである、それで日本人は共同一致して蠶業の改良、又海外貿易の擴張と云ふことを一致してやれば何事も出來ぬことはない、今度の日露戰爭の如き即ち擧國一致でやつたから勝つた、そこで戰後經濟の戰爭に於ても諸君が共同一致してなされば私は外國の市場に於て橫行濶歩して日本の生絲業者は押通ることが出來ると思ふ、迚も伊太利、佛蘭西、支那の生絲業者が蠶食しやうと思つても出來ない、亞米利加人は當初より日本絲を使つて居るから之が惡くならぬければ宜い、今の儘で抑へて行けば宜い、職工も慣れて居れば技師も慣れて居る、只茲に諸君の御注意を願ひたいのは經濟の競

爭は詰り機械の改良にあり、製造法の改良發達にある、そこで今日本生絲が經絲緯絲になつて是で紐育市は我掌握の中に半分取つても又機械が進み染色、機械の方法が進んで行けば日本生絲も必ず夫に伴ふて進まなければならぬ、今の儘で經絲になつて宜いと安心して居つてはいかぬ、經濟の發達は西洋では生絲の發達改良より後れはしない、亞米利加人は機械を發明することはなか／＼長所であつて決して油斷はならぬ此點は充分御警戒を願ひたいと考へる併し兎に角日本生絲が經緯共に亞米加利製造の絹を我物にしたと云ふことは日本蠶絲業家の爲に私は大いに祝賀せんならぬと思ひます。

所て亞米利加には個々別々色々男女貴賤貧富の各人種があるけれども先きに御話した通り亞米利加人ほど絹物を理滿にする者は無いと思ふ、七年前に私が行つた時は段々亞米利加の貴夫人其他上流の人に聞いて見ると、日本で言ふ襦袢、下シャツは彼の國では毛織の下シャツを着て其上に襦袢を着る、是は大抵薄い木綿織であつた、所が今は過半日本の羽二重、又は日本から輸入した生絲で織つた羽二重の如き薄絹の襦袢を着て其上に先づ下着の「スカート」と云ふものを着る、又其上着にする厚い絹織物は從來里昂から來たものたけれども今では亞米利加で拵へる、そこで厚い絹織物も又薄い絹織物も皆日本の經緯絲を使つて居る、それから七年前に私が見た時は時計とか指輪とか其他の金銀細工、貴重品を入れる器は絹で張つてあつたが、其以外の品物は重にボール函と紙函であつた、即ち香水を入れる函とか菓子を入れる函とか或は石鹼を入れる函とか云ふものはまだ紙函であつたが、今日はそれまでが絹張りになつて居る、ちよつと物を紙に包んで上を括つて人に品物を遣るにも絹である、日本で水引を掛ける所は皆「リボン」である、絹物は十年前には亞米利加では贅澤物であつたが、今日は必要品となつて居る、昔から西洋には國の文明を判斷するには、砂糖の消費高に依ると云ふ諺がある即ち砂糖を餘計食ふ國は文明の度が高く之に反する國はまだ文明の度が低いと云ふ樣に之が消費高で各國の文明を判斷したのが、今日は又絹物の消費高に依つて文明の度を測量するやうになつて居る、それで絹物を餘計使ふ國は即ち文明が進だ證據である、砂糖の標準は陳腐今日は生絲が文明を判斷する品物となつて來た。

先づ蠶業國として世界に立つて居る國を數ふれは第一が支那、第二が日本、第三が伊太利、第四が佛蘭西、此四箇國が世界の生絲產出國である、此外多少小さい產出國もあるけれども、是は數量が少いから此四箇國と伍を同ふするとは出來ない、世界で使ふ所の絹織物の原料は此四箇國の占有物である、どう云ふ譯で造物者が斯く固定されたか此以外の國の蠶業は充分に發達せぬ、十年前二十年前の歷史を見ても世界中で第一に產額の多いのは支那である、其產額は茲に私は調べを貰つて居る、諸君は御承知でありませうが、私の說を確むる爲に申せば支那は一箇年に六百三十四萬九千基、其次が日本であつて五百八十二萬七千基、それから伊太利が四百九十萬基、佛蘭西が六十二萬五千基である、此表に據つて歐羅巴中の生絲の出來高を合せると五百五十二萬五千基である、日本は五百八十二萬七千基であるから殆ど伊太利、佛蘭西其他の國の生絲の產出高を合せて日本の小さな國で出來た所とオッカッでゐります、それで彼の國の國は勞働賃銀其他色々の經濟が日本より高い爲に彼の國で造つた絲は日本から行くやうな譯にいかぬから今の儘で日本の經濟を維持して行けば優に亞米利加の市場は取らるる、而して支那から行きは行きますが、まだ今日の支那の蠶業の有樣では日本はさう恐るるに足らぬ、さうして何が故に支那が今日本の强敵でないかと言へば、御承知の通り支那は四百餘州に分て居つて蠶業に熱心なる團體も無ければ協會も無い、只個々別々に所謂「五畝之宅樹之以桑五十者可以衣帛矣」と孟子が說いたアノ筆法で行けば容易に行くが、國家的觀念を持つて政府が力を盡すと云ふことは無い、只銘々作つた桑で蠶を飼つて居る、日本は之に反して終始政府の奬勵と當業者の熱心で成るべく一定の方針で海外貿易をやらなければならぬと苦心して居る、併しながら支那も日本の誘導に依つて文明の機械に倣はんとして居るから或は十年を出でずして日本と拮抗する力を得るや否やは分らぬが私はさう恐るゝに及ばぬと思ひます、それで先づ亞米利加の生絲市場は我日本の生絲業者の勢力範圍と見ても宜いのである、又亞米利加人も今日日本の生絲ぐらゐ我々が使つて利益の有る生絲は外に無いと言つて口を極めて賞讚して居る、十年前又は十年前は私は小言ばかり聞きましたが、今日茲に歸つて來て御報導するのは從往二箇年亞米利加に居つて當業者と話をした所は先づ小言は聞かずにドッか今の儘にして品質の惡くならぬやうにして貰ひたいと云ふのであります。

（未　完）

滿洲及芝罘に於ける柞蠶製絲業

通常會員　鹽谷清多郎

懸軍萬里、多大の國帑と數十萬の生命とを擲ちて救濟し得たる滿洲の土地と獲得したる巨大の權利とは之を開發保全し之を伸張統治して以て所謂極東百年の平和を劃策するは我が邦の責任にして亦戰捷の効果を完ふする所以の途なり、勿論滿州の土地其の物は平和克復の今日之を淸國に還付すべきは宣戰の本旨なりと雖、同時に我軍が百戰百勝の功を以て得たる利權は之を放棄し其の經營をも廢止することは毫末も爲すべからざることなり、況んや老淸國は尙未だ睡眠を覺破せず滿州の施政に弱し動もすれば他に乘ずべき機會を與へんとするに於ておや、由來滿州は獨り今回の戰役のみならず日淸戰爭に於ても我同胞の悲慘なる鮮血を濺ぎし地にして因緣は此所に緣山を有すること多く實に歷史上看過し得ざる處なり、今や戰勝の結果當然に得たる權利の下に鐵道あり、鑛山あり、尙租借地ありて經營に盡さざるべからざること多しと雖尙此の範圍以外に發展すべき餘地は涯際あらざるべし、聞說近來政府は滿州經營調査會を設け盛に經營の方法を討究しつゝありと之唯に政府當局のみの任に非らずして我國民の全力を要すべきことなれば等しく民間に於ても充分なる調査を遂げ研究を重ね愼重なる方針を確立し以て戰沒せる地下の英靈に酬

さざるへからず。

滿州の經營を缺あるべしと雖其の利源を開發するは最も要なる一事たるは論を俟たず、而して農産物中其の産額の巨擘たるは大豆及び製産物にして次は柞蠶業の地方なり、余が茲に序を追ふて記述せんとするは柞蠶業中山繭の製絲に關する實況にして滿州經營に焦慮せらるゝ識者諸君の一考に價するを得ば獨り余の光榮のみにあらざるなり。

余は筆頭先づ讀者に忍告せんと欲する一事あり、近來傳ふる處に依れば從來清國當局に於て柞蠶絲の製造に從事せる德華蠶絲公司は近き將來に於て滿州安東縣に分工場を設置し滿州産山繭を以て製絲に着手する計畫にて既に諸般の調査を終り近日株主總會を開き其の同意に依り差當り同公司の基本金中の一部を割き其の事業費に充つる筈にて斯業に經驗を有し且つ同社中敏腕の聞あるゾウラー氏之が設計の任に當り愈々設立の上は同氏之が支配人たるべしと云ふ、元來德華蠶絲公司は黑龍會約百萬圓の資本を有し獨乙に於ける知名の紳商及相場商の合資に依り立し青島を東北に去る五哩の地にある兪口（獨乙の租借地内）と稱する山東鐵道の一驛にあり原料繭は主に山東省内馬村栗際等に仰ぎ一部は安東縣地方より輸入せるものの如し、職工は清國貧民救助の名目にて年合十二三才より三十才前後迄の男女を募集し二ヶ年若くは三ヶ年間の契約にて雇入れ是れに衣食を給し外に一日個錢百文の手當を與へ繰絲に練習せしめ契約年限滿了の后は相當の給金を與ふ、現今使役せる職工數は見習職工を合せ約一千二三百名に達し毎月四十担余の絲を繰製すと云ふ。

又清國人にして安東縣に柞蠶絲の製造に從事せんとし目下計畫中の者二人あり、一人は芝罘の某事業家にして現に芝罘に於て之が工場を設置し精良の柞蠶絲を製造して滿洲市場に輸出し嘗てあり、他の一人は鳳凰城の某商にして製絲事業には經驗なきも柞蠶繭の買資取引に多年の經驗を有し原繭の買收には使益多かるべし何れも約十萬兩余の資本を投ずる豫定なりと云ふ。

以上は新聞紙か傳へたる風說に過ぎずして確實なる出所あるにあらざれは果して事實なるや否やを之を知るに由なしと雖、滿州産柞蠶繭に對し世人が注意を拂ふこと深きに至りたるは明なることなれば遠からず如斯事實を續々べからず、我軍の威光尚未た山間の僻隅にも現存し滿州人の多くは本邦人と結合して事業を經營せんことを希望せるの今日吾實業家にして慢然此の好機を逸せば獨り千載の遺憾のみにあらざるべし。

第一　原料繭の産地及産額

滿州中柞蠶を飼育して之が繭を産出する地域は南滿州一帶の地にして南北九十里西東三十餘里に亘り、西北は開原、昌圖に及ひ南は鳳凰城、海城、安東縣等の地方より鴨綠江沿岸を廻り、北方懷仁、通化、海龍に達し尚漸次北進せんとするの形勢を示せり、聞く十數年前迄は重に南部の一地方に限りしも近年之が海外に輸出するの量漸く增加し從て繰價も亦騰貴を來せし爲め大に斯業を勃興せしめ次次北部に波及し、或は叢密林に柞蠶を放飼し、或は柞樹の培養に留意するに至り産額增大して現今の如く昔日に倍蓰するの盛況に地界極めて狹く且つ調査的企圖を缺如せるを以て數字の據て來りしを追及せば證査なく妄りに放言を好む者として是れ又信ずるの價値無之候し只前者に比し業態を解し自己が當年の實況より推測し得るの理か勝れるは過きす、要するに產額の調査は不信を招きつゝ侮を受す屈せず多數の局面に探究を盡し以て諸說を綜合して之に斧鉞を加ふるの外なく左表は即ち如斯して推定せるものなり。

生産地名　　品種　　繭　　絲

安東縣其他	五〇〇〇〇（籠）	五〇〇〇〇（俵）	
蓋縣平	七〇〇〇（籠）	四二、四二四（俵）	
安東縣平	三〇〇〇（籠）	一、八二八（俵）	
蓋縣平	一、五〇〇（籠）	九、〇六〇（俵）	
計		一八、六六六（俵）	

備考　柞蠶繭は通常郷製に大小不定なる籠に入れ販又は荷造に便ゼリ一籠の數數は二万七千乃至万五三万五千乃至五万五千籠にて平均三千五百匁三百匁乃至三千匁の間なり絲及繭類は一包平六百瓩乃至千瓩

相當し八十俵の絲は繭二千頓より柞絲に得るものと假定す

是れに依りて見れば滿州に產する柞蠶繭は近年大約十一、二萬籠に達することを推定し得べし、而して繭一千顆の相場は日本東京一圓乃至一圓七八十錢平均約一圓二十錢位なれば一籠の價は三十九圓六十錢に相當し石今籠數は實に四百七十三萬九千餘圓となる南之を各品種別に見積るときは繭は百九十八萬圓、絲は一包二百圓とし二萬包にて三百萬圓、繭紬は一疋五圓とし一万五百包即ち約八萬疋にて四十萬圓にして總計約五百一四十萬圓の價額に昇るとを知のる。

以上は昨年度に於ける狀況を基礎として推定せるものなれ

を基とするに至れりと云ふ、近來清國當局者が重きを斯業に指き柞蠶飼育地には前子稅を課し繭及絲には皇稅、落地稅等の重稅を徵し以て國庫の源泉と爲すに至れり。

現今柞蠶繭の產地として著名なる土地は盛平縣、寬甸縣、鳳凰城、海城、安東縣は之に次き、遼陽洲、鐵嶺縣、昌圖府、開原縣は僅に之を產するに過ぎず、其の他復州、金州、懷仁、鴨江、輯安、興京、海龍等は一層僅少なるものなり、而して滿州柞蠶業の本場と稱すへき地方は盛平、海城の東方に當れる所謂東山と總稱せらるゝ地方にして花黃崎、塔紅崎、大頭溝、三柳山、潘家店、梨子園、接官廳、萬福井等之れなり、又鳳凰城州にては白家鋪子、小孤山、大房身地方、鳳凰廳にては雪裡店附近、湯山城附近、遼陽州にては大迷河、去河嶺、隆昌州以南の地方、寬甸縣にては二龍渡、疏子溝、石柱子、山岔子、小蒲石河、長甸、大蒲石河、地方安東縣にては紅石砬子、梨樹溝、舖板石、後小東溝、三叢臺鋼鐵嶺、虎見山、大平山、高麗橋子、長泡子、地方、懷仁縣にては大蒲石河、大平山、大林子等は主なる產地とす。

柞蠶繭の產額は何れの程度なりやとの問題は各地方官衙に付き聞知せんとすれば其の主管事務たる柞蠶飼育林地に賦課すべき剪子稅の如きも十數年來の舊慣を踏襲し年々增減あるべき林地の調査たも爲さるる狀態なれば年の氣候に依り豊凶著しき收繭額の如きは全く豫想だも爲さる所なるを以て稱れに正確なるものゝ如く裝ひ數字的の答辯を試むるに過ぎず、又當業者に之を糺さんとすれば性來多智なる彼等は直に之か答辯を爲すありと雖一般

ども元來柞蠶は自然の山野に放飼して人力の保護を與へることを難き事なれば之天候に左右せらるゝこと多く豐穣の場合は一把銭子一粗稅を徵收する爲めに便宜設けたる地租の名稱にして與方に依り廉狹一樣なれども約三千六百株の柞樹を生ずる廣さにして清國の三天地余戎一町一反廚後に相當す)に付四千乃至一千鶏の種繭を以て八九千鶏乃至十一二萬鶏の收穫を爲せども、因作の場合には僅に一二萬鶏に過ぎず其の甚だしきものに至りては收穫の勞を賈はざる爲め一鶏をも收めざることあり云ふ、豊因の差隔著大なる一斑を知るに足るべし、又絲及繭絁の產額は海外に於ける需要と滿州及山東省の供給との關係並に海外市場の變動に伴ひ之が價格に高低を來すが故に從つて產出に影響するを免れず、其の產額を增減するは常に觀る所の現象にして滿州柞蠶繭の輸出額の多寡は實に此の原因に據ることゝ頗る多しとす即ち絲又は繭絁の取扱貿易を以て且つ上海等不良の狀況にあるときは價格騰貴するを以て滿州各地に於て模製絲家抽出して繭を消費すること多く絲の產額を增大す故に繭の輸出は減少して絲又は繭絁の輸出を增加するも、なほ滿州柞蠶繭を利用せんとゝ欲せば須らく此の點に注意せざるべからず。

（未　完）

蠶桑文字私考

通常會員　丹羽四郎

蠶桑なる文字は業を蠶絲に執るものゝ日夕使用する所なるが、其の由來に就て深く論究せる人あるを聞かず、之れ實業界に於ける多少の不幸にあらずや、讀者少しく子が不敏を咎めず茲に私考を陳ぜしめよ。

雅曰、繰桑繭、蛾山樗蠶蛾繭（紀蠶繭）之を以て見れば蠶なる文字は二種の昆蟲の絲稍にあらずして、少なく繭を作る昆蟲の數種類の總稱たらざるべからず、即ち桑葉を食して繭を結ぶものを蠶と云ひ、櫟葉、柳葉、楡葉、蛾葉を食して繭を結ぶものを蛾山と云ひ、蕭葉を食して繭を結ぶものを蛾と云ひ、而して此等を總轄して蠶と稱すればなり、又上垣守國氏著養蠶秘錄（享和三年印行）にも「諸草木の葉に皆蠶あり、桑葉、水蠶、石蠶等の文字あり、之れ孰れも絲を吐くものなることを記せり、說文は蠶を釋いて「任絲」と云へり、蓋し絲を有するものの義なり、之れ偶々蠶なる文字が絲を吐出する多くの昆蟲に使用せらるゝに至りし動機ならむ、漢字に於ては蠶を取り文字蠶、蠶、蠶、蠶、蠶、蠶等數多あれども蠶の文字を以て正體なりとす、此の蠶なる文字を分解すれば天、曰、蟲の三字を得、而して天は飲食之氣が出出する象を有し、曰も亦口を開きて氣出づる象を有し蟲は蛇の一種なりと雖、

通俗蟲の意に用ひらるゝ以て茲には蟲の意を有すと見て可ならん、之れ見れば蠶は飲食せるものゝ氣（絲を吐示するが如し）を吐出する蟲の意を有し、氣は物質の本源なれば飲食せる物質を變じて其の純を吐出するを解するに至るべし、據て蠶なる支那文字はその絲を吐出する特徴によりて命名せしものゝ如し。

蠶は英語にて Silkworm 獨語にて Seidenraupe 佛語にて Ver a soie 伊語にて Filgello と其の語根の Zilli, Seidle, Sile, Ille等は皆「絲或は絹」の意を有せる語根なれば凡て絲蟲の義なり、之れよく支那の字韻に符合せり、而して以上の歐洲語は紙殺篇句語にて「絲或は絹」なる語 zeidon より來れるものにして、此の語根 zeidle は支那の「國」より來れるものなりと云へり、此等の歐洲語にての蠶はその「オリヂナル」の意味にては「支那の蟲」を有すと云へり、彼の生物の名法の創始者リンネー氏が蠶に名けし Bombyx なる語の云ふ意にして、現今見蟲學上「蠶」の名稱たる Bombyx なる語は其語根希臘にて Bombos にして「ヴヴ」する絹」と云ふ意を有し、獨逸より發する學説より創成せられたる語なり。

邦語は蠶を指して「かひこ」と云ふ、然して邦語「かひこ」には全く異りたる二樣の意味あり、一は勿論蠶を指すものなりと雖他は卵を指す語なり、掛取魚產著古言拾（明和元年印行）には「かひこと記し下に（鳥の子也卵）と書し、かひこと記し下に（かふこ吐絲蟲也）と釋けり、大槻博士の言海にも此の二語を擧げその廚なるものには、「蠶養蠶の義、蠶本名ことなり」とし後なるものには「卵、卵に同じタマゴ」と註せり、之に據て見れば「かひこ」なる語は蠶を意味する場合にありては、其の語根を語尾のこに有し、卵を意味する場合にありては之を語頭のかひに有すと云ふ、而して國語に、本居宣長の古訓古事記に據れば、大宜津比賣の神が速須佐之男命に害せられ、その屍體より五穀生出するの條、「於頭生蠶」の句に「カシラニカヒコヲナリ」と傍訓しあれども、此の「カヒコ」なる文字はクラシック語と見ることを得ず、それより遙か後代の述略天皇の時堺高に命し、國內の蠶を桑めさせ賜ひしに認って兒を桑め來れりと云ふことあり、又萬葉集にも皆かひこと記し、其他歌詞にてかひ等の文字あれども、一もかひこと記せるものあらざればなり、更にその下卷大雀命（仁德天皇）が三段の變化をなす奇蟲「蠶のことありとて、韓人奴理能美が家に行幸し賜ふ座に一度爲匍蟲、一度爲鳥、一度爲飛鳥、有變三色之奇蟲と云へる一節あり、その第二句の末語殼に傍訓して「カヒコ」と云へり、而して此殼は繭が偶々卵形なるより斯く呼稱せるものゝ如く、又言海には卵をかひと云ふは殼の義なりとあれば、蠶に殼と書して「カヒコ」と讀しめたるは卵の義なるや必せり、然らば國語に於てはかひこなる語は古は專ら卵の義の爲めに用ひられ、近世に至りてはかひこより轉じて蠶の爲めに用ひられるに至れりと云へり、而して古者蠶を「コ」と稱せしこゝは前文之を述べたれども、その如何にして「コ」と稱せしこゝは到りしや、之を本邦上古語に親密なる關係ある支那、朝鮮等の語に見るも、支那音は「ツァン」にして朝

解語は「メイ」なるを以て、夏にその關係を發見するを得ず、印度語に於ても「デシ」、「ボー」、「パト」等の語あれども、一定して一定の發音を有するものを存せざれば、「メ」は獨立の本邦語にして「兒」より其の發音を發し、「養ふべきもの」或は「愛すべきもの」の意を有するにあらざるか。

次に桑なる文字を見るに漢字桑はその木を呼び、邦語「くは」はその葉を名け、英語の Mulberry 獨語の Maulbeer 等はその果實を稱する言語にして、羅甸の Morum 及び希臘の Moron より來りし語なり、而して羅甸語にて桑樹 Morus も亦希臘の Moron に由來す、Morus 又「ゲルト」語「モル」より來ると云ふものあり、「モル」は黑色の意にして、蓋し桑果の色に由來するものなるべし、又「グレントンネター」氏は Morus は羅甸語 Mora 即ち「遲る」と云ふ語より變せしものにして、偶々桑樹の發芽は霜に遲れて出づればなりと云へり、實に Morus の第二義は「愚」或は「鈍」なるを以て此の說或は當を得たるやも知る可らず。

漢字は桑の外に桑、柔、姑、箒の文字あり、通俗桑と書す、說文之を釋して蠶食の葉と云、康熙字典桑の條に日初出東方、湯谷所、俘博桑叒木也、羅所、食神葉故加木叒下以別之と記せり、之を以て觀れば、叒は順なるを以て順木の意となる又桑の文字を分解するに、又は說文に據れば手也象形とあるを以て、手の象形文字たるやを知るべし、而して此ノ手形をなせるものを桑樹に供して見ると、其の葉の裏面には恰も人の手の形をなせるもの、故に予は文字上より見る時は桑は「手形をなせる葉を有する木」と云ふ意を存すと解せり、人或は余を以て强語にしかみしく侵れたかふとも我國が蠶桑の葉に「國の礎」を置くこと、ゆはれなきにあらざるなり。

「フオルマリン」の性質と價格

農學士
學藝委員　辻　暢太郎

純近蠶病消毒法の普及と共に「フオルマリン」の使用せらるゝ事甚だ多く、宋だ統計を明かにせざれども其類蓋し莫大なるものならん、今や其使用の好期に際する時に當れるを以て之か性質と價格とを講究する決して徒事ならざるを信す、即ち左に數項を掲げて當業者の考に資せんとす。

第一　「フオルマリン」の性質

「フオルマリン」は强烈なる消毒力を有する「フオルムアルデヒード」と稱する瓦斯の水に溶解したるものにして、刺擊性の臭氣を有する無色の液體なり、微量の「メチルアルコール」、蟻酸等を含有し、微酸性を有することあり、若し之を冷却するときは屢々白色狀沈澱を生ず、之れ「フオルムアルデヒード」の分子集合をなしたるものなり、故に越年せるフオルマリンは往々此沈澱を生ずることあり、又「フオルマリン」を加熱蒸發せしむるときも同樣の白色沈澱を生ず此沈澱は冷水に溶解し難きも熱によりて再び分解して、普通の「フオルムアルデヒード」となる、故に一度白濁を生じたる「フオルマリン」も少しく加熱するときは、再び透明となるものなり。

「フオルマリン」中の「フオルムアルデヒード」瓦斯と水との發散に就ては、坪井啓作氏に依りて精確なる研究遂行せられたり、此成蹟によれば、瓦斯の水に比し常に發散量少なく爲めに若し「フオルマリン」を大氣中に放置するときは、瓦斯のみ先づ發散し、此際は又蒸氣と發散するを以て、其瓦斯の絕對量は勿論減少するも「フオルマリン」の濃度は却て漸次進むものなり、之か詳細なる調査に至りては、他日同氏によりて發表せらるべきも今試驗成蹟の一部を示せば左の如し。

供試「フオルマリン」	「フオルマリン」濃度
一日間放置せる「フオルマリン」	三六、〇パルセント
二日間放置せる「フオルマリン」	三九、三パルセント
三日間放置せる「フオルマリン」	四〇、九パルセント
但し右は「フオルマリン」を蒸發皿に入れ、無蓋の儘常溫度の室内に放置し試驗せるものなり。	四二、〇パルセント

「フオルマリン」の性質概略右の如くなるを以て、使用上左の數項に付き注意せざるべからず。

一、「フオルマリン」使用の際白色乳狀の沈澱あるものは之を撹布用となさずして蒸發消毒に使用するを利益とす、何んとなれば此固形物を有するものは透明のものに比し有効成分

の分有量多き劣合に効能少なきを以てなり、然れども若し撒布用として用ゆるの止むを得ざる場合には稀釈液を水に代ふるに温湯を以てするを可とす、此の如くするとは此湯の熱の爲めに沈澱は分解して消失し透明となるものなり。

二、「フォルマリン」を空氣に曝露するとき、右坪井氏の試驗の如く濃厚となるも、其効力を減却することなるものなれば、久しく慎中に使用殘餘として保存せられたるものも、之れ盗一部當業者の誤解したる如く、決して無効若しくは効力減少のものと見做し、徒らに棄つべきにあらず。

第二「フォルマリン」の價格

「フォルマリン」には資品種々あり其價一定ならざると、單純の方法を以て品質の鑑定を為し能はざるとによりて、當業者は何れの會社に於て製造せる「フォルマリン」は、割合廉價にして品質優良なるを知るに由なく、唯高價の「フォルマリン」を以て有効成分に富めるものと信じて購入するを普通とす、余の研究によれば、最も高價の「フォルマリン」なる「シエーリング」會社製「フォルマリン」は其有効成分の含量最も多く、且つ其量常に略ぼ一定にして「フォルムアルデヒド」三十七パーセント以上を含有す、故に此「フォルマリン」を購入するときは、常に有効成分の含量三十七パーセントと見做して使用し得べきなり、而して他の會社製造の「フォルマリン」は有效成分の含量極めて不定にして必ず一分析試驗を行ひたる後にあらざれば、有効に之を使用することを能はざるなり、然れども當業者は普通「シエーリング」會社製「フォルマリン」を購入して使用するを以て、最も棄の得たるものとなすべきが如しと雖も、實際に於ては「シエーリング」會社製の如き其有効成分の含量價格の高價なるを怪まずして、購買者は其「フォルマリン」の常に略ぼ一定の濃度を有することに飽り多く仕拂ふの嫌あり、讀者左の表を見は思ひ半はに過きん。

種別	日粋	「フォルマリン」の代價	「フォルムアルデヒド」に對する價格
「フォルマリン」會社製	三八五一	一圓	二圓六十錢
同	三七一七	一圓	二圓六十九錢
「フルタ」會社製青色瓶詰	三八八〇	一圓二十六錢	一圓二十六錢
鳥居印茶色瓶詰	三七一七	六十七錢	一圓七十五錢
牡丹印茶色瓶詰	三五五〇	六十五錢	一圓七十八錢
三割島茶色瓶詰	三六一四	六十五錢	一圓八十錢
鳥印茶色瓶詰	三七三六	三圓二十錢	三圓二十一錢
「ヤマタフォルマリン」	三三一九六	一圓	二圓九十四錢

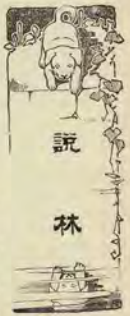
右表中一列の代價は明治三十四年九月東京市中の實價なるも以て、現今の價格は大に異なるしとは雖ども、各種フォルマリン相互代價の比例に於ては甚敢も変なかるべきを以て參考となすを得べし。

以上の事實なるを以て寸時も經濟上の觀念を去り能はざるべき當業者は、進んで有效成分の含量の知られたる「フォルマリン」を購入して、有効確實の使用を了一合せて、經費の逃減を計るべきなり、其方法は實に共同購入を措て他に之を求むべからず、即ち二「ポンド」瓶入「フォルマリン」は其價格最も廉なるものも、尚五十錢以上なり、然るに三十「キログラム」入大瓶の「フォルマリン」は、其價格一「ポンド」に付三十錢乃至三十五錢に相當するに過きず、之に加ふるに試驗場若しくは講習所に依頼して品質を鑑定するには、大瓶の共同購入をなすを以て便利とす、然らざれは實際に於て先づ「フォルマリン」中の有效成分の含量を明かにして後、之を使用すること能はざるを普通とす。

之を要するに「フォルマリン」は其性質として冷気に依り白色の沈澱を生ずるも、此物は熱を加へて容易に分解し、有效成分に復歸するものなれば、斯の如き「フォルマリン」は瓦斯消毒に使用するか、又は温に浴所に於て消毒に使用するなり、決して效能薄弱なるべしとて棄つべきものにあらず。

消毒後殘餘となれる「フォルマリン」も栓付瓶中に入れて貯ふるときは、其效力を長く保存し得べきものなれば、「フォルマリン」使用の際は浪費することなく、適量の使用を為すべきなり。

又「フォルマリン」購入には須らく信用ある商店に就きて大販人行し、「フォルマリン」試驗場若しくは講習所に依頼して、品質の鑑定をなし、其有效成分の含量を明かにしたる後使用し、以て其價格と品質とを比較して最も廉價なるものを撰ぶべきなり。



會員諸氏の寄稿殆からざるも紙面に限りある故爲めに折角の名論卓説も悉く削級し得ざるの憾のあるを以て遺憾其稿を送る又如の雄論を紙せられたる大家の高説等を抄録し時に評論を加へて讀者の參考に供せんと欲し聊か本欄を設けたるものなり。

人爲淘汰の理より見たる配偶選擇に關する我邦の習慣

理學博士　箕作佳吉

箕作博士は霍て東京學士會院に於て、人爲淘汰の理より見たる配偶選擇に關する我邦の習慣に就て講演曰く、人間社會に學術の應用盛んに行はれ、百事日進の今日易き此大切なる家畜動物栽培植物の進歩改良なくして可ならんや、學術は實に汲々として今日此改良を爲すべく研究に從事しつゝあり、現に農學の如きは其研究を爲す學科と見做して可ならん而して此改良に對し有力なる手段中最も大切なるは人爲淘汰の理にして、人爲淘汰とは即ち善良なる種子を擇んで之れを繁殖せしめ、其種を改良せしむるの方法なり、而して生物の

學理大に開けたるの今日人爲淘汰は、實に有力なる手段となり、單に改良のみに止まらず、殆んど新らしき種類を創り出し得るに至る、栽培牧畜に巧妙を得たる技師とは他にあらず此人爲淘汰の理を巧に應用する者を名けて技師とは言ふなりとて、我邦に於ては奇態にも此人爲淘汰の理は早くより了解されつゝありたりと見ゆ、彼の金魚の培養長尾鷄の飼養の如き、外人をして一驚を喫せしむ云々と述べ、更に東京附近の二合半と稱する早稲は、早く熟すると云ふ點を目的として、人爲淘汰を行ひたる結果にして、米人「ベル」氏は多乳頭にして雙子を生む者を選擇して子を産ましめ、遂に數年後規則として雙子を産む緜羊の種類を得、又同國人「ルーサー・ボンバンク」氏が乾燥したる沙漠に容易に生長し、無刺豐肉十分食料に適すべきシャボテンを新たに造り出したるが如きは、即ち人爲淘汰の理が如何なる效果を家畜動物栽培植物に及ぼすかを示すに足らん、と說き、最後に我邦の華族は妾腹多きことなるか其妾の選擇は主として美醜に在るを以て、永き年月の內には世に所謂華族面と云ふ者出來多少平民よりはノッペリして奇麗なり、即ち選擇の際容貌の美醜に意を用ひたる人爲淘汰の結果に外ならずと斷じ、我邦の配偶選擇に關する古來よりの習慣は、知らず識らずの內に成立したる者なりと雖も人爲淘汰の學理より見て夫に取るべき所あるべし、其長所は今后に於ても決して之れを捨てず、美醜財産等に重きを置かずして其人品爲人に重きを置くことにしたし云々、と論せられたり蠶兒の種類改良に苦心せらるゝの士は大に參考と爲すに足らん。(學藝雜誌第二百九十三號抄錄)

日本蠶業の特徵

農學士　石渡繁胤

石渡學士は日本蠶業の特徵と題し、溫帶蠶業夏秋蠶低溫度の利用桑樹栽培飼育製絲等の各項目に別ち、其所謂特徵とも稱すべき點に就て、種々論述せられたる後ち、歐州より歸朝の際報告せられたるものを引用して、本邦の生絲は其品質に於て改良すべき點あるは勿論なりと雖も、之れを輸出して利益を永く維持せしむる方法を採るべきは最も必要なることに屬すと說き、更に原繭の貯藏に困難なること、揚返の手數を要すること、多くの生絲運搬費を要すること等の理由は我が生絲の價格を高騰せしむべき主なる狀態なるを以て、今日の計を爲す、須らく原繭の價格を低廉ならしむると共に、製絲工費を減殺して尙ほ能く現時の製產品位に少からざる生糸を製出するの方法に據らざるべからず、而して原繭の安價は飼育の普及と其方法の簡易なるとによりて期せらるべく、工費の低廉は繭の品質を改良すると品種の雜駁を避くるとによりて望むを得べし、何となれば原料佳良にして繰絲容易なれば工費を節約すること大に、品種雜駁ならざれば生糸の品位も一定すべければなり、又工女の技術を進め特に其職務に忠實ならしむるが如きは、工費節約上の一大主眼なるか故に、努めて忽諸に附せざるを要すと結論せられたり。(蠶業新報第百五十五號抄錄)

シラガ太夫絲染色試驗に就て

小熊正勇

天地間に存在する物體は其利用だに宜しきを得たらんには何物か能く人類の爲めにならざるものやあるとて、小熊氏はシラガ太夫絲に就て、之れが染色試驗を試み、一文を草して謂ふ、世間に於てはシラガ太夫絲のみならず、凡ての野蠶糸に對して精練の工程を經て後ち、漂白又は染色するを普通とすれ共、予の試驗に依れば寧ろ精練の工程を爲さずして鹽酸漬を爲したる儘漂白又は染色を施しゝ者は、光澤又は趣味等に於て精練を爲したるものに比し勝るとも劣る處なし、故にシラガ太夫絲に於て處理誠易き濃色を得んと欲せば、單に鹽酸漬け染色すべく、又薄色鮮明の色を得んと欲せば、鹽酸漬けの儘漂白したるものを用ゆべし、而して該絲の特性とする處は一種特別の光澤を有して能く毛に類似し、水を彈くの力ありて、容量の割合に重量輕し、故に此點を利用して織製法を攻究せば、或は以て優美なる織物を製作し得ん云々、然り氏の所說の如く假令纖細の徵と雖も巧に之れを利用せば吾人々類に益を與ふるもの決して鮮少にあらざるべし、況やシラガ太夫絲に於てをや。

時勢を論ず

加藤勇次郎

加藤氏は時勢を論ずと題して、滔々數千言を費されたるか中に云ふ、今や日露の國交舊に復して世は太平なるが如しと雖も、國家は多大の內外債を有し農民は昨年稻作凶歉の影響を受けて、事態頗る容易ならさるものあるが如し、夫れ此際之れに處するの良策なきか、只一あるのみ蠶絲業の改良發展之れなりとす。

予輩甞て橋本重兵衞氏の說を引き、本邦主要の物產たる米作は、將來外米輸入の打擊として僅に農家の食料を自作する悲境に陷へるなきを保せずと論じたることありしが、爾來僅に一年を經過せざるの今日業に既に其現象を呈し來らんとは去れば將來續々稻田を變じて桑園と爲すに至るも、亦た止むを得ざる事ならんか、兎に角天候の順不順に拘らず、年々必ず優美の繭層を收得し得るやう銳意之れが改良に努ずんばあるべからず、而して予輩は養蠶家に次の數語を呈せんと欲す曰く(一)蠶兒は素と野生の蟲なりし(二)飼育の原則は蠶兒の健康を害せざるに在り(三)健母は健兒を產む故に專ら蠶種の撰擇に注意せよ、夫れ此三點に注意して養蠶を經營せば、改良發展の效果を收むるもの亦た容易なるものあらんか云々、稻田を桑園と爲すの議論には反對者多からんも、兎に角現時の養蠶業は大に改良を要すること氏の所論の如し。

苗圃霜除の新法

林學博士　本多靜六

本多博士は如是我聞錄と題し、種々有益なる事柄を紹介せ

敢て蠶業家に檄す

江藤貞四郎

江藤氏は敢て蠶業家に檄すと題して曰く、春蠶の發生時々刻々に迫り養蠶家の活動すべき時期は愈目睫の間に迫れり、知らず全國二百餘萬の養蠶家夫れ如何なる準備をか爲しつる。

昨年は蠶種の掃立過多に失して而かも桑葉の供給之れに伴はず、剰さへ壯蠶期に及んで、淫雨連綿遂に其結果は失敗の二字に終りたり。氣候の不順亦如何ともすること能はずと云はゞ云へ育蠶術の進步したる今日曷ぞ不順の氣候に打ち勝ちて優秀の好果を收め得ざるの理あらんや。若し夫れ桑葉の多寡を考ふることなく徒に掃立を增加するが如きは、無謀も甚しく心ある者の斷じて與みせざる處なり故に蠶種の掃立は必ず自己の桑園に鑑み、而して桑園の肥培耕耘を怠る勿れ、之れ實に一小些事の如くにして、而かも富國强兵の大原動力なることを記憶せよ云々、と江藤氏の警告眞に之れ味ふべきの言當業者幸に昨年の轍を履む勿れ。

韓國の蠶業に就て

難波庸

難波氏は韓國の蠶業に就てと題し曰く、韓國の蠶業は今尙ほ幼稚の域に在るも、乍併今や官民共に斯業の忽諸に附すべからざることを悟り、其熱度漸く高からんとするの傾向あり更に統監府の獎勵せらるゝあらば其面目を新たにするの時期も亦た案外に速かならんか、……兎に角其政策の如何に依りては時に或は憂ふべきの狀態に陷へるなきを保せざるなり。

夫れ世界の蠶絲國として自任する本邦に於てすら、蠶業敎育を受けたるの徒が、往々地方に往て失敗を招きたる例に乏しからざるなり、若し夫れ萬事別天地なる韓國に亘り、能く彼の狹隘なる溫突室に、蠶兒を飼育して好果を奏し得るや否や、大に疑はしき事なりとす、或人曰く韓國の蠶室は爾後少くも十五ヶ年間は此儘に爲し置くより外なからん、何となれば殖林の事皆無にして造るべきの材料なきが故なりと、將して爾らば之れが普及獎勵の策としては、先づ溫突室に就て飼育法の研究を爲し、傍ら文明の轉換に依り子弟の敎化を爲すは刻下の急務にして、而かも秩序的の策なりと信ずるなり云々、今や韓國の蠶業に着眼する者甚だ多きが如きも、充分調査に調査を重ね能く彼地に適するの良法を見出して後ち、施設經營すること安全なり、難波氏が溫突室に就て飼育法の研究云々と云はれたるも亦た一理あることなり。

上簇法に就て

岩田庄左衛門

岩田氏は上簇法に就てと題して曰く、大日本蠶絲會報第百六十五號所載、山本祐安君の繭の解舒に就てゝふ論說を讀み頗る同感に堪へざるものあり、實に上簇法の改良は刻下の急

られつゝあることなるが、苗圃の霜除の新法なりとて記して曰く、寒地に於て苗木の養成を爲す場合には、完全なる霜除法を研究すること頗る必要なり、余は嘗て多摩川の上流ぶな帶の中央部に於ける苗圃に於て、二三年生スギ、ヒノキの床替苗圃に各種の霜除法を試みしに、最良の成蹟を得しはモミ、ヒノキの生枝を二三尺の長さに伐り取り、之れを床上苗の間に屋瓦狀に斜めに深く挿し込み置く方法ありしが、信州二見附近の長野縣設苗圃に於ける成績は、松の生枝を挿すもの最良なるを認めたり、其方法は原野に野生せる赤松の枝先を一二尺の長さに切り取り、之れを苗圃一面に挿すものにして、此松葉は乾くに從て剛くなり、雪降れば其間に落ち雪なくして寒き時にも光線地上に直射せざる故、雪の融解するとなきにより霜柱の害なし、……從來行はれたる葭簀其他多くの霜除法は、或は雪の爲めに倒され、或は春季雪解の際、苗の腐敗(特にヒノキに多し)する恐れあるも、此枝葉の霜除は其患を除き得べきものなり、蓋し此法は最も能く天然に林中に生ぜる苗木と同樣なる保護を受くるの理なるによるべし云々、ヒノキ杉等の苗圃は松の生枝を挿入して霜害を防ぐの良法なること博士の所說に依りて知ることを得たり、年々霜害の爲めに多大の慘狀を受くる桑園には、燻烟法の外に他に簡易なる良法を發見すること豈緊要ならずとせんや。(大日本山林會報第二百七十九號抄錄)

所謂無吐絲蠶に就て

坂入謙

坂入氏は所謂無吐絲蠶に就てと題して曰く、蠶兒老熟し結繭するの期に際し、體軀徒に肥滿して一種の光澤を呈し、食桑の念を絕つことなく、飼育日數永きに亘りて、終に吐絲結繭せず、其儘斃死する者あるは抑も病的作用に依るか、嘗て矢島富治氏の質問せられたる無吐絲蠶なるものは、予の所謂無吐絲蠶と同一のものと思惟することとなるが、石渡學士は之れに對し特別の病原とするものなきも蛆害に罹りたる蠶兒は、質問の如き狀態を呈することあり、又他の原因に依りて體內の絲線損傷し、遂に吐絲せざるとありと答辯せられたり、然れども予が實驗に徵するに、夏秋蠶又は四化蠶の如き、蛆害絕無の時に於ても、尙ほ能く之れを生ずるより見れば、蛆害の爲めにあらざる事瞭かなり、又此無吐絲蠶になるべき徵候を呈する蠶兒あらば、屢々乾燥せる蠶座に移し給桑を絕ちて、悉く脫糞せしめ、約一晝夜間經過の後ち上簇せしむれば、概ね結繭するを以て之れを絲線の損傷と斷ずるは少しく受け取り難きことならずや云々、此無吐絲蠶なるものは土地に依り桑ゴロッキ桑坭坊等其他種々名稱を附して養蠶家の最も忌む處のもの氏の說も一理ある方法の如きも面も斯くして尙ほ結繭せず斃るゝの蠶兒亦た時からるゝが如し、充分に之れが研究こそ最も望ましきことにあれ。

務なるが子が年來の實驗に徴すれば。蠶箔の上に籠を覆へ其上に鐵網を敷き、折簡（俗に島田簀）を排列し、蠶を上簡營繭せしむべし、而して上簡後二日目午後に至り、蠶を掃去し、蠶の糞屎を漉らし終りたる時、網を以て簡を上げ、蠶を撤去し、蠶箔を裏返して靜に其上に平置す、斯くするときは自然に空氣の流通宜しく、結繭迅速にして且つ蠶兒絲に比べ平らか、絲總乾燥すると以て、色澤鮮美所謂佳良、更に繭質を害するなく繰絲容易にして、良絲を多量に製出する を得べし云々。

技術家に英語研究の必要

前田武四郎

前田氏は技術家に英語研究の必要と題して曰く：余の英京を去るや佛を過ぎ白耳義を經、瑞て錫遜伊太利を横ぎりて行々蘇士を過り、錫蘭を訪ひ、新嘉坡香港に寄港し、更に上海に轉じ、日本に皈れり、此世界表面の過半を横斷する長き旅路に於て感歎に堪へざるものは實に英語の勢力なりとす、英語さへ差閊なく話し得れば世界の要地何れに行くとして、些の不自由を感せざるなり、英語は今や實に世界的言語として特に商工實業者の對得せざる可らざる必要語たるを覺へしめたり……今や日本か舊時の日本に非る事は何人も既に知了する處、吾々か手腕を伸ばす可き地は滿韓にあり、支那にあり、遼疆、安南、比律賓にあり、日本人か慧巧にして信賴するに足るべき工業上の價値は、英米の人既に之を認めたり、遠く遥羅、マニラの邊よりして我技師の招聘を望むもの年々多きを加へんとす、支那に於ける需用に至りては云ふ迄もなく甚盛なり、近き將來に亘りて、只茲に至難の事柄の招聘に對して應ずべき資格あるもの、吾邦技術家中に甚少きの一事なり、諸君は本業にかけては皆專門の技能あるもの、其點に就ては十二分なりと雖も、外國語の一般に至りては頗る疑なきを得ず、支那に行くも、夫れ英語を語ふ能はざれば絶に驚し、若し夫れ英語を働きをすら出來兼ねるなり、一英語智識の不充分は單に工程の上に於て能率を減ずるのみならず、最甚たる其物に千載一遇の機會を逸せしめんとす遂に大息の至りなら ずとせんや云々、

さなり英語は世界の共通語とも稱すべきもの之を知らずして焉ぞ能く時勢と共に推移するを得んん、海外貿易の巨擘を以て自任する蠶絲業に從事するの士、大に之が研究の必要なき乎。（工業雜誌第三百十四號抄錄）

日本戰勝の原因

「トルストイ」

日本が露國に勝てる原由に就て、同國の碩儒「トルストイ」伯は次の如き評論を試みたり、日本人は露人の弱きが爲めに勝てるにあらずして、日本は現在に於て世界一の最强邦（海陸共に）なるが故に勝ち得たり、而して斯く日本を强からしめたる原因に四あり、其第一には學術的の改良刷新を擧げざるべからず、此學藝の進歩は曾て耶蘇教國が非耶蘇教國に對して勢力を振ひ得たる處の大動力なるが、日本人は其御得の驚くべき同化應用の力を以て、此學術的の改良刷新を軍事上の技術に適用し、此點に於て耶蘇教國民以上の成績を擧げ得たり、第二には日本人は現今の耶蘇教國民に比較して、天性よく多く無狂熱なる戰時愛國心……切耶蘇教國政府の政治家は之を國民の心性に鼓吹し、人民をして、……居ることなるが……此愛國心は强烈なる勢力を以て日本人の間に潜在し居れり、第四には高國何ぞ能く……御門の絶體の權力には、尚迄も服從し居るが故に、日本人の民力集注の勢は、遂に他國民に超絶し居れり、……而して伯は最後に斷案を下して曰く、日本人は耶蘇教徒にあらざるを以て偉大なる利益を受くと、又更に一個の進論を爲して曰く耶蘇教國を援へすに至るべし、此革命は耶蘇教を援へすに足るか、死に角日本人の一致團結には惑るべき勢力の有ることを忘るべからず、故に金子男は云ふ、日本人一致結合すれば如何なる事柄も能く爲し遂げ得る能力を有す、紐育市場に於ける日本生糸が伊、佛、清の生糸を壓して、勝者の位置に立てるも、歸する處蠶業家が國家半業てふ觀念を以て一致能く改良を爲したるに因る者なりと、然り吾人は蠶蠶絲業家の一致結合を望んで止まざるなり。（工業雜誌第百十三號抄錄）

夏秋蠶專用桑園の必要及其仕立法に就て

正木利三

正木氏は曰く、夏秋蠶飼より製造したる生絲は、第一强伸力に乏しく、纖度不整にして趣味亦惡しく、品質不良なれば之れを春蠶の生絲に混して海外に輸出する時は、日本生絲の價格を壓落し、我國貿易上尠からざる不利益を生ずるの嫌ひありとて、數年前迄は之れを排斥せんとする議論一部當業者に依て唱導され、而かも其勢ひ侮るへからざるものありしも、時運進歩は斯かる迷想論を排して、其飼育年一年に旺盛となり、前きの排斥論者今却て其利を說くの者觀を呈するに至れり、實利の存する處素より正に然かあるべきことなれども、唯春蠶桑園のみを以て一年數回の飼育を試むるが如きは、其しきに誤りにして、其本亂れて末治らざるに至らん、豈案心すべきことなら ずや、故に予は夏秋蠶の專用桑園を仕立るの急務なることを絶叫せんと欲す……而して其專用桑園としては魯桑を仕立るを可とす、魯桑は根取苗と實生苗と其何れなるを問はず、何れの地方にも適するものと認む、併し實生は多く變種すれども、根取に比し業形小さく、薄くして葉質長く硬化せずして、滋養分多き故に、近時大に賞用せらるゝに至れり……植付の本數は地味と種類に依り一概ならざれども、八百本乃至二千四百本とし、秋季落葉後又は春季發芽前乃至は春蠶二眠の頃、敢桑し伐採し、厩

後繁茂せるものを夏秋蠶に用ゆべし云々。

製絲に於ける營業決算の方法に就て

岡村龍七郎

岡村氏は曰、營業上の帳簿は營業の歴史なり沿革興廢の蹟歴然として見るを得べし、世間幾多の營業者に就き家産の衰運を來すものゝ非蹟を探求するに、多くは帳簿の明瞭を缺くに起因するもの多きを見る、殊に製絲業に於て農も然りとす……甚だ其技術の幼稚なると營業機關の不完全なる譏に陥せざるべからず……製絲業者は繭問屋と生絲製造業と七五分の業合に發生せざるべからざるものなれば、業務に於ては一方に偏することを得ざると同時に、帳簿面に於て其の境界線を明然劃立せざるべからず、即ち生絲の仕入と製絲業との成蹟を帳簿の締め上げに於て分明ならしむるの必要あり、以下其の方法に付き少しく述べんとす。

賃挽組織としての決算　同一營業主の管理に屬するものに在ても繭庫と繰絲場とを別個の營業の如く見做して、毎日其の挽上石數に應じて相當の賃錢を仕拂ひ、製絲場に於ては其の賃錢を以て營業を續行し、年度末に至り兩々各損益を決算するにあり、如斯せば一目して其の營業の成績を判知するとを得べし、茲に他人をして工場を管理せしむるか如き場合に於ては能者紋簿者共各其責任を明にするを得て、誠に骨折りかひのある事となり、一層の勤勉と一層の親切とを增さしむることを得るの利ならん。

隨時原料を仕入れる組織としての決算　此の法に於ては繭庫に於ては時價にて繰糸場へ賣却したるものと假想し、製糸場に於ては繭問屋より仕入を爲し生糸を製造して之を販賣する迄の計算を爲し、兩方共獨立の營業の如く認定し決算を行ふものとす。

前者の場合に於ては工場の維持は全く工賃の範圍内に於てし、原料及製品の相場は少しも關係を保たしめざるものなり、後者に於ては兩方共獨立完全の營業と見做すか故に相場の昂低に付ての負擔は互に分擔せらるゝか如くなるものにして、將來製糸業か此の方針に向て進まんとする傾向を有するものなれは、其れ〳〵各自工場の病弊を探つて之を治療し以て製絲業をして富益の安きに置かんと欲せは是非共之を斯業の歴史たる蠶業帳簿に求めざるべからず云々、獨り製絲家のみならず殺桑養蠶に從事する者にして能く帳簿の整理を爲す者稀なり否知と雖大部分の人々は帳簿の如き之れを捨て、顧みざるを常とす、之れ豈蠶絲業界の一大缺陥ならずや。

こかね女か日毎〳〵にわせ蚕の
めはえにこゝろをそゝぐ頃かな

宗重　雅樹

第一回總會錄事

總會の光景

戰後の經營として蠶絲業の大發展に全力を傾注すべく其組織を變更して社團法人となしたる本會は、四月一日を卜して其第一回總會を東京市赤坂區溜池町三會堂に開催せり、時恰れ東臺の櫻時に三分の紅を溜せんとして桑芽亦將に綻びんとし、春色盤蕩其年中の最好期節たるに、例に依て蠶絲會日和は彌が上にも晴れ渡り滿天一點の曇りだになく、日麗かに風柔かに會員の曉天より喧々として來會する者陸續流石に廣き堂内も殆んど立錐の餘地なき迄に詰め掛けたり、斯くて午前十時となるや、背て遼東の野に南山攻略の偉功を奏せられ名名遠く海外に輝かせ賜ふ總裁伏見宮貞愛親王殿下には陸軍大將の御正裝にて、車馨龍々御機嫌最も麗はしく成らせ賜へなるを以て、松平會頭以下役員は玄關に整列して奉迎し、君ケ代の奏樂と共に御休憩所に入らせられ、役員一同に拜謁を賜はりて後松平會頭の御先導にて階上なる會場に御臨場遊ばさる、此時再び君ケ代の奏樂あり、一同起立最敬意を表し、殿下御着席あらせらるゝや、松平會頭は嚴恵な體度を以て之れより總裁殿下の台臨を仰ぎたる本會は名譽ある第一回總會を開會すと宣言し夫れより殿下には左の御令旨を御朗讀あらせられたり。

令　旨

本日茲に本會第一回總會に臨み親しく會員諸子に接して蠶絲業の情勢を聞知し且多年斯業上に貢献せる者の功績を表彰するを得るは洵に欣悅に禁へざる處なり

今や我邦戰捷の結果武威四海に顯揚せりと雖も其富力に於ては歐米諸國に比して尚遜色あるを覩る是を以て富力の增進を期するは刻下の急務なりと謂ふべし然るに本會は富源の涵養に最も適當なる蠶絲業の改善發達を圖るを以て本領となせり實に今日は本會が盡瘁すべきの時なり會員諸子深く茲に鑑み一層奮勵して斯業の爲めに一進境を啓き以て國家の隆運に資せんことを望む

明治三十九年四月一日

大日本蠶絲會總裁
大勳位功三級貞愛親王

亞で松平會頭には殿下の御前に進み左の答詞を朗讀せらる

答　詞

維時明治三十九年四月一日本會第一回總會を開設するに當り親しく總裁殿下の臺臨を辱ふし積年蠶絲業に盡力せる者の功績を表彰せられ賜ふに優渥なる令旨を以てせらる詢に感激の至りに堪へざるなり抑も本會は創立以來十有五年の星霜を經過せりと雖も其基礎を鞏固ならしむる爲め組織を改め社團法人と爲したるは實に客歲に在りて本年は即ち其革新以後に於ける第一年なりとす然るに時勢の進運は茲に一大變革を來し今や朝野擧て國富の充實に全力を傾注せざるべからざるの機運に際會せり國家の富資を蠶絲業に依て求めとんする本會の責任は一層其重きを加ふるを覺ゆるなり此時に當り殿下特に台諭を下して會員を督勵せらる正直等不敏と雖も誓て台諭を遵奉し戮力協心益々斯業の改善發達を圖り以て國家の福祉を增進することを期すべし會員一同に代り謹で茲に答詞を奉る

明治三十九年四月一日

大日本蠶絲會會頭　正三位勳一等男爵　松平正直

右終るや理事吉池慶正氏は三十八年度に於ける業務成績を報告したり其要領左の如し

業務成績

總裁奉戴

本會は定款第二條に依り　皇族中の御年長者にして日露の戰役に赫々の武勳を揚げさせられたる伏見宮貞愛親王殿下を總裁に奉戴の儀を懇請し奉りたるに直に御容諾あらせられ令旨を賜はりたり、實に是れ本會が九鼎大呂の重きを爲したる所以にして本會の光榮之に過ぎず、其後麴町區紀尾井町御殿に於て會頭、副會頭、理事及評議員に拜謁仰付けられ且午餐を賜り難有御言葉に浴したり、斯くも特殊の恩遇を辱ふしたるは會員一同の感激措かざる所なり、就ては益斯業の發展と本會の隆盛とを期し殿下の御眷遇に酬ひ奉らさるべからず。

定款の許可

時勢の進運は本會をして大發展を促すと同時に基礎を鞏固ならしむるの必要を生ぜしめたるを以て、評議員會に諮り社團法人と爲すことゝし定款を具して主務官廳に出願したるに八月十四日付を以て許可せられ、茲に本會の組織に一革新を來せり。

全國蠶絲會の合併

全國蠶絲會は多年本會と竝立して蠶絲業上に於ける組織機關の改善を標榜し貢獻せる所多かりしが、時勢は斯業界に兩會の存在するを不利なりとし無條件を以て本會に合併することを交渉せるを以て、本會は襟度の落々たるを諒とし喜て之を甘諾せり、蓋し是に依りて無形の勢力を加へたること尠からさるものあらん。

第十四回大集會

四月九日東京市赤坂區溜池町三會堂に開設し、積年蠶絲業上に盡瘁せられたる名士佐々木長淳、速水堅曹、下田伊左

衛門、山田修、「パヴィエール」等五氏の功績を表彰し金賞碑を贈與し併に群馬縣富岡製絲場工女田宮かめ外十九名の功勞を賞せり、式後日本興業銀行總裁添田法學博士外四名の演說あり參會者多く頗る盛況を呈せり。

第八回品評會

戰捷紀念として十一月一日より七日迄一週間本邦第一の靈地たる伊勢國宇治山田町に開設せり、之か顧問は三重縣知事有松英義氏外一氏に、事務委員長を足立丈次郎氏に、事務委員は增子德之助氏外五十一氏に、審査委員長を松永伍作氏に、審査委員を石渡繁胤氏外八氏に、協議員を村井恒藏氏外二十五氏に囑托せり、會場は度會郡役所を以て之に充つ、本年は蠶作未曾有の不況なりしにも拘らず、其出品區域は一道三府三十七縣に亘り出品總點數一千九百四十九點にして實に空前なりとす、而して嚴正にして詳密なる審査は各部を通じて一等賞四點、二等賞二十七點、三等賞百三點、四等賞四百四十八點を選めり、最終の日に擧行せる褒賞授與式には參會者多く頗る盛況を極め、特に總裁殿下は優渥なる令旨を下し會員を激勵し賜へり、又此時一等賞を得たる繭二點、蠶種一點、生絲一點は辱なくも天覽の光榮を擔へり、是れ獨り受賞者の至榮なるのみならじ深く本會の名譽とする所なり。

歐洲に於ける日本帝國著名製絲名鑑配付の反響

米國聖路易萬國博覽會に出品の目的にて調製せる製絲名鑑は該博覽會より金賞牌を贈與せられ、多數の當業者より賞讃を博したることは既に前年報告せる所なるが、之と同時に歐洲方面に配付したる反響は漸く相顯はれ、世界絹業の中樞たる佛國里昂の製絹業組合長「ハボアレ」、同蠶絲商組合長「モレル」兩氏より同組合員を代表したる感謝狀を同所駐在の領事の手を經外務大臣を通して送付し來れり、又瑞西名譽領事「アルノルド、ウヲルフ」氏よりも同地當業者を裨益するに尠少ならざる旨の謝狀を領せり、又此擧が直接の原因をなせしや否やは保し難しと雖も本邦生絲の直輸入なき澳國より生絲取引の注文に接せるは本會の滿足を表する所なり。

戰後蠶絲業發展に關する建議

本邦の武力は日露戰爭に於て宇內に發揚せるも、富力は未だ之に伴はず、富力の增進は主として生產の發達輸出の增殖にあり、茲に於て乎蠶絲業の振興發展は戰後經營の最大急務なり、本會は深く茲に鑑み蠶病豫防經費を國庫支辨とすること蠶業講習所を擴張し特に夏秋蠶の研究を行はれたること、桑園の改良增殖を獎勵すること、養蠶製絲に關する經濟的組合を組織する者に國庫より補助を交付せられたること等を農商務大臣に對て建議したり。

會員異動

入會者	一千五百四十名
退會者	二百二十八名
死亡者	三十四名

退會及死亡者を控除し增加せる會員の數は實に一千二百八名なりとす。

會員現在數　八千八百七十五名

名譽會員	十三名
特別會員	三百三十九名

通常會員　八千五百二十三名

幾次に於て各會員數は右の如くなるが、本年三月末現在會員は別に九千五百六十一名なりとす。

役員、議員及委員

會頭	一名
副會頭	一名
理事	五名
監事	二名
評議員	三十名
學藝委員	三十八名
地方委員	百四十四名
名譽通信委員	十七名
通信委員	十四名

參事及理事の選擧

參事定數廢止、本多岩次郎の二氏滿期となりし折柄、定欽規定の該全部改選の要に迫り上、便宜上從來の役員を理事とし第一回總會後の第二回評議員會に於て改選することゝし何れも承諾を經たり。

會頭　理事　男爵　松平正直
副會頭　理事　農學博士　沼匂鷲明
理事　紫藤章
理事　本多岩次郎
同　佐野理八
同　益野長太郎
同　吉池慶正

監事の選擧

定欽第二十三條に依る二名の監事は九月六日の評議員會に於て選擧することゝなり、第一回總會後の第二回評議員會開設の任期と會頭指名設に決せしなり。尚、會頭は高橋新吉、加賀山長四郎の二氏が擧げられ各其承諾を得たり。

評議員の選擧

本會評議員今四度次郎外十八氏は任期滿了となりたるを以て其後任の選擧は本會第十四回大集會に於て會頭の指名に決し會頭は左の諸氏を指名せられ夫々承諾を得たり。

農學士　針塚長太郎　農學士　林鶴作
伊藤富次郎　伯爵　正親町實正
羽田技之進　農學士　本多岩次郎　高木三郎
農學士　加賀山長四郎　高橋新吉　五名
角田宮右作　法學博士　柴田荒蔵　男爵　船越衛
下田伊左衛門　農學士　紫藤章

定欽改正の結果評議員全部改選の必要起りしが、便宜上從來の評議員を第一回總會定欽改正を諮はることゝし、其承諾を得たり。

學藝委員の嘱託

本會定欽の改正に伴ひ委員規定第一條に依り今四度次郎外三十七氏に學藝委員を嘱託せり。

名譽通信員の嘱託

伊國パドヴァ養蚕學習所教授たるクヴロヤー氏は獨逸で蚕學に精通するの令聞あるを以て本會は氏に名譽通信員を嘱託せり。

地方委員の嘱託

本會定欽の改正に伴ひ委員規定第三條に依り石川國太郎外百四十三氏に本會地方委員を嘱託せり。

滿韓地方蚕絲業調査嘱託

本會特別委員にして長野縣諏訪代議士たる綿絲光太郎氏は滿洲の作蚕及韓國の蚕絲業調査の目的を以て渡航せらるゝに付本會は特に之れ調査を嘱託したり。

功績調査委員の嘱託

十二月十二日の評議員會の議決に基き本會々員は針塚長太郎外四氏に功績調査委員を嘱託したり

蚕絲業生產品輸送及運賃に關する調査委員嘱託

十二月十二日評議員會の議決に基き伊藤富次郎外六氏に蚕絲業生產品輸送及運賃に關する調査委員を嘱託せり。

通信委員の嘱託

本會委員規程第二條に依り左記諸國農學士出版休之丞同國高橋元助の二氏に嘱託せり。

支會品評會審査委員長及審査委員嘱託

下野支會第六回品評會は審査委員長外井上佐吉氏に審査委員を大橋代議外十二氏に選任支會第二回品評會は審査委員長を松永直作氏に審査委員を山本竹藏外七氏に山口支會第三回品評會は審査委員長を海野惣太郎氏に審査委員を田中欽郎外十八氏に夫々嘱託せり。

巡回講話

本會は戰後蚕業の衰退を回し併せて會勢の大擴張を圖るの目的を以て本會事業の一たる巡回講話を開催し各地方に開催したるが到る處感銘を極め頗る好成績を收め得たり其開催地及巡回期間等左の如し。

第一回

巡回期間は七月十五日より八月二日に亘り本會々員は鍬本學藝委員を從ひ栃木、茨城、群馬、埼玉、山梨、秋田、宮城、青森の八縣に於て夫々講話せられたり。

第二回

巡回期間は十一月九日より同十六日に亘り本會々員は青池理事八田角田の兩評議員を從ひ旅費、蚊帳、愛知、靜岡の四縣に於て夫々講話せられたり。

役員及學藝委員の出張

三月十五日北信支會學藝會場に付同會の申請に依り

技藝委員　足立元太郎

四月二十日四多摩郡支會學藝大會開行に付同會の申請に依り

技藝委員　吉池慶正
同　町田積

十月二十二日茨城縣筑波郡農會大會に付同會の申請に依り

學藝委員　鍬木容三

十一月一日より七日迄三重縣宇治山田町に於て第八回品評會開催に付

會頭男爵　松平正直　理事　本多岩次郎
理事　吉池慶正　學藝委員　松永直作
學藝委員　石渡紫風　同　入田穣也
同　今西喜次郎　同　土屋泰
同　松田昌徳　特別會員　角田宮右作
特別會員　下田伊左衛門　同　波多野鶴吉
十二月三日山形支會總會に付同會の申請に依り

學藝委員　吉池慶正

評議員會

評議員會が開くこと五回にして其議題は左の如し。

三月四日

一　明治三十七年度決算報告
二　明治三十八年度追加決算
三　功績表彰の件
四　製絲奇蹟改良の件

七月十一日

一　本會組織の變更并規則改正の件

九月六日

一　支會設置規則
二　委員規定
三　役者管理及處分規則
四　監事選擧

十月十四日

一　報告
一　總裁陛下御成の件
一　議題
一　全國蚕絲會合併の件

二　戰後鑛業鑛業法關係に關する件
三　農商務省の問會に係る米國鑛業協會より突出せる朱綫燐鑛の件

十二月十二日
一　明治三十九年度豫算
二　功績調査の件
三　鑛業鑛業生產品輸送及運賃の件

功績調査其他の委員會

二月二日出張委員官から聞き同委員たる今西直次郎羽田桂之進永井米藏の三氏は休業報告に對し詳細調査を加へ全部異議なく承認為し與へられたり。
三月三日功績調査委員官から聞き參事佐野理八理事吉地慶正委員石居一郎針塚長太郎の四氏出席せられ他の役員諸氏は事故の為め出席なかりしも各意見を申述され慎定の調査を為したり。
十月十六日戰後鑛業特別調査の為に關しされが調査委員官から聞き諸委員八田連也橋本重兵衛上原勇作有作下田伊吉伊藤門之五氏出席夫々調査を為し評議員の意見を徴し其筋へ之れが建議を為したり。
十月十七日米國鑛業協會より突出せる高木三郎津田鼎二永井米藏夫々同氏三郎北村七郎の諸氏出席熱心なる調査研究を為し本會々員より米國鑛業協會へ之れが問答を為せり。　七萬三千二百八十六部

會報の印刷部數

支會の集會及品評會

議員支會　三月十九日議員長宮崎町に於て第二回總集會を開催し十月十四日より向四日間第二回品評會を開催したり。
下野支會　四月十一日栃木宮市に於て臨時總會を開き十月十日より向三日間硯友會會議事堂に於て第六回品評會を開催したり。
西多摩支會　四月二十日東京府下西多摩郡西村に於會を開催したり。
京都支會　八月二十四日京都府下愛宕郡下鞍馬村に於て第四回總集會を開催したり。
福島支會　八月福島町に於て第三回總會を開きなり。
新潟支會　九月十日新潟縣五泉町に於て大集會を開きたり。
山口支會　十月十三日向四日間山口縣山口町に於て第三回品評會を開催したり。

明治三十八年度經費決算

金壹萬百八拾八圓四拾九錢七厘　總收入

內譯

金七千五百六拾貳圓八錢七厘	會費
金壹千貳百六拾八圓九拾貳錢	廣告料
金百九拾七圓四拾九錢	雜收入

內譯

金貳百貳拾五圓五拾八錢	雜收入
金七拾五圓九拾壹錢	預金利子
金壹千貳百圓	三十七年度繰越金
金八千八百八拾貳圓拾貳錢九厘	繰越金

總支出

金四千九百九拾參圓貳拾四錢七厘	印刷費
金參百貳拾貳圓四拾參錢	集會費
金百八拾圓	品評會補助金
金百拾七圓九拾四錢五厘	賞品購買費
金壹千九百六拾壹圓四拾七錢五厘	俸給及諸給

內譯

金九百七拾六圓八拾錢	俸給
金六百八拾參圓	報酬及手當
金七拾八圓八拾七錢五厘	傭人料

金貳百貳拾貳圓八拾錢	旅費
金壹千貳百拾五圓八拾壹錢	通信運搬費

內譯

金壹千百壹圓八拾六錢	郵便電信料
金六拾七圓	電話料
金四拾六圓九拾五錢	運搬費
金五百參圓貳拾六錢八厘	備品及雜費

內譯

金拾壹圓九拾錢	備品費
金拾四圓五拾參錢	公租
金八拾八圓五拾七錢貳厘	借地料
金百六拾壹圓九拾參錢五厘	修繕費
金五圓四拾錢	家屋保險料
金貳拾五圓	給水料
金八拾五圓	官報及新聞
金參百八拾錢壹厘	筆墨紙
金百九拾貳圓八拾錢壹厘	雜費
金參百八拾七圓九拾五錢四厘	支會交付金

內譯

金貳百五拾四圓七拾壹錢壹厘	補助金
金百參拾貳圓貳拾四錢參厘	手數料
差引金壹千參百六圓參拾六錢八厘	剩餘金

內譯

金壹千貳百五拾圓	預ケ金
金參拾四圓四拾六錢八厘	爲替及現金

金貳拾壹圓九拾錢	切手
右配當計算左ノ如シ	
金壹千貳百圓	
金百六圓參拾六錢八厘	
右　外	
金八拾圓四拾貳錢貳厘	

明治三十八年度臨時部收支計算

總收入

內譯

金貳百圓	三十七年度ヨリ製綿家商標帖調製費トシテ繰越
金貳百五拾圓	三十七年度別途繰越
金百八拾圓	經常費ヨリ收入
金五百參拾貳圓參拾五錢	三十九年度ヘ繰備金トシテ繰越

總支出

內譯

金百七拾壹圓	商標帖調製費及運賃
金百八拾壹圓參拾五錢	巡回講話旅費
金百八拾圓	三重支會ヘ交付
差引金九拾七圓六拾五錢	殘金(基本金ヘ積立)

金參百六拾四圓貳拾五錢八厘	基本金

總收入

內譯

金百六圓參拾六錢八厘	三十八年度經費剩餘金
金九拾七圓六拾五錢	三十八年度臨時部剩餘金

金九圓　寄附金
金拾圓　特別會員一時出金
金拾五圓　會費一時納金
金百貳拾六圓貳拾四錢　公債及預金利子
金壹千五百拾參圓五拾錢參厘　三十七年度ヨリ三十八年度ヘ現金ニテ繰越金
計金壹千八百七拾七圓七拾六錢壹厘
右ノ内本年度ニ於テ左ノ公債ヲ購入ス
金四百五拾圓　三十七年度申込ノ第三回國庫債券々面千圓ノ内拂込金
金九百壹圓　第四回國庫債券々面千圓拂込金
計金壹千參百五拾壹圓
之ニ前年ノ分ヲ合算スルトキハ左ノ如シ
金貳千九百參拾圓八拾六錢壹厘　基本金總額
內譯
金五百參拾四圓六拾錢　整理公債額面六百圓
金四拾七圓五拾錢　第一回國庫債券々面五拾圓
金九百貳拾壹圓　第三回國庫債券々面千圓
金九百壹圓　第四回國庫債券々面千圓
金五百貳拾六圓七拾六錢　預ケ金
金壹厘　現金

建築資金

金貳千六百七拾八圓七拾錢　總收入
內譯
金貳千五百參拾八圓七拾六錢　前年度現在高
金壹圓　寄附金
金四拾五錢　當座預金利子
金百參拾八圓四拾九錢　定期預金利子
右預金先ハ左ノ如シ
金貳千六百五拾六圓四拾九錢　第百銀行（定期預金利子年五分七厘）
金貳拾貳圓貳拾壹錢　東章貯藏銀行（當座預金）

財產目錄

金八千四百六拾四圓七拾壹錢六厘　總額
內譯
金貳千九百參拾圓八拾六錢壹厘　基本金
內
金五百參拾四圓六拾錢　五分利付整理公債額面六百圓
金四拾七圓五拾錢　五分利付第一回國庫債券々面五拾圓
金九百貳拾壹圓　六分利付第三回國庫債券々面千圓
金九百壹圓　六分利付第四回國庫債券々面千圓
金五百貳拾六圓七拾六錢　預ケ金
金壹厘　現金
金參百五拾圓　什器、電話及書籍
內
金百五拾圓　電話
金貳百圓　什器及書籍
金壹千貳百八拾貳圓九拾五錢五厘　家屋
金貳拾貳圓貳拾錢　借地敷金
金千貳百圓　經常費豫備金
金貳千六百七拾八圓七拾錢　建築資金

右之通ニ候也

明治三十九年三月

大日本蠶絲會

會頭　理事　男爵　松平正直
副會頭　理事　農學博士　酒匂常明
理事　紫藤章
理事　本多岩次郎
理事　佐野理八
理事　星野長太郎
理事　吉池慶正

評議員撰擧

業務成蹟の報告終るを待ちて松平會頭は定款第四十條に依り、之より評議員の撰擧を行ふ旨を宣告し、八田達也氏の會頭指名説に下田伊左衛門氏の同意ありて、滿場異議なく之を可決したり、此時嚠喨たる奏樂あり滿場粛然恰から水を打ちたるが如く靜かなりし、而して會頭は左の諸氏を撰擧せられたり。

評議員

今西直次郎　伊藤富次郎
林譯作　羽田桂之進
橋本重兵衛　八田達也
本多岩次郎　星野長太郎
伯爵　正親町實正　尾澤琢郎
若尾幾造　加賀山辰四郎
吉池慶正　高橋新吉
高木三郎　辻鶴太郎
土屋泰　角田喜右作
棣木喜三　永井米藏
南條吉左衛門　法學博士　桑田熊藏
工藤善助　丸岡寛三郎
男爵　船越衛　理學博士　佐々木忠次郎
佐野理八　北村七郎
紫藤章　下田伊左衛門

第三回功績表彰

金賞牌受領と千歳不磨の名譽

斯くて松平會頭は徐ろに進みて、功績褒賞授與擧行の旨を陳告し、吉池理事は一々受賞者を呼出し、紫藤理事は多年蠶絲業界に貢献せられたる別記四氏の表彰文を朗讀せり、此時總裁殿下親しく賞牌御授與あらせられ、會頭は賞牌を贈與したり、嗚呼諸氏の名譽や千歳不磨、其光榮や大なりと謂つべし、其表彰文左の如し。

山梨縣甲府市山田町
特別會員　若尾逸平

安政六年横濱開港に際し蠶絲の輸出に適するを觀るや率先して蠶絲の貿易に從事し鋭意之が發達を圖り以て今日隆盛の基礎を確立し又本邦蠶絲の纖度不整にして聲價を揚くる能はさ

るは全く繰法其宜しきを得ざるに由るとなし一種の器械を案出して之か改良を圖り其他或は桑樹栽培の奬勵に蠶兒飼育の勸誘に力を竭せしこと尠からず殊に製絲の發達を期するは金融機關を圓滑ならしむるに在りとなし銀行を創設し當業者の利便を圖る等蠶絲業上に貢献する勞効洵に著大なり依て本會功績表彰規則に依り金賞牌を贈與し以て其功績を表彰す

明治三十九年四月一日

大日本蠶絲會總裁大勳位功三級貞愛親王

長野縣諏訪郡平野村

特別會員　尾澤　金左衛門

父祖の業業を繼承して座繰製絲に從事し時運の進歩に伴ひ之を器械製絲に改め又蠶絲の品位區々にして海外貿易に適せざるものあるを慨し同志を糾合して開明社を組織し以て共同揚返を行ひ社長に推さるゝこと前後數回堅忍不拔なく社務を經理し當業者に模範を垂れ以て斯業の勃興に資せり今や尾澤組の名に於て經營せる製絲場は六箇所にして二縣に跨かり其釜數一千有餘に達し隨て產額多く品質も亦佳なるを以て頗る聲價を博せり蠶絲業上に貢献する勞効洵に著大なり依て本會功績表彰規則に依り金賞牌を贈與し以て其功績を表彰す

（年月日御名御文に付略す他之に倣ふ）

群馬縣北甘樂郡祭戸村

特別會員　齋藤　正次郎

夙に蠶絲の粗製濫造に流るゝを慨し同志と謀り率先產して繰製絲揚返場を設け共同販賣の端緒を開き又幾多の揚返場を合同して北甘樂精絲會社を組織し推されて社長となり下仁田社

新潟縣北魚沼郡小出町柳澤製絲場工女

柳　瀨　た　か

明治十二年七月新潟縣柳澤製絲場に入り勤續すること茲に二十有七年技術優等品行方正志操堅固洵に工女の模範となすに足る仍て本會功績表彰規則に依り其功績を表彰す

明治三十九年四月一日

大日本蠶絲會々頭正三位勳一等男爵松平正直

同　馬　場　き　よ

明治十二年二月新潟縣柳澤製絲場に入り勤續すること茲に二十有七年（以下同文に付略す他之に倣ふ）

同　磯　部　ふ　の

明治五年新潟縣柳澤製絲場に入り勤續すること茲に三十有四年

埼玉縣大里郡深谷町富國館深谷支部工女

廣　島　こ　と

明治十九年三月長野縣富國館製絲場に入り勤續すること茲に二十有餘年

同　深　道　は　る

明治十六年二月長野縣富國館製絲場に入り勤續すること茲に二十有三年

同　桐　井　つ　た

明治十九年三月長野縣富國館製絲場に入り勤續すること茲に二十有餘年

群馬縣北甘樂郡富岡町原富岡製絲所工女

中　川　ふ　さ

明治十九年三月群馬縣原富岡製絲所に入り勤續すること茲に二十有餘年

同　木　村　け　さ　よ

明治十九年三月群馬縣原富岡製絲所に入り勤續すること茲に二十有餘年

同　伊　藤　う　る

明治十九年三月群馬縣原富岡製絲所に入り勤續すること茲に二十有餘年

群馬縣北甘樂郡小坂村下仁田社金銅組合工女

永　井　よ　し

明治十五年七月群馬縣下仁田社製絲組合に入り勤續すること茲に二十有四年

群馬縣北甘樂郡尾澤村下仁田社祇澤組合工女

市　川　い　つ

明治十二年七月群馬縣下仁田社製絲組合に入り勤續すること茲に二十有七年

群馬縣北甘樂郡青倉村下仁田社青倉組合工女

神　戸　て　い

明治十四年七月群馬縣下仁田社製絲組合に入り勤續すること

の創設せらるゝや副社長に撰まれ社長を補佐し社務の整理に事業の改善に拮据經營多年一日の如く爲に製絲の數量多須に達し品位も亦佳良なるを以て頗る聲價を博するに至る蠶絲業上に貢献する勞効洵に著大なり仍て本會功績表彰規則に依り金賞牌を贈與し以て其功績を表彰す

横濱市外國人居留地

特別會員　ジャーデン　マゼゾン商會

横濱開港後英一番館と稱し同地に開店し蠶絲及屑物等の貿易に從ひ專ら米佛兩國に輸出し其數頗る巨額に達せり又常に歐洲に於ける需用者の嗜好を精察し當業者に懇切なる忠告を加へて改良を促せしこと尠からず又某絹綿紡績會社に整授を與へ以て其生產に係る絹綿を海外に輸出するの端緒を開く等蠶絲業上に貢献する勞効洵に著大なり仍て本會功績表彰規則に依り金賞牌を贈與し其功績を表彰す

賞狀授與と製絲工女の名譽

永年一日の如く同一製絲工場に勤續するには勤勉ならざるべからず、忠實ならざるべからず、所謂志操堅固品行方正技術亦た優良の者にして初めて能く爲し能ふとなれば、之等を世の模範として其功績を表彰するは即ち之れ斯業奬勵の道ならずんばあらず、本會茲に見るあり、今回第三回賞狀授與を行ひ、左記三十九名の者に對し、松平會頭より賞狀に賞品を添へ贈與せられたり。

賞狀

茲に二十有五年
山梨縣甲府市柳町風間製絲場工女　櫻田とく
明治十九年六月山梨縣風間製絲場に入り勤續すること茲に二十有一年
山梨縣甲府市太田町矢島製絲場工女　角田そめ
明治十九年三月山梨縣矢島製絲場に入り勤續すること茲に二十有餘年
同　内田たよ
明治十八年十月山梨縣矢島製絲場に入り勤續すること茲に二十有一年
長野縣諏訪郡平野村小口組三製絲場工女　沖村いの
明治十九年三月長野縣小口組製絲場に入り勤續すること茲に二十有餘年
長野縣諏訪郡平野村矢島社上原製絲工女　武居つる
明治十八年三月長野縣矢島社製絲場に入り勤續すること茲に二十有一年
長野諏訪郡平野村今組製傘場工女　小口はる
明治十八年八月長野縣今組製傘場に入り勤續すること茲に二十有一年
長野縣諏訪郡平野村小野合名會社工女　小口きち
明治十七年六月長野縣小野製絲場に入り勤續すること茲に二十有二年
長野縣下伊那郡鼎村松葉軒製絲場工女　坂巻たけの
明治十六年六月長野縣松葉軒製絲場に入り勤續すること茲に二十有三年
長野縣下伊那郡龍江村吉澤製絲場工女　市瀬ささ
明治十年七月長野縣吉澤製絲場に入り勤續すること茲に二十有八年
長野縣東筑摩郡本域村東俵組太田館工女　中村ふみ
明治十四年六月長野縣太田館製絲場に入り勤續すること茲に二十有五年
長野縣埴科郡松代町合資會社六工社工女　編津ゆき
明治十七年六月長野縣六工社製絲場に入り勤續すること茲に二十有二年
山形縣東置賜郡屋代村長谷川製絲場教婦　酒井いね
明治十七年五月山形縣長谷川製絲所に入り勤續すること茲に二十有二年
山形縣東置賜郡漆山村多勢金上製絲所工女　寒河江とめ

明治八年二月山形縣多勢金上製絲場に入り勤續すること茲に三十有一年
同　手塚なか
明治十四年一月山形縣多勢金上製絲場に入り勤續すること茲に二十有五年
山形縣東置賜郡漆山村多勢丸多製絲場工女　須貝きの
明治十五年七月山形縣多勢丸多製絲場に入り勤續すること茲に二十有四年
同　栗野よん
明治十六年五月山形縣多勢丸多製絲場に入り勤續すること茲に二十有三年
岡山縣眞庭郡久世町久世製絲合資會社工女　高井たね
明治十九年一月岡山縣久世製絲場に入り勤續すること茲に二十有餘年
岡山縣苫田郡上加茂村内田厚生館工女　牧原さきよ
明治十八年七月岡山縣厚生館製絲場に入り勤續すること茲に二十有一年
福岡縣山門郡西宮永村柳河蠶絲業傳習所教婦　中島ねい
明治十八年十月福岡縣柳河製絲所に入り勤續すること茲に二十有一年
大分縣大分郡在隈村大分製絲所工女　岡田ふき
明治十六年五月大分縣大分製絲所に入り勤續すること茲に二十有三年
宮崎縣南那珂郡飫肥町飫肥蠶業合資會社工女　良本いの
明治十二年七月宮崎縣飫肥製絲場に入り勤務すること茲に二十有七年
宮崎縣兒湯郡上江村高鍋製絲株式會社教婦　荒川りく
明治十七年九月宮崎縣高鍋製絲場に入り勤續すること茲に二十有二年
同　隈澤あぐり
明治十八年六月宮崎縣高鍋製絲場に入り勤續すること茲に二十有一年
鹿兒島縣鹿兒島市山下町鹿兒島縣授產會社蠶絲講習所教婦　山本のぶ
明治十七年六月鹿兒島縣授產會社製絲場に入り勤續すること茲に二十有二年
同　兒玉ひさ

明治十八年八月鹿兒島縣授産會社製絲場に入り勤續すること
茲に二十有一年
同　宮之城支所教婦　野元すが
明治十八年六月鹿兒島縣授産會社製絲場に入り勤續すること
茲に二十有一年
同　工女取締　上木ゐだ
明治十八年六月鹿兒島縣授産會社製絲場に入り勤續すること
茲に二十有一年

祝辭及答辭

斯くて功勞者表彰の式終るや松岡農商務大臣、千家東京府知事代理池田大日本農會參事は相並で祝辭を朗讀せられ吉池理事の祝電披露に尋て受賞者惣代尾澤金左衛門氏答辭を謹讀し「ジャーテン、マデソン」商會の「ジ、ジーベル」氏佛語にて答辭を述べ今西直次郎氏之を通譯せり祝辭及答辭の全文左の如し。

祝辭

本日は大日本蠶絲會第一回總會を催され此機會に於て我國蠶絲業界に在て年來心思を盡し經驗あり功勞ある多數の人士と一堂に相見を得るは本官の甚だ歡喜する所なり思ふに世界人類の衣服の材料は棉花獸毛麻棄及蠶絲の四とす而して蠶絲の用途は未だ棉布毛絨の多きに及ばず然れども綾羅錦繡其他各種の絹類は目之を觀て絢爛美麗身之に觸れて輕暖愉快なること他の三者の遠く及ばさる所なり故に人類生活の程度高尚なるに從ひ衣服其他裝飾の嗜尚愛好倍絹類に趨向するは不可爭の事實なり我邦の風土氣候は蠶絲に恰適し目下其品質織製既に世界に名あり而して其産額亦我海外輸出物品中の第一位に在り本會の人士更に衆庶を誘導して益養蠶製絲及染色を改善進歩せしめ以て無限の販路に向て人類の嗜好を充たさしむれば我國富を增加するの無極なること亦確信すべし是本官が今日盛大なる總會に於て斯業界の先進者と相見るを歡喜する所以なり依て聊數言を陳べて本會の彌々發展して國家の富源を深遠ならしめんことを祝す

明治三十九年四月一日
農商務大臣正三位勳一等　松岡康毅

祝辭

今茲に大日本蠶絲會第一回總會を開かる斯業の爲慶賀に堪へず抑も我邦の蠶絲は啻に海外輸出品中の巨擘たるのみならず世界の蠶絲界に於て亦頗る優勝の地を占むるに至れりと雖も外には斯業の勁敵たる清伊佛諸國の雄然として我に抗するあり內には桑園の經理蠶病の防除乃至技術の研修等施設經營の急を要するもの少からず斯業の前路尙遼遠なりと謂ふべし大日本蠶絲會は此間に處し指導勸奬頗る努め益其發展を期せんとす誰か其成効を期待せざらんや一言以て祝辭とす

明治三十九年四月一日

東京府知事正三位勳二等男爵　千家尊福

祝辭

茲に本日を以て大日本蠶絲會第一回總會を開催せられ我輩亦其班末に列するを得たるは大に光榮とする處なり抑々戰後の經營その事緒多端なるべしと雖も殖産興業に待つもの尤も多く就中蠶絲は海外貿易の首要なるものにして其前途や多望遼々際涯を知るべからざるなり戰後の經營として斯業の奬勵の如き第一に擾指に入るべきもの全國の農家時勢に觀奮して斯業發達に努むるあらむか事は易くして其効果や絕だ大なるものあらむ會の將來は多望なり多事なり益々隆盛ならむことを冀ふ爰に總會の擧行を悅び聊か所思を陳して祝辭となす

明治三十九年四月一日
大日本農會參事　池田謙藏

祝電

本日の盛會を祝し併せて貴會の隆盛を祝す
山梨支會長　武田千代三郎
盛會を祝す　福島縣　管野平右衛門
盛會を祝す　福島縣　大橋濟
御盛會を祝す　群馬縣　角田喜右作
盛會を祝賀す　長野縣　鳥羽久吾
盛會を祝す　靜岡縣　寺尾昌太郎
大會を祝す　福島縣　池田常藏
總會を祝す　福島縣　櫻井正毅
盛會を祝す　富山縣　渡邊亥八
盛會を祝す　福島縣　蠶事振起會
大會の盛會を祝す　熊本縣　細谷久一郎
謹て盛會を祝す　千葉縣　佐藤角兵衛

答辭

本邦産業界の重鎭たる蠶絲業の改善發達を以て唯一の主義目的とする處の大日本蠶絲會は本日茲に第一回總會を開設し功績表彰の儀を擧行せらる斯業の爲に祝すべきとなりとす而して金左衛門等此盛典に列するを得たるは既に其榮譽と爲す處なるに總裁殿下御臨場の上優渥なる御令旨を賜はり且金賞牌を御授與あらせらる寔に之れ感泣措し能はざる處にして何の光榮か之に如かんや退て惟ふに金左衛門等切に蠶絲業の改善を希ふと雖も未だ嘗て一微の功勞なき者而かも此光榮を辱ふす只管汗背の至りに堪へざるなり然りと雖も謹んで之を拜載し永く家門に傳ふるは即ち以て後世子孫を

して國益斯業の爲めに微力を致さしむるの道なりと信ずるなり

今や戰後の經營一日も忽にすべからざるものありて斯業の發展亦大に急要を告ぐ金左衛門不敏と雖も本會指導監督の下に立ち雙肩に懸る責務を完ふし今日の光榮を空ふせざらんことを期す一言謝辞を陳して答辞に代ふ恐懼謹言

明治三十九年四月一日

受賞者總代　尾澤　金左衛門

答辞

本日大日本蠶絲會第一回總會を開催せらるゝに際しジャガン、マゼソン商會に授與せられたる功績褒賞は同商會の最も光榮とする所でありまして、同商會の一員たるの故を以て同商會を代表して謹て御禮を申上げ併て大日本蠶絲會の隆盛を祝します

ジャヴガン、マゼソン商會員

ジ、ジ　ー　ベ　ル

當日の來賓

來賓の重なる者は板谷大藏大臣、松岡農商務大臣、馬場伏見宮別當、御牧同家令、平田男爵、船越男爵、金子男、石井通商局長、酒匂農務局長、工藤商務等の各代議士、山脇農商務書記官、片山同秘書官、月田農政課長、加賀山蠶絲課長、大槻戸東京府第三部長、今西生絲檢査所技師、林、石居、中村、土屋等の各蠶業講習所技師、池田大日本農會參事、中村金國農事會幹事其他蠶業に關する近府縣の技師高木、丸岡、伊藤等の横濱貿易商、時事、毎日、國民、中外商業、日々、朝日、都等の各新聞記者、東京、獨立、帝國等の通信社員として其他一般の來會者を算すれば無慮六百餘名と注せられ、本會稀有の盛會なりし午前十一時半目出度式を了し三度君が代の曲は樂手に依りて奏せられ、總裁殿下には奏樂玲瓏たるの間に御退場遊ばさる、暫時御休憩室に於て御小憩の上御還啓あせられ松平會頭以下本會役員一同玄關迄御送り申上げ奉れり。

來賓の演說

斯くて正午となり來賓及一般會員に午餐の饗應を爲し、午後一時半より局面一轉大家の講演とはなれり、冖頭第一に演壇に顯はれたるは丸岡實三郎氏にして、横濱生絲貿易商と地方製絲家とが意思の疏通を缺くの不可なることより、製絲業經營の困難なる程度の未だ減ぜざるは外面進歩せるが如くにして未だ其の進歩を爲さざるなりと斷じ、最後に共同拵所を設立して製品の統一を圖り貿易的資格を極ひて横濱に出すことの必要なること、器械の改良就中接緒器の改良に就て充分研究せられんことを望むとて壇を下り、ジーベル氏は今西直次郎氏の通譯にて日本生絲の改良に就でと題し最と親切に自己の意見を述べ、大藏大臣法學博士坂谷芳郎氏は貿易上に於ける生絲と國土農商務省なら以前は大藏省にて生絲の事を司り今は直接關係せざるか知きも低利資金の供給を容易ならしめて間後に該貿易の發達を期しつゝあることより、外債十三億圓其負擔大なるも生絲の輸出額二十萬俵以上に至らば

債務の決濟難事にあらず大に之れが發展に盡力せざるべからずと說き、亞で外山脩太郎氏は蠶絲業の發達と題して、本邦蠶絲業の發達は解剖生理病理等の學理の啓けたる爲めにあらずして蠶絲業者の苦心慘憺たる結果に外ならずと喝破し、吾人の勉むべきは種類の改良生理上の研究經濟上の問題に在りと論じ、尤も趣味ある演說を試みて拍手喝采聲理に演壇を退き、男爵金子堅太郎氏は別項論叢欄に記したるが如く僅々七年間に日本生絲が米國需用者の信用に一變化を與へて大に有望の位置に立ちたるは一に諸君盡力の結果にして深く國民に代りて謝する處なり、今後も亦益擧國一致斯業に盡瘁せられんことを望む云々と述べ頗る來會者の感動を惹き、農學士有働良夫氏は蠶絲業發達の要件と題して。可成的種類の一定を圖り品質の同一なる者を澤山に造り出し、貿易市上有勢の地位を占め且つ之れが爲めに生ずる冗費を省く等の方法に依りて劇烈なる競爭に勝たざるべからずとて種々有益なる意見を發表して當業者を警戒せられたり、尙ほ此他に横田長太郎氏の滿州の蠶絲業橋本重兵衛氏の蠶業の改良に就て境野所衛氏の製絲改良の話等講演せらるべき筈なりしも日既に西山に傾けるを以て遂に之れを聽くを得ざりしは極めて遺憾の事なりし而して前記諸氏の名論卓說は順次會報に掲載して會員諸氏の淸讀に供すべし、右の講演終るや曩院たる樂は室の一隅に奏せられ松平會頭は端然として場の中央に進み本日の總會が總裁殿下の御臨場に依りて光彩を放ちたる上更に朝野知名の士の有益なる講演に依りて一層の光輝を添へたるは本會の爲めに感謝に堪へざる處にして、會員諸氏が遠近より態々來會せられ長時間謹肅に列席し居られたるは斯業熱心の結果に外ならず、爲めに本日の式も殊の外盛大に無事終了するを得たるは之れ亦深謝に堪へざる處なりとの趣旨を述べて閉會の陳告を爲し和氣藹々の間に散會したり。

御見舞ちっぽくれ

（前號のつゞき）

お野々次第だ
屋宮の次第は
一承知ください
とどんどんかいて
なられて故郷に
ゆかいでこるぞ
云ふだけやほにて
なされておいでに
ばかりじゃなへない
いよいよ御出かけ
いろいろあります
思ふほひがこと
宴機界の
鄕なかずて
なんぞと申して
とくとり一承知
相違なければと
ここんと一書
なさるときゆめたち
町付役場で
どうでもかうでも
どしどし出かけて
第二の先祖と
うちやまれるのも
このような道理に
二百人合てん
命でで心なされた
よんぼつなされて

雑録

煮繭前の繭處理試験

三谷　徹

此試驗は煮繭しやうと云ふ前に、繭に如何なる處置を施したならば、其施さないものに比べて操作が容易で且つ絲量が饒で絲質が美しいであらうかと云ふことを確むるのが目的である、ソコで前年に行つた試驗は其原料の異なつたものは、其處理を異にするの必要があるかを秋季に於て探究したのであるが、此度の試驗は氣候の異なるに依て其處理を異にするの必要があるかを探究する目的で夏季と秋季と冬季との三期に分けて之れを行つたのである、併し其試驗の方法は左の如くである。

普通區　繭に何等の處理を施さずに直に煮湯に入れて煮熟したもの。

浸湯區　繭を先づ百度の溫度を有つる湯の中で四分間浸し後ち煮湯に入れて煮熟したもの。

觸蒸區　繭を先づ蓋をした鍋の中に入れて蒸氣を四分間通じた後煮湯に入れ煮熟したもの。

浸水甲區　繭を先づ汲立の井水に六分間浸し置て煮湯に入れ、煮熟したもの。

浸水乙區　繭を先づ汲立の井水に十六時間浸し後ち煮湯に入れ煮熟したもの。

觸濕區　繭を濕氣の多い室内に二十四時間放置し後煮湯に入れ煮熟したもの。

夜露區　繭を晴夜屋外に十六時間放置し後煮湯に入れて煮熟したもの。

以上の方法で各期の試驗共同一原料の繭を用ひて之れを行ふた、ソーして其原料繭は東京蠶業講習所の飼育に罹る春蠶小石丸で豫じめ其重量を三十八匁九分、粒數を二百八十五顆づゝに等分し置いたものを用ひて、一區に付、三回づゝ反覆試驗をしたのである。

第一　夏季試驗

此試驗は八月中旬に於て行つたものであるが、製絲工程に就ては煮繭、索緒、繰絲時間、總時間、切斷數、糸量及屑物に就ては、原量の重量、生絲の重量、屑物量、蛹重量、減耗量、生絲檢査に就ては色澤、纖度、纇節、强力、伸度等を調査したのである、其成蹟を概括してみれば、觸蒸區尤も佳良で、其次が浸水甲區である、浸水乙區、夜露區、觸濕區浸湯區などは、順次其次に位して普通區が最も劣等であると云ふことが出來る、故に煮繭前には、蒸氣又は濕氣に觸れさするか、或は水湯等に浸して後ち煮湯に投ずるのが有效であることを知ると共に、此等の中に就ても、夏季は特に蒸氣に

觸れしめ、或は水に浸すことの極めて有利であることが知られる。

第二　秋季試驗

此試驗は十月下旬に於て施行したので有つた、繰絲工程絲量及屑物生絲檢査等の調査は夏季試驗と同じことにしたのであるが、之等の成蹟を概括して見れば、觸蒸區最も優位を占め、觸濕區、夜露區は、其次に位し浸湯區、浸水甲區、普通區は、其以下で浸水乙區が尤も劣等のやうである。

第三　冬季試驗

此試驗は一月中旬に於て施行したもので、矢張其調査したのは夏秋季のものと同樣である、其成蹟を概括してみれば、優位を占めたのが、觸蒸區で、浸湯區、浸水甲區、觸濕區は順次之れに次ぎ普通區は最も劣位にあつたのである。

さて各季に於ける試驗成蹟を概括して言ふと繰絲時期の如何に拘らず煮繭前に何等かの處理を行ひ多少の水分を與へて後ち煮湯に入れたものは、其否らざるものに比べて概ね解舒が佳良で切斷が尠く絲量が饒かであると云ふ利益の存することは、前年の試驗と略ぼ其揆を一にして居る、之れは蓋し其與へられたる水分が能く其煮湯の勢力を緩和して克く之れを浸潤させ、絲膠を徐々に融解せしむるからであらう。

而して其處理方法は氣候の寒暖に依りて多少之れに適否がある、即ち浸湯區は夏季には適せずして、秋季及冬季に適しやうである、浸水乙區は、稍夏季には宜しいが、秋季及冬季には適せないやうである、併し觸蒸區、浸水甲區及觸濕區は共に各季を通じて適するものと見做すことが出來る、特に觸蒸區の如きは各季共に最優等の成蹟を占めたのである。

次に絲量及生絲の品質から言へば繭は概して其貯藏期間の長きに從ひ、其質が不良となるもの丶やうである、而して今各區の優劣を見るに、夏季より秋季秋季より冬季に至るに從ひ其差に著しいものがある、想ふに是れ其處理を行ふのは、繭質の不良となるのに從て愈有效であることを示すのではあるまいか。

野鼠及兎の驅除豫防法及被害の治療法

近年全國就中積雪の多い地方では、野鼠や兎の被害が甚しくて、農家の受くる損害も實に多大であるから、之れが驅除豫防法の忽かせにすることの出來ないことは何人も認めて居る處であるが、今岩手縣農會報に載せられて有つたのは、當業者の參考にもなることと思ふて左に之れを紹介することにした。

野鼠の根際を齧喰するを防ぐ法

一野鼠は枯葉藁其他塵埃の堆積してゐる處を好んで住むから豫防しやうと云ふ畑と、其近傍を清潔にして木を保護するにも腐敗した藁や莚を用ひぬこと。

一初雪の積つた時木の周圍の雪を踏み堅めて置くと、野鼠は木の側に來ない。

三樺の皮を取り木の根際に捲くと堅く巻きつくから、野鼠の鼠喰を防ぐことが出來る。仁丹其儘にして置くと、木の生長を害するから、墨春になりたらば、取り去るが良い。

四折板又は戸板のやうなもので、木の土際を圍み置くこと。

五石炭タールを塗つた紙で、土際を巻き置くも効がある。此方法は幼稚な木を枯らす恐れがあるから、生長した木に行ふこと。春寒になつたら、直に取り去らねばならぬ。

六粘着性の物質に硫酸銅即ち「パリス、グリーン」を混ぜて木の土際に塗ること。

七左の藥劑を混ぜて、秋霜の降つた後、被害の部分に塗るも良い。

生石灰　五舛
粗石炭酸（熱く溶して用ふ）　一舛二合
石炭タール　一舛二合
硫黄　二百目

夏に在りては石炭「タール」の代に軟石鹸　二舛

八「メーナート」氏の說では、左のものは毒を保存し、野鼠の害を防ぐに良いと云ふことである。

イ　「ポーランド、セメント」　一〇
石炭タール　一
ロ　「ポーランドセメント」　一〇
土瀝青　一

「ポーランドセメント」とは普通の「セメント」である

九左の藥劑を混ぜて塗るときには、野鼠及兎の害を防ぐことが出來る。

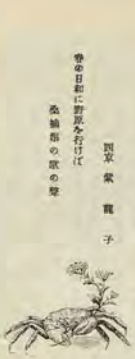
砂糖　五〇匁
小麥粉　五〇匁
石炭焼パリウム」　二五匁
薄き香を有する迄
苗香水　一〇匁
同　土酒石　四〇匁
小麥粉　三〇〇匁
牛或は羊の脂肪を右二種に混ぜて糊とする。
一一　同　小麥粉　四匁
粉末蒜　三〇匁
粉末蒜石　一匁
苗香水　二五〇匁

二二種子及苗に鼠の近づかぬやうにするには、種子に樟腦を混ぜて播種し後に時々樟腦を撒布するが良い（温床に利あり）。

一二兎に樹木を鼠食せられないやうにするには、兎の血を其害する樹木の高さ迄塗り置くこと。

一四兎が果樹園や桑園に來ないやうにするには、布片を煙草脂に浸し之を樹の先さに附けの所に挿すが良い兎も木枝や葉などの所に棲むから、畑の周圍は清潔にして置くこと。

一左の藥劑を混ぜて木に塗るときには、兎の鼠喰するのを防ぐことが出來る。



四京　栄　寛　子

春の日和に野原を行けば
桜草の歌の聲

硫黄、煤、石灰この三品の分量を等一にして、牛糞で濃厚な泥狀のものとするか石灰水に牛糞を混ぜて泥狀のものとするのである。

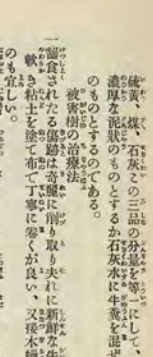
被害樹の治療法

一鼠食されたる傷跡は奇麗に削り取り夫れに新鮮な牛糞或は軟き粘土を塗て布で丁寧に巻くが良い、又接木蠟を塗る宜しい。

二長い新し枝をとつて此南端を薄く削り、方を上方の皮の下に挿し込んで皮の食ひ去られた切目に橋を架けて挿し込んだ所には接木蠟を塗て布片か繩で堅く巻て置くが宜しい。

春曉い樹の土際を食つたものは此法で治ることがある。

韓國蠶業經營上の注意



農學士
學藝委員　林驛作

林農學士は客年官命を帶びて朝鮮蠶業の途に上られ無恙任務を果して歸朝せられたが不幸間もなく病魔に犯されて久しく療子の割天地に靜養せられた所多忙の秋苦人は一日も速に其中報を聞つたのであが氏は能く頑なる朝鮮と雖共して目出度凱旋を奏し為年も除くやうな立派な體となつて去三月の末つ方歸京せられたから早速氏を御招待の恩に預ひ御話に關する興味を叩いた其感ぜられる處は眞に蠶業に對して考へを持つ者の聴き惜きものであると思ふからこれを藝の欄の左に掲くることにした

韓國の蠶業は大に有望なる事業であること　とは勿論であるが、是れが將來上には又少なからぬ注意が必要である、近來滿韓經營の名の下に、彼地に渡航する者が續々として雲を接するに到りつたるは邦家百年の爲め大に慶賀すべきである併し、鰲一渡航者の心事を觀るに韓國は土地廣く物産に富み、少なくして樫子金を得べしと云ふ機、空虛なる考へへの者が多數ある、此等の輩は渡韓後忽ち失意落膽甚だ

しきは朝夕儔偶に泣くの悲境に陷るに到る、今や日韓の國交は愈々親密を加へ、韓國は吾邦人の企業に最も便宜ある國土ではあるけれども、元來韓國は建國以來數百年間の星霜を經て、自ら獨特の人情風俗習慣がある、故に苟も此地に於て一事一業を成さんには、必ず先づ、彼國人を知悉するか、又は良き手引がなければ五里霧中に彷徨するが如く、到底成效覺束ないのである、此點は彼國に渡航する者は何事を企劃せんにも、最も注意すべきことである、現に彼國に在りて幅利を呼ぶ吾同胞は、豫め渡韓後如何なる業務に從事すべきや、若くは如何に事業を計劃すべきやを考究せざりし輩である、由來韓國の開拓は吾同胞の力に待つもの多く同胞の渡韓する者益々多からんことは最も望ましきことであるけれども、無暗に行つたところが仕方はない、徒に失望するに過ぎぬのである、將來の渡韓者は須く此點に留意せられたきものである。

韓國の蠶業に就ては種々攻究すべき問題がある、前にも一寸言つた通り彼國は我が國とは種々事情が異るから、蠶業が有望だからとて直に我が蠶業を彼地に移して行ふことは出來ない、然らば如何に致せば宜しきかと云ふに、其は一言に盡し難いが、先づ彼國蠶業の現況竝に蠶業經營上の要素を調査し、其上然るべく計劃するのである、詳しく御話すると隨分長くなるから以下成る可く簡單に要を摘んで御話申しましよう。

現今に於ける韓國の蠶業は極めて微々たるものである、併し割合に能く各地に普及して居る養蠶の規模は至て小さいので、一戸五斗の收繭を得るのは先づ大養蠶家であると云ふ有樣である、今假に養蠶家一戸平均一斗の收繭を得るものと見做し養蠶戸數を總戸數の十分の一と見て總戸數を假に三百萬戸とすれば、三十萬戸で一斗宛都合三萬石の總收繭がある勘定である、勿論統計がある譯ではないから、是は私の臆見當である先づ此位であろうと思ふ、そこで比較的養蠶の盛に行はれて居る地方は平安南道の江東、成川、慈山、順川、殷山、德川、价川、寧邊、熙川等、平安北道の泰川、咸鏡南道の永興、江原道の鐵原、黃海道の兎山、京畿道の楊州、忠清北道の忠州、槐山、陰城、清安、忠清南道の公州、魯城、連山、全羅南道の光州、羅州、海南、慶尚北道の尙州、咸昌等の地方である、其他全國殆んど到る處に多少の養蠶は行はれて居る、而して一般に曰へば水田の多い南韓に少なく、畑の多い北韓に多いのである。

韓國で生産せらるゝ繭は悉く紬絲に操製し紬を織り以て國人の需要に供するので、外國へ輸出するどころか自國內の需要をも滿たすに足らぬのである、即ち支那から澤山の紬と其外か種々の絹織物と合せて凡そ百萬圓餘の輸入がある、本邦から彼國に行く絹織物は主として居留本邦人の需要品で韓人向は少許の甲斐絹があるのみである支那産の紬は光澤が好くつて價が安くつて韓人に適合して居るのである、そう云ふ有樣で韓國産の紬も北部地方で出來たものを南方の地方に出して販賣する、即ち北韓は割合に養蠶が多く行はるゝのである、而して紬の外に德川、价川邊では一寸立派な絽が出來る又た地方により、木綿と交ぜ織にするところもあるが、其大

部分は紬てある。

次に桑樹の現況を見るに桑は全國殆んど到る處る生長して居る、即ち野山に野生してあるのと、栽培してあるのとある尤も栽培と云ふても、實際は手入れも肥培も施さないから、野生も同然である、而して其桑は多くは畑の畦畔や路傍や川邊又は屋敷圍りなどにありて、自然の生育に任せ必要に應じて、摘葉する、其れ故に桑は多く大木で枝條は、密集し葉形は頗る少さく桑椹のみ澤山結び極めて下等である、斯の如き古木が多くつて近來栽植したようなのは、至て少ない此點から見ても韓國は以前は盛な養蠶國てあつたものが國運の頽廢と共に衰運に向ひしものであることが分かる韓國の桑樹は以上の如き自然生の大木が多いけれども、全羅南道の光州、羅州、務安地方では敷葉に枝條を年々伐採し亂暴ながら高刈仕立の形をして居る、蠶業全般から見ると北韓地方が優て居るが桑丈は南方が勝て居る、又た此南韓地方には養蠶料に桑の外に柘葉を澤山に用ゆる柘葉のみて養蠶を行ふものもあるが多くは稚蠶には桑葉を給し壯蠶に到りて柘葉を用ゆるのである、柘樹は忠清南道を限り其以南の地方に在り、其以北には更に見受けない南の地方では柘樹は路傍などに澤山ある、又た可なり大なる柘樹林がある。

養蠶の事は桑樹の有樣を見れば大概分かるのであるが、實に幼稚なもので御話にならないのである、先づ蠶種から申すと勿論蠶種などは一定しないが、極粗製の朝鮮紙に其れも新らしきものならよいが、昨年の掃殼の裏面などに不規則に產卵させる蛾尿などが澤山に附着して不潔極まるものである、此蠶種を製造するのを見ると隨分滑稽である、種繭は農家で自家用の蠶種を作る丈撰別するのであるが、蛾が澤山出るからとて、特に同功繭を取る者が多い但し朝鮮種の繭の同功繭は三匹の蠶兒で營むものが多いから蛾は實際多數出るのである、此種繭は直に水に浸して繭綿を附着せしめて、發蛾の際に蛾の脚が繭綿に纏着せぬようにし、糸にて連結して吊し又は器物に並べて發蛾せしめ、例の種紙の上に雌雄共蛾を拾ひ上ぜ自由に交尾せしめ自由に産卵せしむるので、全く放任主義である、一週間餘も時日を經て蛾が全く斃死せる頃、種紙を上げて死蛾を棄て種紙には卵面に一面に木灰を撒布し、片端より包みて之を糸て縛し、天井裏などに吊るし、翌春迄放置する、勿論此取扱は所によりて多少手續きを異にするけれども、大體を云ふと、春期立夏の頃に取出して灰を去り、之を清水、又は人尿、又は魚汁等の中に浸漬し、然かる後溫突中に移して發生せしむるのである。

種紙に發生した蟻蠶は、之を鷄の羽て掃下して細剉せる桑葉(又は柘葉、桑花等を用ゆるものあり)を給與し、飼育を行ふのである、別に蠶具はないので、稚蠶は箱の蓋とか盆とか又は籠など何ても有り合せの器物を用ゆる、而して壯蠶は迚も容るゝに足る器物はないので、直接に床上に下して床飼となすのである飼育中給桑回數や給桑量などには固より一定の標準はない、手加減でやる、稚蠶には剉桑を用ひ壯蠶には全葉を用ゆる床上一面に飼育するものは給桑するに窓口から桑葉を攫んで投入し、其不平均の個所は長き棒て平均すると云ふ有樣てある、而して手入れとしては分座も除沙も時々は行

ふが除沙するに蠶網も籾糠も用ひないで一々手先で拾ひ分けて居る、飼育中は一般に曰ふと、成るべく涼しく飼ふので、飼育日數は三四十日を要するのが常である、人工養蠶は餘程行はれて居るものと思ふたが地方には極少ないようてある、韓國の蠶は悉く三眠蠶であるから、三眠四齢を經過すれば、熟蠶となるのである。

さて熟蠶を上簇するには是も所によりて多少異なるが、先づ室内の片端から三四尺もある松の枯枝を立てかけて、之を簇となし、又は松の外他木の枝を用ひ、若しくは藁、粟稈、等も多少用ゆるところがある、此簇に熟蠶を上すと、其上に衣服などを被ひかけて、成る可く之を包み且つ室の窓戸を密閉し外より決して見へないように嚴重にする、是れは他人に見られると、蠶が繭を結ばないてふ迷信のためてある、此事は獨り簇中のみでなく、尚ほ飼育中にも然りてある、殊に眠起の際は決して他人を近かしめない、それて朝鮮家屋の一室は八九尺四方位の小さいものが多いが、其内に三四尺もある枝を立てるので、室即ち簇で實に奇觀てある收繭は上簇後四五日目から一週間目位で行ふのてある。

收繭すると翌年飼育用の蠶種を製する丈種繭を取り他は製絲用として殺蛹乾燥を行ふ、其方法は天日晒温突内乾燥等で不完全ながら、貯藏が出來る、繭質は固より劣等て、又た其繰絲法も至て拙劣てある、繭は其着色白、黄、緑と三通り混合し、形狀不正殊に同功繭が非常に多い絲量は通例繭層が僅いから一舛で、五匁位と見る外はない、從來此繭は悉く紬絲となすのであるが、其繰絲器とて極めて簡單なもので多くは手先きにて繰り取るのであるが、又た粗末なる座繰器ようのものを用ゆる者もある、此紬絲を原料にして紬や絽を織製する、其織機は本邦の躄機のようなもので、一層粗造なものである、斯く器械は粗雜てあるけれども、其産物たる織物は割合に見事である、是れ全く韓婦人の手工が巧者である證據であると思ふ。

（未完）

伊太利土産

特別會員　野村彦太郎

野村氏には去三十六年三月横濱港を解纜して伊太利に渡航し同國パビア大學に於て研讃せらるゝこと三年にし蠶兒の軟化病に對し一大論文を發表せられたることは頗る名譽を博せられ終始同大學の優待を受けられたるが、愈歸朝せらるゝこととなり佛國「マルセーユ」にて「アルマンベラク」號に搭乗し二月十八日に出帆途中「ポルトサイド」、「コロンボ」「サイゴン」「シンガポール」等の各地に立寄り三月末日目出度横濱に上陸せられた乃ち編者は直に氏を訪ふて伊國に於ける蠶絲業の狀態を尋ねたのであるがナカ〳〵に興味の多い談話をせられた即ち左に其談話の一節を紹介するとしやう併し印刷の都合上氏の閱を請ふを得なかつたて一切の責任は編者に在る讀者其邊含みて

●●●●●●伊人と日露戰爭　伊太利人は日露戰爭前迄は能く日本を知らなかた、尤も日清戰爭以後は敢て日本を支那の屬國とも思ふて居らなかつたらしいが、併し歐州に對してドノ位の力を以て居るか、實際の國力が如何なる程度に迄發達して居るかなどと云ふことは更に知らなかつたのである、然るに日露戰爭となつて、小さい日本が大きい露西亞に戰爭の度毎に勝つと云ふ處から、非常に驚いた様子である、直ぐ隣國の佛國が露國に同情を寄せて居るにも拘らず、伊利人の日本に同情を寄したることは、實に言語に盡されぬ位であつた、吾々が一寸市中へても出ると、日本ビバー日本ビバーと見る人遇ふ人が萬歳を唱ひて與れる、之れに反して露人と見れば露西亞バツソー露西亞バツソーと嘲ける、時には何も知らない人から態々ボンチ繪などを送て來ることもあれば秘密○○等を屆けて與れる人もある、或時パビア大學の總集會に臨んだ事があるが、イヤハヤ大變に持囃されて、トウ〳〵胴上されたのには閉口した、代議士の「ランボルデー」氏などは大層な日本贔負であつて曾て旅順港鴨綠江奉天對島等の四大戰を伊太利の歌に詠じたことがあるが、ドーカ之れを日本の歌に飜譯して　天皇陛下に奉りたいなどゝ謂つて居つた、予は「モクデン」即ち奉天の歌丈は譯してみたが、併し吾々の筆だから到底甘くは譯せない、隨て面白味も尠いが是を國文學者の筆に譯させたならは、嘸ぞ興味の多い歌となるてあらう、其譯した歌は甚だ不味いが……。

花の都に進むには　隔つる道は遙にて
山又山と險阻なり　前に知ふる敵軍は
侮るべくも非れば　苦心の程も知られ鬼
熊木は大軍引き連れて　鴨綠江より突き進み
先頭一の名を揚げぬ　野津奥之れに從ひつ
砲火は天を焦しつゝ　向ふ處に敵はなし
進むに慣れたる將軍は　連戰連勝の名も高く
敵は爲すべき策も盡き　こゝを先途と防げども
大山勢の突貫に　打ち碎るゝ斗りなり
コゝよ「モクデン」「モクデン」コゝよ　敵は何地か消え散りて
跡には騷ぐ聲もなく　小隊に應ふる呻き聲
風の便りに香れつ　いとも憐はれに聞ゆなり

マー這んな鹽梅てあるが此コゝよ「モクデン」からいとも憐はれに聞ゆなり迄が彼の國の歌ては超絶した名句なので何人も無限の感動を起さずに居られぬ處であるさうだ……、サー御覧なさへ（此時ボルニャにて發行するクナのボンチ繪を示さる）其ボンチ繪を……「クロパトキン」の前に100號と書たものがあるでしやう、彼國ては百號の室が雪隱になるので、「リチラツヒー」と謂つて退陣を意味して居るのです、「クロパトキン」の軍略はイツも這んなものだと嘲つたのであるが、又其側に在るボンチ繪は露西亞か日本を小さいと思て馬鹿にした處が、其日本の背ろには朝鮮か肩を持つ支那が持つ暹羅が持つ印度が持つ英國が持つ米國か持つと云ふ有樣だから日本のニコ〳〵顔に反して露西亞の愕然仰天して居る處が書てあるのも一興てしやう先づ斯樣な次第で伊人は日本に多大なる同情を寄せて與れたから、吾々も大きに愉快に感じて居つたことてある。

●●●●●●伊國の蠶絲業　予は同じ海外實業練習生と云ふ肩書ても峰村君とは違ふて蠶業の方面を博く調査し得るの餘暇かなかつたから、統計類の事や其他の狀態を殆ど調査しなかつたて、能くは譯らないが兎に角普通農業は工業よりも發達して居る或は獨逸の農業よりも或點に於ては進歩して居りはせぬかと思はれる、稻なども能く出來るが併し稻田に用ゆる水迄が皆

一々買上げてあつて、日本の農家のやうな譯に遠慮なく、ドシ／＼水をかけ流すと云ふやうのものではない、處で伊太利ほど水利の發達して居る處は世界何處にもあるまい、縱橫に水路が開けて而かも夫れが平地斗りでなく、上の方にも亦た水路が通じてある、之れを船か自由自在に通行して水門に依て上の水路を通ふ船が下の水路へ出ることが出來下の水路を通ふ船も亦上の水路へ上て通ふことが出來るやうな仕掛になつて、ナカ／＼便利であるが、或英人の如きは、此伊太利の水利に就て研究して佛語で其事を書て居る、ソコで伊太利で尤も能く農蠶業の發達して居る處は、「ロンバロデア」州で、蠶業も農業も隨分盛んなものである、「ピーモン」州は蠶絲の產額は尠いが生絲の品質は宜しく、「ロンバロデア」州は產額は多いが、生絲の品質は「ピーモン」州に及ばないと云つて居る、ソーして養蠶は日本のやうに丁重な遣方はして居らない又年一回春蠶を飼育する斗りで夏秋蠶は飼育しない、其理由とする處は到底夏秋蠶を遣つても利益を見ることが出來ないと云ふことに在るのである、扨て其春蠶はと謂へば極めて雜駁な飼育をするが、處に依ては二齡迄地主とも云ふべき者が飼育して後ちに、之れを小作人に飼育させ、ソーして其小作人の生產したる繭は、また地主に於て之れを買上げると云ふ處もある、概して伊太利では餘り養蠶に重きを置かない傾きがある之れを製絲に比較してみれば製絲の方は機械で遣る丈け養蠶よりも進步の割合が高いと思ふ……桑園は皆高木作である、日本のやうに密植してはない間作としては多く麥を作てあるが高木作と謂つても放木仕立ではないので、丁度秋田式のやうな工合に仕立て　二本づゝ立てゝは先へ／＼と伸長せしめて七八年目になると蠶生伐採法と云ふものを行ふのである、夫れは餘り元から切らず又餘り先から切らずに程良い處で切らねば樹が枯死すると云つて居る、併し早生桑に用ゆる者は大抵家の周圍の籬根の代りに桑を植付てある桑であるが、此桑は中刈又は高刈と云ふ風で刈は刈るが或者は二尺位或者は六尺位に切て其刈る處の高さが一定して居らない種類は日本のやうに澤山はない「カタネオ」と云ふ丸葉の種類が一番多く其肥料としては重に牛糞や推肥を施して居る。

●●●●●桑の根朽病　予が「パピア」滯在中に於て研究したのは、桑樹の病と蠶病とであるが、伊太利では根朽病が隨分盛んである、之れは「アカダークス」と云ふ菌類の寄生から起る病で日本にも有るやうに考へて居る、伊太利では今から五十年前の書籍には書てない老木に生じ易い處から昔は老衰病で決して傳染する者でないやうに思ふて居たらしい、桑樹が一度此病に罹れば遂に枯死するを免れないのであるが、其狀態は根部の表皮を剝げば下部は恰も白色の柔皮の如くに見える病勢更に進めば、ベチャ／＼になつて尙ほ進めば蜜黃色の木菌が生ずる、之れは「クワタケ」と稱して秋季に出るものであるが、其大なる者は徑三寸位で人の食用に供して甘いものである、ソコで之れが豫防法としては別に良法が發見されてない、只現在に於て稍有効として認められてあるのは、此病に罹つた桑樹を堀取つて其跡へ石灰を撒くなり或は其土を燒くなりして、二三年放置して桑を植ゑないと云ふことであるが、中には元の畦に桑を植ゑずに新たに畦を作つて植ゑ全然列を改め

れば差支はないと云つて居る者もある、繁殖の程度は桑樹が蕭疎であるから左程に急激ではないが、若も日本の桑園のやうに密植して有つたならば、隨分激烈に繁殖するであらう。

●●●●●蠶兒の軟化病　伊太利にも種々の蠶病がある膿病も硬化病も微粒子病も皆な有りは有るが軟化病ほど澤山ではない、其の軟化病と云ふ中でも胆爛する者が尤も多いが昨年の如きは雨天續きの爲めに此の軟化病に冐され違蠶した者が尠くない、「パドワ」の蠶業講習所の如きでさへ、失敗して蠶兒を捨てた位である……伊太の養蠶家は日本の養蠶家のやうに失敗して隱しては居らぬ、白晝でも何んでも惡るい蠶はドシ／＼捨てる、惡るい者を隱して置て却て失敗を大きくしてはならぬと云ふ考からであらう、此點は日本の養蠶家よりも考が勝つて居りはせぬか、併し消毒やなどは少しも遣らないと云つて宜しい成程中には石灰乳を壁や床の上に塗り或は硫黃を燻ずる者もあるけれど消毒らしい消毒の仕方ではない書物の中やなどにも、之れを書てありはあるが日本のものに較べては眞に幼稚なもので、先一般に消毒の事には無頓着であると云はねばならぬ。

つらい務めも夜業かけて
ゆで飼ふ蠶が絲の網

西京　紫龍子

講筵

蠶病消毒法

土屋泰

元來蠶病の主因たる處の微生物、即ち俗に云ふ病毒なるものは、其種類の如何に拘らず、蕃殖を逞ふするには、適當なる溫度と適當なる濕氣とが必要なのである、溫度が高過ぎたり低過ぎたり、又乾き過ぎたりしては、蕃殖することが出來ぬ、華氏の八九拾度位の溫度は、最も彼か蕃殖に適する樣である、其上濕り加減が適宜であつたならば、實に驚くべき速度で蕃殖するのでありまず、處で往昔の養蠶家は、只春季一回飼育する丈けて、夏季に蠶を飼ふ者などは、極めて稀である、況して秋季に養蠶をする者は絕無であつた、而して春季はまだ／＼溫度が低くて、割合に乾く季節であるから、彼の病毒は其蕃殖が比較的遲緩なのである、故に春蠶一期で養蠶を止めにした時代は、自然病毒の蔓延が少なかつたのであ

ります、然るに近年の如く、春から秋の末迄、桑葉の青い間は、蠶を養ふと云ふことになつたから、病毒の爲には、蕃殖の好機會を與へた譯である、此蕃殖した病毒は、一年限りて死滅するものでなく、休眠の狀態となつて、蠶室の戶壁や蠶具類に附着越年し、翌春蠶の發生を待ちて、蠶體に寄生し前年と一樣の慘狀を現出せしむるのである、斯の如き次第てあるから、往昔に比べて現今は反て蠶病が多くなる譯である。

次に往昔の蠶と現今の蠶とては、其品種の名稱は同じでも進化の程度は、格段の違ひがある、即ち昔の蠶に比ぶれば、蠶一匹の絲量も多くなつて居るし、又絲質も改善せられて居るものが多い、地方の古い養蠶熱心家の中には、數十百年來の收繭を、標本として保存せるものがある、此等標本に就て繭質の進歩し來りたる次第を觀るに、逐年進歩の傾きを認むるが、特に明治になつてからの進歩變遷は顯著である、故に同じ種名のもの例せば小石丸とか又昔とか云ふものでも、其繭質は今昔に於て大差がある、即ち今の蠶は優等種となつて居るは疑を容れない、是と同時に其體質が昔よりも弱くなつた事も、爭はれぬ事實である、即ち氣候の激變に對しても、又病毒の侵害に對しても、大に抵抗する力を減却したのてあります、此關係も亦現時病蠶の多くなつた原因の一つとして數へねばならぬ事柄であります。

右の外尙ほ一つ病蠶の多くなる事の、有力なる原因と云ふは、養蠶家各自の業務の規模が、漸々と大きくなつたこと、及び養蠶業の普及したことてある、惟ふに蠶は今の當業者の考ふるが如く、飼育の難いものではないのです、其證據は何も知らぬ素人が飼育しても、百頭や貳百頭位を、廣い座敷に於て飼育すれば、概ね上作するを常とする、然るに溫濕度の調和や、空氣の流通を八釜敷云ふても、尙ほ且失敗する者の少くないのは、畢竟狹き室に無理やり澤山の蠶を入れて、飼育するからである、要するに大規模の養蠶は、小規模の養蠶よりも、餘程總ての手當保護が行き屆かぬと、病蠶を出かすものです又養蠶業が普及すれば普及する程、病毒の宿主が增加して來るから、何しても蠶病は蔓延し易い傾きがある、加之交通機關が逐年備はるので、社會の交通が頻繁に趨く、之れに伴ふて病毒の傳播も速かになるのは自然の結果であります。

以上述べたる如くてあるから、養蠶家が昔の夢を見て、病毒驅除の設備を等閑に付し、之れに關する注意を怠つたならば、到底滿足なる結果は得られぬのである、而して吾邦の養蠶業は將來愈〻產額の增殖を企圖し、又普及を圖らねばならぬ、養蠶業の普及を圖り、又產額の增殖を企圖するには單に春蠶のみに依らず、夏秋蠶を併せ行はしむるを肝要と信じます、現に夏秋蠶を飼育する者は、年は一年より增加しつゝあるてあります、此夏秋蠶飼育者の增加に就いては、種々說がありますが、是は問題の外になりますから、他日稿を改めて述べることに致しますが、兎に角夏秋蠶なるものは、將來吾邦の養蠶業を擴張する上に於て、必要缺くべからざるものであること丈けを御承知を願ひたい。

そこて夏秋蠶が普及發達すれば、既に是斗りでも蠶病は、將來益〻蔓延することゝ覺悟しなければならぬ、其上に蠶の

種類も、今後劣等なる強壯種が行はれる筈もない、世の中の進歩に伴ふて益〻優等種が多くなることと思はれる、事情斯の如くてあるから、養蠶家は病毒を驅除撲滅して、蠶病を豫防する設備は之を充分にして、此點に於ては萬々遺漏なき樣に心掛けて居らねばならぬ、否らざれば養蠶の規模は擴張して、資本は澤山に投じたにも拘らず收益は資本の增加に反比例して減少すると云ふ悲境に陷ることを免れぬのてあります現に夏秋蠶飼育者の一部分は、既に氣の毒なる悲境に沈みかけて居ります。

蠶病の災厄を免れて、良繭を豐收せんとするには、先づ良蠶種を選擇し、之れを完全に貯藏すること、飼育を適當にして蠶の生理を害せざること等は、素より大切なる事柄てあるが、之れと同時に病毒を撲滅して、其傳播を防ぐと云ふことを忽にしてはならぬ、而して所謂病毒なるものは、空氣に伴ふて來ることもあり、又桑葉に伴ふて入り來ることもあるが是等は極めて少數であるから、蠶が健全でさへあるならば、恐るゝに足らない、恐るべきは蠶室や蠶具類に附着殘留して居る前期の病毒である、是は少しばかりてはない、話を大きくすれば違作失敗した場合の蠶室や蠶具などは、殆んど全面に病毒の附着して居ると云ふてもよい程てある、斯く多數の病毒に包圍攻擊せられては、如何に健全の蠶兒でも、遂に耐へきれずして發病するに至るのてあります、故に先づ蠶室や蠶具類に附着して居る、大多數の病毒を撲滅して、蠶の身邊を清めることは最も必要の事てある、以下此撲滅法即ち消毒法に就て御話し致します。

（未完）

飼育種類及催靑に就て

群馬縣 通常會員 神宮政五郎

（一）飛白蠶は他種類に比ぶれば、食桑の度緩慢にして少しく遲るゝやうに考へらるゝが、併し他の種類と同一てあらうか乃至は實際其性質でありましやうか。

（二）蠶種の催靑に當て氣候か寒冷で如何に人工を加へても、發生か鈍く掃立當日過半數さへ發生しない、夫れを掃立てれば蠶兒が二段となるから寧ろ之れを其儘にして翌日掃立てたならば、如何と考ふるが生理上害はなきものにや、若し害があるとすれば催靑は溫度を強くして發生せしむるの方法を取ては如何てありましやう。

答　學藝委員 松田昌德

（一）普通飛白蠶と稱するものゝ發育は決して緩慢ではない。

（二）發生の不揃の蠶種は如何に溫度を强くしても只危害が多い斗りで一齊に發生せしめることは不可能である、故に今日發生した蠶種は其日の正午頃迄下し、紙包とをして溫氣の低い場處に移し置て、翌日發生のものと同時に桑付をするが宜しい、夫れで、少しの害のあるのを認めない、但し冷る所に移し置ましは桑付二三十分前に之れを溫室に取容れて運動を活潑にするのが肝要である。

蠶兒の蠶箔の周縁に這出づるに就ての質問

群馬縣　通常會員　關　孫四郎

昨年春蠶三眠々裏拔を絲網にて行ひ、網の儘別室へ移し置きし、網を伸ばして不規則に繰へ匂ひ出て飼食の時、取扱上大に困却した、眠裏拔に絲網を使用すれば常に斯の如く不都合なるものにや、但し起裏拔の際網を取り除きしより居席整然又周邊に出ずるの蠶なく無事上蔟をしたのであるが、之れに何か原因あらば御教示を乞ふ。

答　農學士　學藝委員　土屋　泰

蠶は成るべく高燥にして氣通の良き場所を撰みて就眠するものである、質問の如く絲網を傳つて外縁に出でしは、即ち乾燥して周圍に障害物なき場所を得んが爲である、而して種蠶は移動することを遲緩なるも、三齡以後に至れば、移動の遲速なるに因り、其傾向の順者となるものである、又外縁に出でゝ就眠するの多少は蠶の性質に因ることがある、要するに右の現象は蠶の健否には關しない。

桑樹の害蟲に就ての質問

京都府　通常會員　小雲嘉一郎

立水桑の新條の枯死せるものの中を見るに其形恰も天牛の仔蟲の如きもの、其だ少なけれ共一枝に數頭を見へし、但し枯枝は長さ七八寸より一尺四五寸位經一分五厘乃至二分位なり、のであるが、活物寄生なるか、死物寄生なるか、又蟲學上何科に屬し其養育の概略等、御教示を請ふ。

答　農學士　學藝委員　明石　弘

送附の標本は甲蟲目天牛科に屬する桑の害蟲にして、有名なる桑樹の發育の順序は六七月頃成虫により一粒宛産付せられたる長さ約八厘白色長楕圓形の卵より孵化せる幼虫は直ちに材部に食ひ入り之れを食とし漸々下降し盤深く材質に入り化するのである其幼虫期に於て蛹となし次で羽化し成虫を以て樹液の循環を妨げ桑樹の衰弱を來たし甚しきは枝幹を枯死せしむるものである。

桑樹の移植及蠶卵の色素に就ての質問

廣島縣　通常會員　清水淳太郎

（一）桑苗を本圃に移植する季節は一般秋季に於てするを可とするか、春季に於てするを可とするか、精確に降霜の最も甚だしき地方に於ては何月頃に移植するを最も適當とせんか。

（二）蠶卵の色素に種々あるは、幼虫の時代に給與する桑葉を採取する桑園の土質の如何に基因するは勿論であるが、其他化性の變ずるもの或は雌雄の强弱に於ても是れ有るものでしやうか、又卵の胚子に强弱の影響を及ぼすものでしやうか伺ひたい。

答　農學士　學藝委員　辻　暢太郎

（一）桑苗の移植は春季に於ては降霜の時を待つて桑苗を移植すると良しとす然らざれば當根害に罹る虞がある。

（二）蠶卵の色澤は桑園の土質に依りて影響を受ける外化性の變移雌雄の强弱に由りて差異を生じ從つて卵胚子の强弱に關係を有するものである。

種繭に就ての質問

長野縣　通常會員　矢島富治

種繭に供せんとする繭が天然育の爲めに退化して小さき繭を營みしものと、同じ溫度で青蠶期中厚飼にして滋養分の少い桑葉を給與した爲めに、小さき繭を營んだものとの區別及種繭としては何れが良いであらうか、併し假令天然育でも

滋養分に富める桑葉で薄飼をすれば退化はしないものであり、

答　農學士　學藝委員　石渡繁胤

質問の意味は明瞭ではないが、飼養の方法の惡い爲め、生じたる小繭の其何れの原因に依り生じたるものであるか區別する方法を問ふに在るやうにあるけれども、單に小繭のみを撰して、其因を判ずるとは、難義であらう、併し原因としては、何れも宜しくない、又天然育だからと謂つて必ずしも蠶を退化せしむるものではない。

蠶種再發生の件に就き質問

宮城縣　通常會員　後藤理二

（一）蠶蛾產卵後大凡十日目頃より俄然催青して再び發生するものゝあるを見ました、何ぞ如何なる關係に依るものであるか、其理由及豫防法あれば伺ひたい。

（二）前項の再發生は昨年の如き枠製一枚に就き、二、蛾、蛾だしきは四五蛾にも及びました、此の如き蠶種は他の發生せざるものに影響なきものにや、又發生したる蠶兒は育するときは如何なる結果を得るでせうか併て御教示を願ひます。

答　農學博士　學藝委員　外山龜太郎

一化蠶の其年内に再發生するは今日迄知れたる所にては種

種なる原因のあるやうです。

第一、純粋の一化蠶で時々多化蠶を發生することがある、之れ一種の性か又は變種に外ならぬのである。

第二、知らず〳〵の間に一化蠶の血液中に多化蠶の血液を混ずることがあり、是等は一時全く「らてんと」の性質となりて居ることがある。

第三、外界の刺戟によりて不時發生を爲すことがある、即ち溫度、電氣藥品等の刺戟は是である。しき場合には受精せざる卵にて此等の作用の爲めに發達を爲すことがある。

故に之れを防ぐ方法としては第一種類を純粋ならしむること（同一の親より生じたるものにても變性の多きものと少きものとあり）故に少き種類を撰ひべし。第二、不時に外界の刺戟を受けざるようせねばならぬ、溫度の如きは高低とも不時に受るは宜しくない、第三此の如き蠶を次年に至りて飼育すれば多くは又一化の性を現はし多化性は休眠する、然ども多數を飼育して洵に注意するときは之れより多化蠶を撰出するようが出來る、又第一の場合には次年に至りて規則正しく多化となるものである。

繰返しん　たすきかけなり　雷山

絲況

横濱市場

三月上中旬に於ける生絲市場の光景は、春來引續きての順調に、在荷減切減少し、之れを填補すべき春掩製絲は、弗々出廻の潮先に向ひたるも、格別擲りたる入荷もなくして、適當品の袋絲乏せるより内商の窺向給拾手强く、外商は多少の買氣を含み居りつゝ、兎角見送り勝の姿勢なりしかば、市面概ね沈静の觀ありて、時には殆んど休業同樣の成行も呈したるとあり、然れども素と此現象たるや、歐米機業界の好況なるに引代へ、昨年の世界生絲產額が夫體を通じて著しき減少を告け、所謂需供相伴はざる遠因に胚胎せるものなるを以て、屢々不振、閉散、沈静等の聲を聽きしに拘らず氣配は依然引締り、殊に月末に至りては米國向の蔘廻の進續して買ひ進めあるより、絲價は昂騰の一方となり、此稿を草するの當時は、千百二十圓の呼び物あるに至れり、而して横濱埠頭への入荷は、之れを昨年の同時期と比較するに、四百四十六個の減少なりしも、積戻に於て二百十四個、手合に於て一千四百九十九個宇、賣了に於て二千五百三十八個の増加を爲し

たり、然れども此好調果して能く永續するや否や、製絲家若夫れ生絲の前途亦又斯の如く好調なるべしと臆斷し、以て本年の大計を立つるあらば、或は誤りを強ひの侮なきを保せざるべし、諺に謂はずや、名將は治に居て亂を忘れずと、敢て製絲家に之れを警むる。

而して本月中に於て最も高價に賣行きたるものは、丹後郡是製絲太及甲斐風間社の銀込太の千百貳拾圓にして、最も低價なりしは、上野交水社二羽鶴の九百七拾圓なりし、今本年一月よりの最高價と前年の夫れと對照表示せば左の如し。

生絲最高價月別前年對照表

	明治三十九年		明治三十八年		價格之差
一月	愛媛郡	阿野製絲太	愛媛郡	三間製絲太	一〇五〇圓
二月	神奈川縣	貝野製絲太	島根郡	斐水社琴	四一〇
三月	京都	奇羽製絲太	島根郡	東雲館太	八〇〇
	風間社銀込	一、一二〇	山梨郡	矢島組太	一四〇
				九八〇	

今左に本月中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治三十九年三月自一日至三十一日生絲集散表

	繰越	入荷	賣了	地方發送	繰越
器械	九、四三〇貫	五、〇二一貫	五、八〇一貫	一、二六〇貫	七、三八九貫
座繰	三、三八七	一、三二	三、〇四七	三二九	一、五三
拵返	七四五	二八二	七三一	一〇二	八三
雜絲	一、三五	五、六		一〇九	八六
合計	一、三七〇一貫	五、四九九	九、五八三	一、九〇一貫	七、七一一貫

備考

一、表中單位個は九貫目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る、

三、前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものありしに依る

四、繰越只外に商談中のものありと知るべし

五、翌子中米國に輸出せるものは六千七百三十四個にして歐洲に輸出せるものは一千六百八十六個なりとす

但一個は拾六貫目なり

尙左に生絲集散日別表を示すべし

明治三十九年三月自一日至三十一日生絲集散日別表

	繰越	入荷	賣了	地方發送	繰越
器械	九、四三〇貫	五、〇二一貫	五、八〇一貫	一、二六〇貫	七、三八九貫
座繰	三、三八七	一、三二	三、〇四七	三二九	一、五三
拵返	七四五	二八二	七三一	一〇二	八三
雜絲	一、三五	五、六		一〇九	八六
合計	一、三七〇一貫	五、四九九	九、五八三	一、九〇一貫	七、七一一貫

日	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方戻	國名(最高)	社名(最高)	種別(最高)	最高値	國名(最低)	社名(最低)	種別(最低)	最低値	備考
一日	一四二	一五一	三八〇	—	—	八四	信濃	清龍館優	□	一、〇〇〇	同	山本館	□	九九〇	新規注文絶したる向きあり相場は品により三五圓方強氣配に見受られし
二日	一九七	一一四	二五〇	—	—	五〇	越後	島田製絲	□	一、〇〇〇	信濃	信明社	□	九七〇	手合不素より多からざるも弗々手堅く商來し氣配ずり／＼強し
三日	一四五	二一五	二一九	—	二、五五二	二〇〇	遠江	天龍川社	○	一、〇九〇	信濃	萩倉製絲	□	九八五	續へて商談あるも適品薄の折柄相場は勢ひ引締る一方なりし
四日	—	—	—	—	—	—									日曜日
五日	七六	三九〇	三四七	—	—	九〇	飛驒	末齋館	○	一、〇八〇	長門	中村製絲	□	九七五	新注文絶したる樣子にて一兩館へ弗々商ひ出來し一際小堅き商狀を呈せり
六日	三九三	一四八	六四五	—	—	六六	武藏	上水社	○	一、一〇〇	岩代	頁製社赤紅葉	×	九八〇	適品薄の爲め商談續きあるも此割合に纏まらず氣配保合姿なりし
七日	一五三	二八三	三五〇	—	—	一〇三	丹波	郡是製絲	□	一、一二〇	上野	天原社銀	×	九八〇	太物數口出來し相場は手堅く保合の成行なりし
八日	一九二	一九八	五二一	一二	—	五五	伯耆	中泉社	□	一、〇七〇	上野	交水社二羽	×	九七〇	相場概して動かざる工合なれども前日に比し一寸落付の風情に見受られし
九日	一〇〇	一六四	四一八	二〇	三二九	七一	甲斐	風間社込	□	一、一二〇	信濃	牧製銀絲	□	一、〇〇〇	適品薄の爲め捗々しき商ひ出來せざれど品により幾分か好直段なりし
十日	一六〇	一八一	四六七	一三	—	九一	武藏	富國軒	□	一、〇二五	岩代	頁製社赤	×	九九〇	前日同樣保合の成行なりし
十一日	—	—	—	—	—	—									日曜日
十二日	一五一	一三三	五三三	—	—	五九	甲斐	大龍館	□	一、〇五五	陸前	柳津製絲	□	九九〇	休業本國へ照會中の返電達せざる風情にて稍靜かなりし
十三日	三五八	一一〇	六〇七	—	一、四三六	八六	駿河	駿陽社	□	一、〇三七	岩代	共同一馬	+	九九〇	前日同樣捗々しき商談なく相場も幾分安直の方なりし
十四日	二四一	二〇	四五三	二九	—	三二	甲斐	風間製絲	□	一、一〇〇	磐城	山田製絲	×	九九五	引續き不人氣にて面白からざる成行なりし
十五日	二三八	八九	一二七	一三	—	四七	美濃	雲龍館	○	一、〇五〇	陸前	差館	□	一、〇二〇	新商談殆と止まり市面更に活氣なく弗々補充口小商ひに過ぎず
十六日	七三	一〇	一三一	—	一、二六四	九四	三河	三實社	○	一、〇八〇	信濃	令組	□	一、〇〇五	歐洲向きの品少しく商ひ出來せしに過ず引續き不味の足取なりし
十七日	二三三	九七	九四	二六	二〇一	一一	三河	同實社	○	一、〇八〇	武藏	隴林館	□	一、〇〇〇	別に變りなく捗々しからざる商況なりし
十八日	—	—	—	—	—	—									日曜日
十九日	一九八	六五	四五九	—	—	六	遠江	橫須賀社	○	一、〇九〇	岩代	共同一馬	+	九九〇	引續き靜況にて捗々しき商ひ出來ず相場も幾分か引緩みの方なりし
二十日	三六〇	二五五	一三七	一一	五五四	五	遠江	福川社	○	一、〇八〇	信濃	更級社銀	□	九八〇	品薄の爲め適當品は已を得ず多少我慢して取入たるものありし
廿一日	—	—	—	—	—	—									大祭日
廿二日	三五九	五二六	三四三	一〇	—	四五	遠江	橫須賀社	○	一、〇九五	信濃	尾澤組	□	一、〇〇〇	兩三館弗々新注文絶したる風情にて商ひ出來し相場も五圓方高直なりし
廿三日	四六五	二六三	三一三	—	—	五五	駿河	駿陽社	○	一、〇八五	岩代	共同二馬	+	九七〇	前日同樣先づ變りなく相場は手堅く保合の成行なりし
廿四日	一八五	四五三	七二八	二七	二五〇	九九	伊豆	田中製絲	○	一、〇八〇	信濃	信正社	□	一、〇〇〇	引續き商ひ出來し相場も五七圓高の景況なりし
廿五日	—	—	—	—	—	—									日曜日
廿六日	一二七	一六四	二一三	—	—	九六	相模	平木製絲	○	一、〇八〇	信濃	日吉館	□	九八〇	依然品物薄の爲め餘々取組みなきも氣配は小堅き味を失はざりき
廿七日	三五八	—	六二一	二三	三二	一八〇	遠江	天龍川社	○	一、〇九五	信濃	勝野製絲	□	九九五	前同樣變りなし
廿八日	一〇六	一四〇	三六五	—	—	一四二	武藏	共進社	○	一、〇七〇	上野	天原社一鬼	×	一、〇〇五	當用口へ弗々商ひ出來し市場は先づ保合の成行なりし
廿九日	二一二	一二七	四三六	—	八五五	五四	武藏	森澤製絲	○	一、一〇〇	伊豆	嵯南社	□	一、〇一〇	捗々しき商談なきも概して變化なし
三十日	一二九	七二	二五八	—	五八四	二二	羽前	三澤製絲	□	一、〇九〇	信濃	岡谷社	□	一、〇一五	前日同樣
卅一日	一四四	五二	一六三	—	三五三	五六	常陸	筑驛社	○	一、〇六五	伊賀	東海社	□	一、〇一〇	適品薄の爲め捗々しき商ひ出來せざれど底意小堅き風情に見受けられたり
合計	五、四九五	四、四二二	九、五八三	一八四	八、[illegible]一〇	一、九〇一									

尚左に本年以來の生絲集散の狀況を明らかならしめん爲め月別表を示すべし

生絲集散前年對照表

年月日	持越	入荷	賣了	積戻	積越	輸出 數量	輸出 價額
三十九年一月	三四,九五五梱	七,六一二梱	一四,六二六梱	一,二一二梱	二六,七二七梱	七九一,〇一二斤	七,八〇三,〇二〇圓
三十九年二月	二八,二二四	二,九六三	一四,七五四半	二,一〇七	一三,七〇一半	七五〇,六二二	七,三四三,七三七
三十九年三月	一三,七〇一半	五,四九五	九,五八三	一,九〇一	七,七一一半	七九五,七八七	八,二九四,九〇三
計	—	一六,〇七〇	三八,九六三半	五,二二〇半	—	二,三三七,四二一	二三,四四一,六六〇
三十八年同上	—	一八,七八三	二六,四三七半	三,九一半	—	一,七四一,五二〇	一六,八〇六,九二四

里昂市場

（二月三日發）

昨千九百五年中佛國に輸入せし海外各邦の蠶絲は、通計前二ヶ年に比し著しき減少を示せしに反し、輸出高は増超せり、左れば昨年の輸入高が輸出高に超過せし高は、僅に三百四十八萬二千五百「キロ」に過ぎず、然るに一昨年は其數六百九萬三千三百「キロ」、尚千九百三年は四百五十萬六千七百「キロ」なりき、又一方生絲檢査所に於ける體絲の受檢總高は、昨年の分三百三十七萬九千百七十五「キロ」、一昨年の分三百二十四萬八千五百六十三「キロ」及千九百三年の分三百二萬八千四百二十五「キロ」と注せらる、此等の統計數に因りて察するに、昨年の佛國に於ける各邦生絲の在荷數は例年に比し遙に輕減し居ることを證明せらるゝなり、左れば若し同年中にありて市場の不景氣の原因、就中米國機屋の需要減少及歐洲外交上の紛議等無かりせば、市場は大に買入現はれて殷盛なる市況を呈せしならんが、何分にも米國の如き大消費國が例年に比較し、頗る蠶絲の需要を減したることなれば、其餘響は延ひて歐洲市場に迄も及ぼし、各國一體の不景氣を呼び起せしも無理ならぬ次第とこそ云ふへし。

米國に於ける前二ヶ年の各下半期中輸入せし各邦の生絲數量は左表を示す如し。

米國へ輸入生絲高

	一九〇五年 千英斤	一九〇四年 千英斤	一九〇三年 千英斤	一九〇二年 千英斤
歐洲	一,八三三,八	二,三三〇,三	八三一,七	一,六三八,四
日本	三,〇〇三,三	三,一九九,六	三,四九七,八	三,〇六八,七
廣東	三〇七,一	六四〇,七	五四八,六	五五二,一
支那	七六六,八	七九五,〇	五六六,一	一,〇二八,七
梓蠶絲	三一七,七	三二三,四	一三六,七	一三七,〇
ベンガール	一四,九	一五八	一五,〇	一,一
計	七,〇五二,六	九,〇三一,八	五,五九七,九	六四五,六

佛國に於ける外交上の紛議即ち「アルヘシラス」事件の如きも稍平穏の歸着を告ぐるものゝ如しと云へど、未だ充分世人の安心して事業に取掛るべき模様見へず、従て目下織屋の原料取入方針も唯た日用區區の消費に充るものを買入るゝに過ぎず、左れば日々の取引は相應に出來するも、製絲家及輸入商の手許には不相變持荷堆積する有様なり。

本週歐州絲の出來直左の如し。

「セヴエーヌ」	優等	十一十二十四—十六	四十九半—五十法
同	一等	十一—十三	四十八法
同	二等	十三—十五	四十六法
「ピエモン」	優等	九—十一十一—十二	五十—五十一法
同	一等	十一—十二十一—十三	四十九法
伊太利	一等	十一—十二	四十八法
同	二等	十一—十二	四十六法
同	三等	十一—十二	四十四—四十五法

馬港繭の在荷高も減少し賣人澁し相場も爲に手堅く持續す、屑物は取引不活潑なれ共在荷薄の爲に相當底意手堅く保ち合へり。

日本生絲今週の出來直は左の如し

機械一半	二等	九—十一	四十九法
同	一等	十一—十二	四十七半四十八法
同	二等	十一—十二及一半十一—十三	四十六法半
同	一半	十三—十五	四十四半四十五法
同	一半二等	十二—十五	四十四法半
掛田	たるま		四十四二十五—四十四法半
同	一馬		四十三二十五—四十三法半
同	三馬		四十一二十五—四十一法半

紐育市場

紐育に於ける生絲に付き、同地駐在帝國總領事電報左の如し。

生絲取引少し相場變なし昨今の高値にては機屋損失を免れず。（三月八日）

生絲は横濱相場騰貴ぜるも當地の取引少し。機屋の手許には當座用具の外荷物なしと云ふ。機械一番四弗二十仙より二十五仙。（三月二十三日）

生絲は織物賣行鈍きため、織機屋手元原料の少きにも拘らず、取引稀れなり相場變らず。（三月三十日）

生絲は取引少きも當市場及各國産地在荷僅少のため相場高し。機械一番四弗二十五仙より三十仙。（四月五日）

世界に名高き我國の
蠶絲の輸出は多くして
飼ふ蠶の變は進めども
製造技術がともなわぬ
トコトン〈〈

絲州 晩山

外報

英領印度の絹織業

在「カルカッタ」獨逸總領事が本國に差し出した、英領印度に於ける絹織物業に關する報告は、頗る有益にして且つ此の報告に據て英領印度に於ける外國の絹織物、就中歐羅巴及日本の絹織物の輸入の狀況を知る事が出來るから左に其大要を紹介しやう。

印度の絹織物業は昔は非常に盛大を極めたものであつたが近年に至て追々衰頽の傾を呈し來つた、其原因は流行の變化木綿物消費高の増加、佛蘭西、伊太利、日本及支那の競爭等が主なるものである、千九百四年に佛蘭西と伊太利とは雙方合して三十萬磅の絹織物を印度に輸入した、其前年の兩國よりの輸入は二十萬磅に過ぎなかつた、印度全體の絹織物の輸入は更に驚くべきものありてす、千九百三年は百十七萬七千八百九十一磅であつたが、千九百四年には百四十萬四百二十磅に増加した、獨逸は近年益々多く印度に絹織物を輸入する、千九百二年は二萬五千百七十一磅、千九百三年は二萬八千百六磅、千九百四年には四萬八千百四十八磅を輸入した。

更に進んで印度から外國へ輸出する絹織物の狀況を見るに十年以前の輸出高と今日の輸出高とを比すれば今日は殆と三分の一に減少した。

印度には二個の絹織物機械工場がある、此の二個の工場は何れも孟買に在るのである、其材料たる絹は支那へ行く阿片船が戻りに支那から積み込んで來るのである、此の外印度には約三十の手織工場がある、其大部分は「ベンガール」に在るが緬甸及「ブンヤ」にも亦多少の手織工場がある。

印度に於ては目下人工生絲の製造が盛大に成つて來る、そこで印度の絹織物工場は人工生絲を使用する事に成る、然し生絲の値段は蠶繭の値段に從つて、天候と往年の蠶繭の色沢と化學的製造作業の退歩した如き事の起らざらんことを希望して居る。

瓜哇の蠶絲業

瓜哇で始めて蠶兒の飼育を試みたのは十八世紀の始め即ち千七百二十年の頃ニズウルデクローン」の御世の下であつた、爾來百年の後、ビュース、ド、ジジニーが再び蠶兒の飼育を試み、千九百二十九年に六十七リーブルの生絲を產出した「ファン、デン、ボスチュ」と云へる島司は千八百三十一年に瓜哇の十二縣内に五百六十五「エクタール」の桑樹を栽培することを命令した、當時各蠶絲國即伊太利、佛蘭西、英領印度、支那及日本より多數の蠶種を輸入した「デアール」と云へる一の佛國人は「ゲデー」火山の山腹に一の蠶室を設けて育蠶を試みたが、山腹の蠶室を麓に移したと同時に蠶兒は急ち變性した、「モレンゲル」は蠶種を冷室中に蓄へることを試驗した千八百三十八年に至て政府は將に養蠶の業を放棄せんとした時に「ローレン、クーケルク」なるものの出でて、自ら佛國に渡り實地の研究を爲した後「ローヌ」河畔の養蠶家四名を伴ひ來り、大に斯業の發達を奬勵した爲めに「ブレアンゼー」「ジンボン」及「ランバン」の各地に於て多くの養蠶家を生ずるに至つた。

千八百三十九年に於て瓜哇島は六十一個の桑園と五千八百三十八個の蠶室に約百萬の蠶兒とを有したが之れより得たる生絲の價格は非常に高價に附いたが、其後數年の後「ホ、ル、ロ、ッ、ク、ン、ゾ、ー、ル」の時代に於て安藤支那の養蠶家の補助の下に「ピ、ッ、ク、ン、ゾ、ー、ル」の植物學校で盛に養蠶を試みた。

瓜哇島で實際に養蠶より利益を得ることに成つたのは或る支那人の盡力に依つたのであるが、在「タ、ビ、ア」の佛國領事が曾て明言した通り、瓜哇島の氣候は非常に熱くして且つ湿潤する爲めに、同國にて蠶絲業の大發展を見ることは蓋し不可能の事であろう、又同領事の言に據れば瓜哇島内には目下二三の蠶室があるのみで、其内最も盛大なるものは「バンカラジン」に在て支那人が之を主宰して居る、數年以前より此の支那人は六十二個の繰絲釜を有する製絲場をも建築した。

桑樹は瓜哇島内到る處にて發育するが、氣候との關係上之を蠶兒に給養すると蠶兒の健康を害するのである、土地の低き處は殊に然りである、日本及其他氣候の順良なる處で蠶兒は冬期に於て休養するが、瓜哇島内には氣候が斯へず熱つ

い、爲めに、非常の繁殖力を有する蠶兒は大念に成育せんとして、際へず働く故に、能く其生活機能を損するのである、併し此頃に至り前に述べた支那人が「ボ、ビ、ク、ス、モ、リ、ー」種と「ランボン」「スマトラ」の南部に在る種とを混合して得た蠶兒は熱つき氣候に抵抗することが出來る樣に成つた。

瓜哇島の繭廻額に就ては種々有益なる試驗を爲したものがある、eiroulu trifenestrata は年内の或る時期に於て非常に落殘するものにして、其繭の色は美しき金色を呈し「eunarium communis」「eusuchiea indica」「perseu gentistma」等の樹に房を爲して生育する、此の繭よりは絲を繰り出すことは出來ぬが其綿は紡績織物に使用して最妙でもある。

Attacus atlas は「ampelolum hippocoum」「erythrina indica」「emusmocorum sulhuscium」等に生育するものにして、其蛾は非常に美麗にして其繭は廣大である、併し之れよりも產する絲は少しく劣等である。

「ボ、ム、ソ、ス、ー、ー、ー、ー、と、「ricinus」、とを混合した繭種は最も頑强にして能く軟化病黑死病其他の病に堪へて其絲も其た良好である。

瓜哇の生絲は「バタビア」の仲買を經て佛國へ輸出せられるが、香港へ送り出す方が價格の上に於て利益である、香港の仲買人か之れを米國へ轉賣する故に比較的高價に買ひ入るる爲めである。

去れど瓜哇から輸出する生絲は決して多くはない、併し其正確なる額は之れを知ることが出來ぬ、稅關の統計表にも明記なく、又繰絲釜の數に依て見ると高を也概算することが出來ぬ、何となれば繭の皆無のときは繰絲工女は手を束て怠くて其業を休せねばならぬからである。

會務錄事

評議員會

三月二十日午後三時より神田區錦町三河屋に於て、第二回評議員會を開きたり。當日出席せられたる諸氏の姓名及議題左の如し。

（會頭男爵）

松平正直　　（副會頭農學博士）酒匂常明
伊藤富次郎　　橋本重兵衛
林彈作　　本多碧次郎
加賀山辰四郎　　吉池慶正
辻鶴太郎　　土屋泰
棟木喜三　　永井米藏
南條吉左衛門　　工藤善助
北村七郎　　鷲藤章（いろは順）
下田伊左衛門

議題

一、明治三十八年度決算報告の件
一、功績賞賞授與の件

明治三十八年度決算報告に關する件に就ては加賀山監事より、嚴格に審査の結果別に間然する事なきを以て是認したる旨報道せられ、滿場異議なく之れを可決し、功績調査表彰に關する件に就ては、下田同委員より調査報告ありて之れ亦た異議なく原案の如くに可決したり。

四月五日午後三時第二回評議員會を、神田區錦町三河屋に於て開きたり、當日出席せられたる諸氏の氏名及議題左の如し。

會頭男爵　松平正直　林驥作
橋本重兵衛　羽田桂之進
本多岩次郎　尾澤琢郎
加賀山辰四郎　吉地慶正
辻暢太郎　土屋泰
角田喜右作　練木喜三
永井米藏　南條吉左衛門
丸岡寛三郎　男爵　船越衛
佐野理八　下田伊左衛門（いろは順）
紫藤章

議題

一、理事撰擧の件

一、監事撰擧の件

松平會頭より第一回總會の決議に基き、佐々木忠次郎尾澤琢郎今西直次郎の三氏を新撰し、其他の二十七名は凡て前任者を撰擧したるを以て、今後益々本會の爲めに盡瘁せられたき旨陳述せられて、更に定款第二十條に依り、理事七名を改撰せられたしと宣告せられたり、南條評議員は會長指名說を提出し、加賀山評議員は前任者の再選を望み、滿場異議なしと呼び乃ち會頭に於て左の七氏を選擧せられ會頭副會頭も亦重任の事に確定したり。

會頭　理事　男爵　松平正直
副會頭　理事　農學博士　酒勾常明
理事　紫藤章
理事　本多岩次郎
理事　佐野理八
理事　星野長太郎
理事　吉池慶正

尋で監事二名の選擧となり會頭指名說に議決したるを以て松平會頭は前任者たる左の二氏を撰擧したり。

監事　高橋新吉
監事　加賀山辰四郎

右終て松平會頭より戰後蠶業の發展に對し、本會の大擴張案を諮問せられ、結局目下の急務とする處は、講堂の建築會員の大募集の二つに在りとし、各自其意見を述べ、委員各五名を擧げて其方法を充分調査せしむることにし、其委員は追て會頭に於て、指名發表せらるゝことに可決確定したり。

西多摩支會

西多摩支會にては、創立以來銳意畫策蠶絲業の改善に努め成蹟の見るべきもの甚だ多かりしが、今回時勢の進運に鑑み西多摩一郡のみにては設立區域狹小にして、充分の活動を爲

し得ざるを遺憾と爲し、更に進んで規模を擴張し、汎く府下の會員を以て組織し、大に斯業の改善を圖るの目的を以て、東京支會と名稱を變更し、去十五日に東京府立第二中學校講堂に於て當支會第一回總會を擧行したり、其詳報は次號に掲載すべし。

會員動靜

本年三月中本會に入會せられし者左の如し。（二百四十九名）

○特別會員

東京府　男爵　千家尊福
同　大城戸宗重
同　富澤松之助
群馬縣　毛呂佳太郎
福島縣　龜岡晉五郎

○通常會員

東京府　田村幸三
同　岸野知治
同　乙幡廣三郎
同　佐々木一徹
同　小池仲次郎
同　坂本勘十郎
同　清水製絲場
同　久保儀三郎
同　石川信之助
同　小室金十郎
東京府　中島治郎兵衛
同　鈴木榮次郎
同　瀧島續之助
同　村山錄三郎
同　柳内寅藏
同　山崎竹次郎
同　沼田茂三郎
同　吉岡勝三郎
同　内野松藏
同　原田市五郎
同　中藤俊彌
同　鈴木明次郎
同　和地孫三郎
同　尾崎秀治
同　内藤新田青年會
同　早野三五郎
同　小山寅之助
東京府　秋山源次郎
同　小山久七
同　佐藤龜治
同　久野倉吉
京都府　日下千太郎
同　辻清太郎
同　文字可三
同　安達幾太郎
同　高家仲藏
同　稻川重兵衛
同　中村吉太
同　黑田惣吉
同　松本藤吉
同　岡崎淺藏
同　的場辰藏
同　豐島瀧藏
同　井上弘文
同　山崎義方
同　上野義雄
同　谷口善藏
神奈川縣　富澤豐治郎
同　小林粂吉
兵庫縣　河關吉兵衛
同　河本清一郎
同　藤井安次郎
兵庫縣　瀬尾午藏
同　足立喜代治
新潟縣　山崎早太
同　柳澤彌七
同　關口眞太郎
埼玉縣　村田昌吾
同　野本治兵衛
同　堀口治太郎
同　若山彥次郎
同　福田藤松
同　荒木軍三
同　長谷部英三郎
群馬縣　飯島菊藏
同　沼清藏
同　須田三省
同　古屋清太郎
同　倉田惣五郎
同　福島清八
同　清水清十郎
同　岡本定七
同　齋藤倉七
同　福田慶五郎
同　小林貞次郎
同　市川いつ
千葉縣　御園勇之助

茨城縣　藤井伊藏
同　中山勇造
同　西豐田村鳥會
同　富田正三郎
同　青木文一郎
同　東澤吉
三重縣　宮下孫三郎
同　杉山喜久
愛知縣　黑野友治郎
同　野澤延枝
同　柿田國三郎
同　巴權市
同　本堂林八
同　大澤產九郎
同　小木曾春雄
同　大庭俊三郎
靜岡縣　稻葉嘉吉
同　須田兵衛門
同　正木新助
同　山本彌右衛門
同　稻葉來藏
同　竹田定
同　太田正耕
同　近藤市
山梨縣　大柴吉信
同　武井常助
同　窪田昌平
同　山下源左衛門
同　武井靜夫
同　前田茂忠
同　前田恒四郎
同　西川古壽
同　小澤義元
同　武井定市郎
同　生原德兵衛
同　山下喜六
長野縣　上田喜之助
同　石原喜作
同　今泉幸一郎
同　小林龜藏
同　初狩村役場
同　佐々木傳一郎
同　賑岡村役場
同　上條儀德
同　上野原町役場
同　原島道太郎
同　功刀林藏
同　矢島製絲場
滋賀縣　馬淵研造
岐阜縣　清水悌一
同　青木興作
同　青木菊治郎
同　澤田守一
同　服部產三郎
同　境谷孫三郎
同　九山長松
同　鉛長次郎
同　上田三代造
同　井口好澄
同　保刈祐次
同　矢島喜代松
同　川上清貞
同　福島鐵三郎
同　清水忠五郎
同　山瀨龜太郎
同　宮口宇之助
同　小羽根萬之助
同　池口今朝次郎
同　野尻依近
同　原十次郎
同　宮木光太郎
同　中村治助
同　上田健五郎
長野縣　塚本清一郎
同　藤森英十郎
同　諏谷島太郎
同　細川吉次郎
同　山本春治
同　北原喜太郎
同　池田五十二郎
同　村松隆一郎
同　林部安十郎
同　齋藤象吾
同　松井生作
同　安川保次郎
同　小山慶之助
同　太田平右衛門
同　小口善重
同　牛澤鶴松
同　小林與助
同　有賀芳次郎
同　田中熊平
同　藤森安太
同　牛山駒太郎
同　津金宇平
同　河西榮左衛門
同　伊藤長作

長野縣　原忠三郎
同　小島與江
同　親島藤
同　金澤宗吉
同　遠藤延彌
同　鈴木新作
同　吾妻忠治
同　柳原勇助
同　龜田晉五郎
同　吉田今朝五郎
同　原田爲吉
青森縣　西村德三
山形縣　金谷瀧雄
同　佐藤英造
同　淀野義平
同　佐竹友吉
同　大谷武夫
同　加藤運藏
同　佐藤釜人
同　笹島長左衛門
同　佐藤虎之助
同　澁谷惣七
同　松田政之助
同　前司平七
同　竹田多賀治
岩手縣　石田隆治
同　渡部政五郎
同　井出丑太郎
同　太田定吉
同　佐藤八太郎
同　牛谷貞憲
同　佐藤平次
同　鈴木民之助
同　三嶽辰藏
同　相澤藤七
同　佐藤健藏
同　大瀧與次
同　林茂富
同　齋藤藏
同　久森紫朝
秋田縣　柏木好太郎
鳥取縣　桑本有常
古谷熊藏
同　松吉
新　東伯蠶絲同業組合
同　佐藤英造
同　岩垣體藏
同　上山岩吉
同　長谷川準
鳥取縣　松本周一
島根縣　驗馬邦男
同　大瀧利久馬
同　小野田豐吉
同　內田寬
同　太田定吉
同　佐藤八太郎
同　久世製絲合資會社
同　內田正雄
同　廣島藤
德島縣　岡藤遠太郎
同　大栗左馬太郎
高知縣　高屋
同　上島永治
同　長友知義
宮崎縣　內田寬
鈴木長俊
同　光永茂
平原惣一郎
同　谷又三郎
熊本縣　久世製絲合資會社
同　內田正雄
德島縣　岡藤遠太郎
北海道　各省會社赤眞社
同　大栗左馬太郎
古木太吉
右の內にて、千家大城戶、久保の三氏は下田伊左衛門氏。宮澤氏は西多羅支會。田村、岸野、佐々木の三氏は高崎治平氏。毛呂氏は角田喜右作氏。乙幡、小池の二氏は村田金藏氏。清水氏は清水茂吉氏。石川、小室の二氏は石川國太郎氏。中島、鈴木の二氏は西條仁義氏。瀧島村上の二氏は川上幸次郎氏。柳內、山崎、沼田の三氏は大越七郎左衛門氏。吉岡、內野、原田の三氏は井上惣助氏。中藤氏以下三氏は本多角次郎氏。早野氏以下三氏は榎本熊太郎氏。日下氏以下十三氏は京都府支會。齋澤、小林の二氏は田島周太郎氏。河關氏以下三氏は西村朋之助氏。足立氏は關口宗一氏。山崎氏は近藤貞次氏。村田氏は加藤三氏、野本氏以下五氏は齋藤積太郎氏。飯島、沼田の二氏は佐藤太郎氏。須田、古屋の二氏は桑島定助氏。金田氏は荻野千代吉氏。福田、市川の二氏は齋藤正次郎氏。小林氏は宮崎有吉氏。藤井氏は狹間虎吉氏。中山氏及西豐田村農會は立花藤氏。東氏は若林岩太郎氏。杉山氏は高橋琰橘氏。黑野氏は高澤市太郎氏。野澤、柿田の二氏は鹽岡產兵衛氏。巴

氏は増子德之助氏。本堂氏は竹村長義氏。大庭三田の二氏は三矢興六氏。稲葉氏以下五氏は矢田部强一郎氏。近藤氏及矢島製絲場は山梨支會。大柴氏は小泉彌門氏。武井、窪田の二氏は大須賀藤勝氏。山下氏以下八氏は代永金太郎氏。上田氏は鈴木勢次郎氏。石原氏は赤澤榮輔氏。今泉氏以下七氏は廣瀬貞平氏。功刀氏は内田文四郎氏。馬淵氏以下四氏は安田壽作氏。服部氏は脇田重太郎氏。境谷氏以下四氏は町田治助氏。井口氏は上田政一氏。矢島、川上の二氏は矢島清吉氏。福島、清水の二氏は曾根原波二氏。山瀬氏以下十氏は藤澤藏次郎氏。諏谷氏は福澤織太郎氏。細川氏以下九氏は工藤善助氏。小林氏以下九氏は諏訪蠶種同業組合事務所。井出氏以下五氏は安齋七三郎氏。西村氏は青木彌七氏。金谷氏以下二氏は荻原安市氏。佐竹氏以下三氏は青野泰治氏。笹島氏以下三氏は村形真次郎氏。前司氏以下十四氏は毛呂正容氏。林氏は精青館久森氏は植木定静氏。柏木氏は吉田三太郎氏。桑木氏以下六氏は近壻種太氏。長谷川、松本の二氏は富長爲太氏。驗馬氏氏は安齋一郎氏。光永氏は逸見實雄氏。近森氏は小笠原忠澄氏。平塚氏は池田榮太郎氏。谷、德淵の二氏は細谷久一郎氏古木氏は安原與三氏。鈴木氏は紹介せられ。佐藤、久野、上野谷口、柳澤、關口、福島、清水、岡本、齋藤、御園、富田、青木、宮下、大澤、小木曾、太田、保刈、小山、太田（平右衛門）小口、牛澤、鳥岡、吉田、原田、齋藤（藤鷹）島谷、内田、久世製絲合資會社、内田（正雄）、岡藤、大梨、上島、福留、鈴木、合名會社赤眞社の三十七氏は就れも各自に申込れたり。

●又同月中死亡せられし者左の如し。

○通常會員

宮城　豐　島　幸　之　丞　　福島　中　木　儀　平

長野　安　井　新　七

本會會員現在數明治三十九年二月末日現在）

會員總數　九千五百六十五名

内　譯

名譽會員　十三名

特別會員　三百四十七名

通常會員　九千二百〇五名

蠶桑雜觀

蠶病豫防法施行規則改正

去三月三十日の官報を以て發表せられたる蠶病豫防法施行規則中改正せられたる分左の如し。

農商務省令第九號

明治三十八年農商務省令第七號蠶病豫防法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月三十日　農商務大臣　松岡康毅

第五條中「燒棄シ又ハ」ノ下ニ「熱湯」ヲ加ヘ「ヲ之ヲ滅殺シ」ヲ削除シ「乾燥」ノ下ニ「シ又ハ熱湯中ニ投入シテ其ノ病源ヲ滅殺」ヲ加フ

第六條中「他ニ移シ病蠶」ノ下ニ「及蠶蠶」ヲ加ヘ「準シテ滅

殺」ヲ「據リテ處理」ニ改メ「其ノ蠶室」以下ヲ「其ノ蠶室ニハ「フォルマリン」ヲ撒布シ蠶具ニハ「フォルマリン」撒布消毒、蒸汽消毒又ハ蟻酸「アルデヒート」瓦斯消毒ヲ行フヘシ」ニ改ム

第七條第一項但書ヲ左ノ通改ム

但シ繭ノ障板ニ接觸スル場合ニ於テハ其ノ繭ノ高サヨリ二寸以上ヲ保タシムヘシ

第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ「第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ、第三項中「第一項又ハ第二項ノ」ヲ「蠶蛆若ハ其ノ蛹ノ散逸ヲ防止スヘキ」ニ改ム

蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防ク爲ニ足ルヘキ構造ノ室ナルトキ又ハ同樣ノ容器中ニ生繭ヲ保存スル場合ニ於テハ前項ノ設備ヲ爲スヲ要セス

第十條第一項中「其ノ使用後ヲ削除シ左ノ但書ヲ加フ

但シ新桑ノ蠶室又ハ新調ノ蠶具ニシテ當該吏員必要ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二項ヲ削除シ第三項中「第一項又ハ第二」ヲ「前」ニ改ム

第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ不越年原種ニ在リテハ第三號ノ檢査ハ第三號ノ檢査前ニ之ヲ行フコトヲ得

第十八條第二項但書ヲ第三項トシ「病毒」ノ上ニ「前項檢査ノ場合ニ於テ」ヲ加フ

第十九條中「不越年製絲用種」ノ下「ノ」ヲ「ハ其ノ」ニ、「ハ之ヲ無效」ヲ「ニ樣式第九號消印ヲ押捺シ之ヲ不合格」ニ改ム

第二十條中「ニ依ル不越年製絲用種ノ卵ト出殼繭」ヲ削除シ「第二項但書ニ依ル製絲用種卵」ヲ「第三項」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ不越年原種ノ卵ト出殼繭ノ檢査ハ地方長官カ第四十六條ノ手續中ニ之ヲ規定シタル場合ニ限リ蠶種製造ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第二十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ蠶見ヲ讓渡シタル場合ニ於テ其ノ蠶見ノ掃發ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條第二項中「原種用ト製絲用」ノ下及「臺紙」ノ數、「製絲用」ノ下ニ「種用」ヲ加フ第三項中「原種用ノ印」ノ下ニ「原種檢査合格ノ證印」ヲ「トキハ」ノ下ニ「現存セサル蠶種ニ付テハ」ヲ、「之ヲ無效」ノ下ニ「トシ現存スル蠶種ニ付テハ樣式第九號消印ヲ押捺シ之ヲ不合格」ヲ加フ

第二十八條中、第二項但書ヲ「第三項」ニ改ム

但シ第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十六條第二號ノ檢査前ニ同條第二號ノ檢査ヲ行フ場合ニハ出殼繭ヲ差出スコトヲ要セス

第三十四條第一項「押捺」ノ下ニ「シ其ノ有毒印ヲ押捺シタル區ハ之ヲ不合格」ヲ、第二項中「亡失」ノ下ニ又ハ混亂」ヲ、第五項中「同一ノ」ノ下ニ「原種製造及原種製造場所ノ製造ニ係リ且同一ノ」ヲ加ヘ第五項中「自己ノ認印」以下ヲ「樣式第十五號雛印ノ押捺ヲ受クヘシ」ニ改ム

第三十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官病毒存在ノ疑アリト認ムルトキハ顯微鏡ヲ用ヰテ卵ノ檢査ヲ行フコトヲ得

第四十條第一項中「其ノ程度」及第四項ヲ削除ス
第四十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第四十條ノ二　前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
一　名稱及所在
二　研究ノ目的
三　研究ノ方法
四　研究ニ從事スル者及之ヲ主管スル者ノ姓名並履歷ノ要領
第四十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ他人ヨリ讓受ケタル蠶兒又ハ繭ヲ以テ製造シタル原種ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第三項ヲ削除ス
第四十二條第二項ヲ削除ス
第四十二條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
第四十二條ノ二　第四十條ノ二第一號乃至第三號若ハ第四十二條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ變更シ又ハ第四十條ノ二第四號ノ研究ニ從事スル者、主管者若ハ第四十二條第四號ノ職員ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ
第四十二條ノ三　農商務大臣必要アリト認ムルトキハ第四十條又ハ第四十一條ノ認可ヲ取消スコトヲ得
第四十八條中「第十三條」ノ上ニ「第二條」ヲ、「讓渡シ」ノ下ニ「若ハ情ヲ知リテ讓受ケ」ヲ加フ
様式
第二號中「場所」欄「字」ノ下ニ「番地」ヲ加フ
第三號ヲ左ノ通改ム

年　月　日
道廳府縣郡市村町字番地（製造ノ場所）
蠶種製造者　氏　名
蠶病消毒濟證
道廳府縣[印]

第十三號「朱」ヲ「青」ニ改ム
第十九號第六表備考中ニ第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ
框製ノ製絲用種アルトキハ前項ニ準スヘシ
本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

官制發布十周年紀念式

東京蠶業講習所に於て去月十八日官制發布十周年紀念式を擧行せられたるか當日松岡農商務大臣、和田農商務次官、酒匂農務局長、濱尾東京帝國大學總長、山脇行政裁判所長官、農事試驗場長古在由直、横濱生絲檢査所長紫藤章、工業試驗場長高山甚太郎、貴衆兩院議員、男爵澁澤榮一氏其他朝野の來賓五百餘人にして一同著席君か代の奏樂あり本多所長式辭、松岡農商務大臣、大井衆議院議員の祝辭ありて、次に卒業生總代捶谷消多郎、講習生總代角館喜一郎二氏の答辭にて式を終りたり所長の式辭及農商務大臣の祝辭左の如し。

所長式辭

茲に本所官制發布十週年紀念式を擧行するに際し、農商務大臣閣下貴衆兩院議員諸賢其他朝野諸君の臨場を辱ふせるは本所の深く光榮とする所なり、抑も當

蠶業講習所は去明治十七年に於て創設せられたる蠶病試驗場に權輿するものなりと雖も、初めて官制の發布によりて名を蠶業講習所と改めたるは實に去明治二十九年三月十八日にして、本日は正に其十週年紀念の日に相當せり、官制の發布以前は蠶業試驗場と稱して、專ら蠶絲業に關する諸般の試驗調査に從事し、傍ら當業者の子弟に對し斯業の經營上直接必要なる事項を授くるに過ぎざりし、同年以後は主として當業者指導獎勵の任に當るへき者を養成し、併せて各種の試驗研究を行ひ、且蠶種の配付質問應答巡回講話等の途を開き、以て直接當業者を稗益せんことに勉めたり、然れども其設備未た當時の斯蠶界の要求に應ずるに足らず、明治三十二年四月京都蠶業講習所の設置を見るに至り、本所は名を東京蠶業講習所と改め東西相應じて斯業發達に蟲むることゝなせり、越て三十五年更に其規模を擴張し特に製絲部を設け製絲業に關する試驗研究を繼くすると同時に、本科男女生及別科女生を養成することゝなせり、然れども斯業進步の趨勢は一層深き素養ある人士を要求すること切なるに鑑み、三十八年五月養蠶部別科を廢し本科男生の講習程度を高め其學期を三箇年に延長せり爾して此間に於ける卒業者の數實に七百八十四名なり又本所卒業生にして更に深遠なる學術を修めんとする者の爲に、研究科を設け、其入學を許可せる者は百四十四名なり、又各府縣知事の推選に係る當局技術官其他を募集し蠶病消毒法の講習をなせるもの前後三箇年にして其人員百四十三名なり、又外國人にして本所に入學し養蠶製絲の學術を修めたるもの前後二十六名あり、卽ち既往十年間に於ける此等各種の卒業者を合するときは其數一千九百七十七名にして、此等は皆自ら蠶絲業の經營に從事し若くは職を官廳其他に奉して力を斯業の改善發達に盡しつゝあり、試驗事業に在りては製桑養蠶製絲の各事項に亘り所務及設備の許す限り之れか施行を怠らず、而して其成績中當業者の參考に資すへしと認め世に發表せるもの三百十三件なり、右試驗の成績は每年蠶事報告として廣く當業者に配付し又臨時の必要に應し此等試驗成績の要點其他緊要の事項を錄し臨時報告として配付せるもの少なからず、其數兩者を合すれば實に十三萬餘部の多きに達せり、本所試製の蠶種中其成績良好なりと認め地方當業者の希望に應し配付せるもの二千餘人四十六萬三千餘蛾の多きに及ひたり、又地方官廳若くは當業者の請求に依り本所技術官を派遣して講習講話をなさしむるもの每年略五十件を下らず、其他質問應答器械器具又は製品等に對し鑑定を與ふるもの識と共に增加し今や每年略ゝ一千件内外の多きに達するに至れり右の如く本所は常に斯業進步の趨勢に鑑み微力を其最貢に盡さんことに勉めたりと雖も、翻て内外蠶絲業の狀勢に鑑みるときは省みて尚及はさる所甚た多し、今や歐米諸國に於ける機業界は其進步頗る急速にして益ゝ多額の蠶絲を需用するのみならず、年と共に精良なる原料を要望すること甚た切なり。顧も本邦蠶絲業界の現狀精良なる蠶絲を得る所以の途に於て未た盡さゝる所甚た多し、本所は益々奮勵して以て之れか改善發達に蟲めんことを期すと雖も微力及はさる所多きを恐る、希くは來賓諸彦の助力と協贊とにより此目的を遂ぜんことを、聊か既往の事蹟と將來の希望とを陳へて以て式辭とす

農商務大臣の祝辭

本日東京蠶業講習所官制發布十周年の紀念式を執行す、余眷ふに事の創始に際るものは動もすれば艱難支吾し豫期の如くならさること殆と免れ難きの情勢なり、當講習所の事業たるや要するに一蟲の微一絲の細に過ぎず誠に平易の些事たるか如しと雖も、其玄微を檢審し其絲帶を研磨するは亦一大至難の事たること其局に當る者にして始めて之を知るへし、當所は官制發布以後僅に十年に過ぎす其事は眞に創始に屬せり、故に其間意外の艱難支吾もありしならん、又至微至細なる故に却て巨大の農工事業に倍徙する困難苦痛も有りしならん、然るに其苦辛の效は不知不識の中に世間に傳播せり卽我海外輸出の重要物產の最上首位を占むる所の生絲絹類の發達は各當業者の勞力に依ることは勿論なれとも、當所の功績も亦隱然與て力有りしことは疑を容れさる所なり、自今益微細の事物を研窮し檢審し傳播し以て更に最大巨額の產物を海外に輸出せしむるに至らんこと本大臣の企望すると同時に其企望の徒しからさるは確信する所なり兹に數言を陳へて以て紀念式の祝辭に換ふ。

式後來賓一同は所内を觀覽せられたるが、所内各處には蠶業上の統計、病理、製絲器、繭、生絲、斯業に關する外國の參考品を陳列し、餘興としては蠶業世界と題して蠶業に因める世界各地を陸粟毛樣に場割を爲して其地名を地口に爲し、又滑稽笑覽會には変香燒の棍棒、二宮尊德の草鞋、大西鄕の草履、秀吉の齒、大久保彥左衞門拜領の社杆、廣瀨中佐の肉

塊など百餘種滑稽的に陳列し、園内には富岡丸(商船)紀念塔(乾燥器の簇を以て造りたるもの)其他蠶業に因める飾物等ありて頗る面白く感じたり、陳列品觀覽の際などには、本多所長を始め所員諸氏一同熱心に説明の勞を取られ、如何に蠶絲業に智識なき者も容易に了解するを得たるは一同の深く滿足する處なりし、正午食堂に於て立食の饗應あり、午後一時より農事試驗場を巡覽し夫れより假裝行列女生徒の茶の湯、椅子取、大神樂、相撲等の大餘興ありて寔に來賓を待つの禮至れり盡せりにて一同其優待を歎びつゝ散會したるは午後三時過ぎなりき。

消毒藥の大共同

新潟縣各郡蠶絲同業組合は連合して「フォルマリン」の大共同購入を行ひ之が良否の鑑定は同縣農事試驗場に依托したる由なるが、同場に於て分析試驗の結果正品と認め、各部へ配布せられたる數量合計三千九百四十四封度に達したりといふ。

中央線竣工と新繭輸送

中央東線岡谷鹽尻間の鐵道工事は目下頻りに之れを急ぎつゝありいづれ五月中には全部完了を告ぐべき豫定なれば鐵道作業局にては六月上旬營業開始の豫定なる由愈々開通するに至れば旅客の便利は勿論本年の新繭輸送は頗る便利を得て當業者は至大の影響を蒙るべしといふ。

延昌永製絲所

清國蘇州延昌永製絲所は伊清兩國人の共同經營の下に資本金三拾萬兩を以て、去る三十五年に開設し、其後全部清國人の手に帰し、繰絲に從事し居りし處或事情の爲めに器械付建具及地所一切約五萬兩にて之れを他に賣却することゝなりたる由なるも、可相成は本邦人に引渡したしとの事より、在蘇州白須副領事より我外務省へ其旨通牒し來りたることとなるが該製絲所は六口繰乃至五口繰の鐵製精良機械にして、二百個の繰絲釜と百個の理緒釜とを有し、運轉資本だに豐富なれば女工三百人職員職工約五十人にて一ヶ年三百日の就業とし、一日平均二十一貫目即ち六千三百貫の生絲を製出すると敢て難事にあらず、而して其原料の如きは低廉(日本繭に比し)に購入するを得て頗る有望のものなるべしと云ふ、因にいふ希望者は農商務省蠶絲課に承合せらるべく其詳細を知るを得るは勿論出來得る丈け便宜を與へらるべしと。

韓國の養蠶

韓國の養蠶事業は咸鏡道を除き其他各道は一般に降霜も稀にして而かも雨僅少空氣乾燥なるが故に桑園に虫害を受くることなく自然蠶に遺傳性、傳染病毒に感ずる事少なく蠶児の體質健全且つ絲實強靱にして光澤多く、又た全國到る處桑に適せざる地所なきは勿論、地價非常に低廉なるを以て、我國の養蠶地たる群馬、長野に劣らざれば實捌の地は本邦としても利益あるは疑はざる所なるべしとは韓國視察者の殆んど異口同音に唱ふる處なるが、其筋の調査に依れば、最も有望なるは養蠶と牧畜たるに相違なきも、併し邦人實業家中未だ斯業に着手し成功せる者なしとなり、尤も韓國在留日本婦人及び韓國婦人の合同より成れる朝鮮婦人會は昨年來蠶業に着手し養蠶其他桑の栽培等を試みしも餘り成績の宜しからざるより本年は統監府の奬勵により前年の不成蹟に挫折せず大に蠶業を經營する由にて我農商務省に實地經驗に富める蠶業技師の紹介を申込み來れりといふ。

生絲法案と羽二重法案

生絲檢査法案は去月二十四日の衆議院に於て遂に否決の悲運に陷りたるが輸出羽二重法案は大修正の下に殆んど發案の大趣旨を沒却したりとまで呼ばれたるも、兎に角貴衆兩院とも通過したり。

生絲檢査所月報 (三月分)

檢査件數

檢査年月	原量	正量	品位	練減	計
本月	—	二、七八五	一、九二〇	三	四、七〇八
前月	—	三、三七七	二、二四七	—	五、六二四
昨年當月	—	一、六八四	一、六七四	一	三、三五九
本年累計	—	九、四七六	六、五七三	三	一六、〇五二
昨年當月迄累計	—	六、四四三	四、七五〇	二	一一、一九五

正量檢査

一檢査件數	二、七八五件		
一總全量	一三〇、八〇七瓩	五二〇瓦	(約斤) 二一八、〇一三斤
一總風袋量	二、五六九瓩	六三〇瓦	同 四、二八三斤
一總原量	一二八、二三七瓩	八九〇瓦	同 二一三、七三〇斤
一總無水量	一一三、四二五瓩	〇八〇瓦	同 一八九、〇四二斤
一正量	一二五、九〇一瓩	八七〇瓦	同 二〇九、八三六斤

總原量と正量との差二、三三六瓩〇二〇瓦にして總原量一〇〇に對し一、八二

檢査年月	檢査件數	含水量百分比例 平均	最多數	最少數
本月分	二、七八五	一一、五五	一四、〇二	八、〇四
前月分	三、三七七	一一、七〇	一三、四三	七、八二
昨年當月分	一、六八四	一一、二六	一三、五七	八、四六
前月ニ比シ増減	減五九二	減一五	増五九	増二二
昨年當月ニ比シ増減	増一、一〇一	増二九	増四五	減四二

品位檢査

絲別	檢査件數	再繰中切斷數	纖度 平均	纖度 細太差	顆節 大節	顆節 小節	強伸力及伸度 纖度	強伸力及伸度 強力	強伸力及伸度 伸度
細絲器械	一〇六	一〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰折返	一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
中細器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰折返	八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
太絲器械	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰撚造	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同座繰折返	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
特太器械	[illegible]	〇	[illegible]	[illegible]	—	—	—	—	—

口繪の解

岫巖州土門嶺附近柞樹林

滿州に於ける柞樹に略ぼ四種あり一、「ポール」(粗杵)二、「アイチンガンリウ」(外情杠樹)(大情杠樹)三、「リナンガンリウ」(甕情杠樹)(小情杠樹)四、「チエルゾー」(光棒)之れなり仕立方には根刈中刈高刈等の數種あり前揭の圖は「サイナンガンリウ」及「リサンガンリウ」の混植せるものにして中刈仕立となしたるものなり

芝罘同泰順繰絲廠繭集散場

芝罘は滿州に産する柞蠶繭の中を吸收して製絲せる地にして器械製糸工場五百

蠶棧三ヶ所足踏製糸工場三十餘ヶ所あり前掲の同泰順繰糸廠は光緒三十九年同地の蠶商同泰和の所有に屬し殆ど五百臺の絲紡器を有する足踏器械工場の首齋を示したるものなり

芝罘華泰號繰絲廠

光緒二十六年の創立にして英人「コルナベ」の經營せる和記洋行と有名なる蠶商順泰との合同に成り目下四百窓を有し蒸氣原動力を以て運轉せる器械工場にして圖に示せるは其工場を前面の一側より見たるものなり

蓋平買込絲棧天興成柞蠶絲荷造

蓋平は滿洲に產する柞蠶糸の一大集散市場にして最も多き年には一萬包以上に達し平年七千包に及ぶ絲棧とは賣買兩方の間に立ちて取引の周旋をなし兼て取引商人の宿泊を便するの一の商店にして蓋平には二種あり一を買込絲棧二を賣込絲棧と稱す我に揭ぐる天興成は買込絲棧中の首商とす可き者にして年々の取扱額ろ巨額に達す柞蠶絲の荷造は廠內の一部に苫蓆を敷き之を爲せり

組合瞥見

養蠶組合設置規定

栃木縣にては蠶業奬勵の爲め、各養蠶地に組合を設けしむる由にて、去月二日告示第七十一號を以て、左の如く養蠶組合設置規定を發布したり。

養蠶組合設置規程

第一條　養蠶の改良發達を圖る爲め養蠶者二十戶以上共同して組合を設け左の事業の全部若くは一部を施行せんとするものは本規程に依るべし

一　桑園早中晩の栽植割合を適當にすること
二　桑園の耕耘及施肥を周到にすること
三　夏秋蠶用桑園の特設
四　桑樹病蟲害驅除豫防の實行
五　蠶室蠶具消毒勵行
六　蠶種共同購入
七　蠶種原製無毒のものを選擇すること
八　蠶種の浴洗
九　蠶種共同貯藏
十　稚蠶共同飼育
十一　飼育中及上簇中の病斃蠶を完全に處理すること
十二　共同殺蛹乾繭
十三　繭共同販賣
十四　蠶兒の種類を一定すること
十五　每年一回以上蠶業講習會若くは談話會を開催すること
十六　養蠶技師を聘し蠶期巡回指導せしむること
十七、收繭品評會を開催すること
十八　前各號の外養蠶改良上必要なる事項

第二條　前條に依り組合を設置せんとするものは別に定むる處の標準規約に準じ規約書を作り左の書類を添付し所轄郡市役所町村役場經由當廳に組合設置の認可を申請すべし

一　組合員見積桑園總反別
二　同上掃立蟻量
三　役員就任認可申請書

第三條　本規程に依り設置したる組合にして其成績顯著なるものは之を褒賞することあるべし

第四條　本規程に依り設置したる組合は每年三月末日限り第一條の事業に付き其の施行の狀況及成績を所轄市町村役場經由當廳に報告すべし

第五條　本規程は明治三十九年三月二日より施行す

養蠶組合規約標準

何郡市何町何村何大字養蠶組合規約

第一條　本組合は組合員共同一致し養蠶上の弊害を矯正し其利益を增進せんが爲め明治三十九年三月栃木縣告示第七十一號所揭の事業(全部若くは一部)を施行するを以て目的とす

第二條　本組合は何郡何市何町何村何大字內に於ける養蠶者を以て組織す

第三條　本組合は何郡何市何町何村何大字養蠶組合と稱す

第四條　本組合は其目的を達せんが爲め栃木縣廳の監督を受くるものとす

第五條　本組合に左の役員を置く

一　組長一名　幹事若干名

第六條　組長は組合事務を統轄し組合を代表す幹事は組長の指揮を受け庶務に從事す

第七條　役員は組合員中より選舉し知事の認可を受くるものとす其の任期は何ヶ年とす役員に選任せられたるものは相當の理由なくして辭任することを得ざるものとす

第八條　本組合の經費は組合員の負擔とし其の豫算及徵收法は組長及幹事之を協定し組合員三分の二以上の同意を經るものとす

第九條　經費決算は每年一回組長より各組合員に報告し其の承認を求むるものとす

第十條　本組合に加入せんとするものは組長に申出て其承認を求むべし脫退せんとするもの亦同じ

第十一條　本規約の變更は組合員三分の二以上の同意を經ることを要し且つ知事の認可を受くるにあらざれば其の效力を生ぜざるものとす

前記規約堅く履行すべきことを誓約し組合員一同左に署名捺印す

蠶海涓滴

▲歐洲の大問題モロツコ危機を免て無事解決の邊皆友邦と喜ぶ佛の欣顏に反し獨其孤立に陷て顰まカイセル失錯最後の勝利は朴直仁を守るに在る乎。

▲撤兵約期未だ半を過ぎず早も大軍の撤退を了し滿州三市の開放を宣す政府當局の敏捷近來の大出來希くは一步を進めて南部滿州の開放を速決し時期。

▲英米諸國の疑念を拂ひ併せて北滿州の露軍に撤退を迫れ續々大兵を駐屯して永久占領の野心滿々たる露に彼此ニコラス口實を與ふるは斷じて不可也。

▲臺灣嘉義方面に激震ありて死傷七千餘家屋の破壞八千餘を算すとは慘なる災禍斯る慘事はドーゾ之れカギリにして欲しいと祈るの間もあらせず。

▲高島炭坑爆發して三百餘名を黑煙渦捲く中に葬むりしとの大慘事を耳にし並で伊太利ヴエスヴイアス大噴火愈猛烈を極めて天地爲に晦冥同國最大。

▲都市ネーブルス殆ど破滅せんづの狀態なりしと錄ふ嗚呼此時何すれぞ悲慘の續々たるや天災固より人力の及ばざる所、左は謂へ人生最も恐るべきは。

▲油斷大敵に在りとし養蠶製絲に從事する者最一層注意あれ春は火ばやく、爭之れ多忙なり蠶室工場共に火元の御用心なくんば噬臍も豈は且つ及ばず。

▲蠶病豫防法施行規則改正せられて營業者に便利を與ふるの點多きも法規と死物のみ活用宜しきを得ずんば效果を舉るや難し當局夫シッカリと頼む。

▲長野縣昨年の製絲繭餘額に就其擔殺數量四千七百六十三萬七千〇二十貫にして一釜平均四百五十貫とし其石數百〇五石八斗六升とは大いしたもの。

▲蠶蛆一小動物なるも而かも天下の大害たり極力根絕を期し濱の眞砂は盡る共世に盜人の種は盡きまじと鳴破せる地下の石川をして一泡吹かしめよ。

▲本會第三回功績表彰に於て賞狀を授與したる工女三十九名山本海軍大將の愛娘のぶ子其一に加はるとは珍らし眞に工女の模範にして又他の模範也。

▲職業に上下なし皆之れ天職と思はずんば勤勉の心起らず蠶絲業家夫れ此心を以て心とし協力一致本邦蠶業をして世界第一等國の地位に進めよ至囑。

人事彙報

▲松岡康毅氏　本會特別會員にして農商務大臣たる松岡康毅氏は今回從二位に敍せられたり。

▲清浦奎吾氏　本會名譽會員なる(男爵)清浦奎吾氏は今回樞密顧問官に任せられたり。

▲平野師應氏　本會特別會員にして地方委員たる平野師應氏は今回臺灣總督府專賣局技師に任せられたり。

▲柴藤章氏　本會理事にして生絲檢査所長たる柴藤章氏は今回三級俸を下賜せられたり。

▲加賀山辰四郎氏　本會監事にして農商務省蠶絲課長たる加賀山辰四郎氏は今回四級俸を下賜せられたり。

▲芳賀權四郎氏　本會學藝委員にして生絲檢査所技師たる芳賀權四郎氏は今回六級俸下賜せられたり。

▲永井米藏氏　本會學藝委員にして蠶業講習所技師たる永井米藏氏は今回七級俸下賜せらたり。

▲吉池慶正氏　本會理事にして農商務技師たる吉池慶正氏は今回八級俸下賜せられたり。

▲松田昌德氏　本會學藝委員にして農商務技師たる松田昌德氏は今回十級俸下賜せられたり。

▲中村雅次郎氏　本會學藝委員にして農事試驗場技師兼蠶業講習所技師たりし中村雅次郎氏には今回專任蠶業講習所技師となられ十級俸下賜せられたり。

▲四戸梅太郎氏　本會通常會員にして新潟縣北魚沼郡長たる四戸梅太郎氏は今回五級俸下賜せられたり。

▲菊池士之助氏　本會通常會員にして山形縣立置賜農學校長たる菊池士之助氏は今回九級俸下賜せられたり。

▲千田孫一氏　本會通常會員にして新潟縣工業巡回敎師たる千田孫一氏は今回新潟縣工業巡回敎師兼新潟縣農事試驗場技師に任ぜられたり。

▲江龍清城氏　元滋賀縣阪田郡醒井村長たりし江龍清城氏は公同の事務に勤勉せし廉を以て今回賞勳局より藍綬褒章を下賜せられたり其表彰文左の如し。

資性温厚夙に村政に從ひ聲望あり町村制施行以來選ばれて村長と爲ること四回能く地方自治の發達を圖り開道奬學防疫植樹植林興農に努め其他紛爭を調停し風俗を矯正し勤儉貯蓄を勵まし殊に本地の水質佳良にして製絲に適するを察知し百方勸誘一大工場の建設に竭力し以て村民の生業を裕ならしむる等鞅掌多年公同の事務に勤勉し勞效顯著なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

▲野村彥太郎氏　本會海外通信委員として伊太利パドワ大學に留學中なりし野村彥太郎氏には三月三十日無事歸朝せられたり。

▲生方五郎氏　本會特別會員にして島根縣技師たる生方五郎氏には東京府在勤中の功勞尠からずとて府下の有志者より金時計及金鎖の贈與を受けられたり。

▲鈴木福太郎氏　本會通常會員にして德島縣現川島蠶病豫防事務所長たる鈴木福太郎氏は前に美馬養蠶傳習所長在職中蠶業上貢獻ありたりとて郡內有志者より金杯に感謝狀を添へ之れが贈與を受けられたり。

▲外山龜太郎氏　本會學藝委員なる外山龜太郎氏は曩きに論文を提出して學位を請求せられたるが東京帝國大學農科大學敎授會に於て其大學院に入り定規の試驗を經たる者と同等以上の學力ありと認められ今回農學博士の學位を授けられたり其論文審査の要旨左の如し。

第一　蠶兒の胚子發育の研究(英文)

本論文の概要は從來未た詳細に研究せられたることなき本邦蠶に就て其胚子の發達一般を研究し且つ昆蟲發生學上二三の疑問を證明したるものなり

第一

研究者は他の學者と同しく「ブラストポーア」の陷入を認めたるも其前端にある陷入したる細胞塊は他の學者か認めたるか如く下胚葉「アンラアゲ」とならずして其細胞は後に至りて互に相分離して卵黃質中に入り終に消失す而して前部消食管生成の爲に陷入したる外胚葉の底部の細胞は著しく增殖して中部消食管の前部を形成す後端にありても略ぼ同樣の變化をなして後部消食管及び中部消食管の後半部を生す之によりて研究者は中部消食管の外胚葉生成說を證明せり

第二

研究者は卵黃質中に四種の遊離細胞あることを證明したり

い　分核作用の爲に生したる細胞の一部か卵黃質中に殘留せるもの即ち卵黃細胞

ろ　中胚葉より分離したる遊離細胞其一部は血球となり他の一部は後に至りて分解消失す

は　外胚葉より分離したる遊離細胞後に至りて分解消失す

に　食道下細胞塊の分離によりて生したる遊離細胞是亦後に至りて分解消失す

第三

研究者は頭部內骨格に就て下の如き事實を證せり

い　上顎環節に於て三對の陷入部を生し其前端にあるものは第一「テントリアム」となり第二對は「エキステンソルマンデビュレー」の附著部となり最後の一對は「フレキソルマンデビュレー」ノ附著部及び諸腺となる

ろ　第一下顎環節にては一對の陷入部を生して第二「テントリアム」となる

は　第二下顎環節にては又二對の陷入部を生し其內方にあるものは絲腺となり前端にあるものは他の腺となる之を氣門下腺と命名す

又一般發育狀態研究の結果は蠶種貯藏上に關し大に便宜を與ふ

第二　蠶蛾の多妻的性質の研究(英文)

本論文は蠶蛾の多妻的なることを證明し一雄數雌に交尾するも其子孫に甚しき害惡を流すものにあらさることを明にし製種の際雌雄蛾相等しからさるときは雄をして再交尾をなさしむるも差支なきものなることを示せり

受精の結果は雄蛾の健否によりて左右せらるゝこと多きものなれとも健全蠶なれは三十分間交尾せしむれは其產卵は全部受精するものなることを實驗的に證明せり

研究者は又雄蛾保存の方法に就き注意すへき要點を示せり

第三　暹羅蠶兒の寄生蠅研究(英文)

(On the parasitic Fly of the silk worm in Siam)

本論文は暹羅產蠶兒寄生する「タキナ」蠅の生態學的性質殊に其卵幼蟲及成蟲等の構造を明にし且つ其地理上分布を論し支那の北部より安南支那地方全部に通し暹羅に至るの廣大面積に棲息する害蟲なる事を明にしたるものなり

第四　昆蟲交種の研究(英文)

本邦歐洲及び暹羅產の蠶を以て十數代連續したる交種學上の研究をなし種々なる性質の遺傳現象を明にせり

(一)蠶の性質の遺傳現象は二種に區別することを得へし一はメンデル氏法則に從ふものにして他の一種は未知の法則に從ふものなり

繭色卵色及び蠶兒の斑紋の如きは其遺傳法則は前者に屬し繭の形狀及蠶の化性の如きは後者に屬す

(二)研究者の實驗したる諸種の斑紋中橫縞斑紋は第一優性「ドミナント」に屬し普通斑紋之に次き無斑紋即ちひめ性は劣性「レセシヴ」に屬す

繭色に就ても亦同しく黃色は遺傳力上第一に位し肉色、綠白色、白色之に次く故に黃色は絕對的優性にして白色は絕對的劣性なり而して中間にあるものは一方の性質により優性となり又劣性となる事あるへし

優性中には他の之より弱き性質は一代又は數代間潜伏することを得へし

（三）蠶の交種に於てはメンデル氏其他の學者か植物に於て發見したる事實と異り一層複雜なる現象を呈す即ち三代目以下の子孫に於て一旦同一性質を發現して一定種の如き有樣をなしたるもの、中或るものは次代又は其後に至りて再び雜種の性を發現することあり又同一種類の兩親より數次異りたる親性の結合說に分離を認むる事を得へく之に加ふるに純粹優性の子孫と雜種優性の子孫との割合か植物に於けるか如く規則正しく一と二との割合をなさゝることを發見せり然れとも是等は皆個々個體の兩性生殖より來りたる結果に外ならすして研究者は數學的に其理由を說明し終にメンデル氏法則に歸着すへきものなる事を明にせり

又實驗の結果從來知られさりし親性結合の例を發見せり

1. D_1 (74.75%) + D_2 (18.86%) + H (6.39%)
2. D_1 (48.21%) + D_2 (26.84%) + R (24.95%)

の如き是なり

研究者は此等親性の結合をメンデル氏法則により數學的に說明しメンデル氏法則の動物に應用すへき事を證明せり

（四）第二種に屬する性質中繭の形狀に就ては研究者は次の事實を證明せり

紡錘狀をなしたる繭の性質と橢圓形をなしたるものとの交種の結果は第一代の子孫は殆んと全部紡錘狀をなし其た小數は長橢圓形をなす而て此等は次代に至りて種々なる子孫を生し其或るものは一定種となり他のものは再び次代に至りて複雜なる親性の分裂をなす然れとも數代淘汰をなすときは次第に一定種を選出することを得

此試驗中發生したる種々なる繭中紡錘狀を爲したるものは第一優性にして次は橢圓形又兩端の尖りたる橢圓形縊形的劣性は長橢圓形にして其兩端の鈍きものなる事を知るを得たり

（五）化性に就ては交種第一代は同一性質か時には優性となり時には劣性となる多くは母親に偏したる性質か優性となるの傾向を有す二代以後に至りては兩者とも再び其親性の分離を認し一定したる種を得ること甚た難し

（六）種々なる性質中には獨立したる一性質の如き觀を呈するも其實複合性質にして交種の結果分離して其各か獨立したる性質となるものあり著者は繭色に就て實驗證明せり

（七）之れと反對に二種の異なりたる性質は交種の結果互に結合して一種の獨立したる性質となり完全に遺傳するものなることを蠶兒の斑紋に就て實驗證明せり

（八）兩親の性質は其子孫に至りて時には同一個體に中分つゝ發生する實例を示せり

（九）上記したる種々なる事實を綜合して著者は（交種後第一代は甚たしき變化なきにも關らす二代以後に至りて著しき變化をなすは何故なりや）の疑問に對して一說明を與へたり

（十）以上の事實を應用するときは蠶種改良上便利を得る事多し

交詢餘錄

●鳳穴種分與　白龍框製原種用實費一蛾壹錢五厘にて分讓す
熊本縣鹿本郡菱形村右田北野辰雄

●皆川蕭製繊器購入　簡便にして最も實用に適する者製造元若くば發賣所の二三ヶ所御承知の方は御教示を乞ふ山梨縣東山梨郡曰川村長野染太郎

當業者の座右一日も缺くへからざる寶典

東京蠶業講習所技師兼東京高等農學校講師　土屋泰先生著

實驗 養蠶法

全一冊總クロース金文字入
洋裝美本
賣價金七拾錢
小包郵稅金拾錢

●大好評嘖々忽ち再版出來

各學校及團體より非常の御注文に接し製本間に合ひ兼ね發送方遲延致候場合も有之候へ共此後全力を注ぎ目下製本を致し出來候間何卒陸續御用命の程奉願上候

興農雜誌評に曰く

著者は進化論の見地から養蠶法を說かれたものである、氏は先づ蠶の本來から說き起して、今日吾々が家に養ふて絲を吐かせる蠶なるものは、我々が桑に取つては一種の害虫なりと認めて居る彼の桑蠶と同一祖先てあつて、一は野に居て野武士となり一は卿に居り殿上人となつた、一方は蠻的で强健で手當り次第に咬つてかゝるものとなり、一方は立派な、きやしやな雨を厭ひ風を恐れる、か弱いものとなつてしまつた、則ち幾多の階段と順序とを經て自然淘汰の結果今日の家蠶なるものが出來たのである、それで家蠶と桑蠶との何れか人間に利益を與ふるものなるや論ずる迄もないが、家蠶の今日あるを致したる履歷を知つたならば益々其美點を發揮する樣にせなければならぬ、然るに世には殊に宗敎家や文學者には多いが、世間幾多の養蠶家中にも淸涼育とか自然育とか桑葉育であるとか云ふて復古主義を採るものがある、此れ今日迄蠶が成り來れる履歷を無視せるもので、其美點を沒却して惡化せしむるものである、評者自身も歷史を重じ斷然放任的な天然育を信じて居る、土屋氏とは同說であるが、折衷育は要する所、天然の缺けたる所を補ひ、風雨を避けて尤も設備が必要である、窓の切り方、光線の入り方、一々圖入して平面及側面、各材料を示して居る、就きて極めて好い材料であるから、表を以て現はしてあるから一見理會が出來る、天然は亦寒熱の變が來る、飼養中は勿論、蠶室に於ても溫度の調和が必要である、若し蠶室を新築でもしようと思ふならば、蠶室の構造に就き極めて精細に論じて、氣通の設置等が一々明細なれば是非に參考せなければならぬ、ま一讀まぬが難だね、養蠶書として一般の事は洩れなく書いてある、殊にも前述た所などは著者が骨を折つた所で則ち本篇の骨子てある、而して亦其が則ち本書の特色である、著者には夫々意見がある土屋氏の養蠶に對する意見は此書中にある、評者は此意見がある書を世間の人が必ず見捨てはせまいと思ふ（農學士　酒川生）

短期講習會の最適教科書

發兌元　東京市神田區美土代町三丁目十四番地　明文堂

農蠶業學校生徒諸君の最良參考書

○三月十八日東京蠶業講習所十年紀念祭挙行せられたるに際し祝意を表する爲め東京都蠶業講習所出身の諸士の紹介ある御注文者に限り定價の一割引にて汎賣す

○東京蠶業講習所拾年紀念祝典を賀す○

●大改良新式消毒器并に新輸入フオルマリン液大販賣廣告

●四十%含有元封フオルマリン液大瓶
五キロ（拾壹入）印肖像壹壺六圓

●十キロ（四拾入）印肖像壹壺拾壹圓

●廿キロ（貳拾入）印肖像壹壺貳拾圓

●卅キロ（四拾六磅餘）入印肖像壹壺參拾圓

●三十五%含有フオルマリン液大瓶
三十キロ（六拾入）壹壺廿五圓

●肖像印（三十五%磅入）壹瓶五拾錢

●弊店は專ら當業者の御便利を計り品質の正確と價格の低廉なる者を懇切の御需用に應せんと欲す何卒多少共御用命の程偏上候

●御共同にて多數御購入の方へは特に勉強可仕候

●三十九年式最強擴大噴霧器改良廣大噴霧口一個付
●三十九年式最強擴大噴霧器改良噴霧用廣大噴霧口六個付
本器には管の取付大略所に設備してある改良廣大噴霧口を以て管拾貳個を用ゆる故に僅か十分間に壹斗貳升の液を噴出する事を得

●改良擴大噴霧口壹個金六拾錢

●噴霧用ゴム管六呎（壹筋）に付金壹圓但接續金具付

●大改良新式輕便蒸發消毒器壹具正價金拾參圓五拾錢

別製壹個金八圓
壹個金拾壹圓

（一名ホトリツ）

◎詳細說明書及販賣品目錄定價表は御一報次第進呈可仕候

本器には安全栓の裝置あり

蠶病消毒器元祖

東京府王子五十二番地

紙本商店

農商務省東京京都兩蠶業講習所其他蠶業界農事界ニ於テ大ニ實揚セラレツヽアル百木式足踏噴霧器使用ノ圖

佛國河内府萬國博覽會

金牌受領

百木式足踏噴霧器ハ
世八年八月以後圓筒
部及ビ容器取付方等
一大改良ヲナシタルヲ以テ
實ニ堅牢無比トナレリ

◉進木式實用噴霧器大改良廣告◉

進木式實用噴霧器の堅牢完全にして實用に適切たるは既に天下の公認せらるゝ處たり加ふるに昨三拾八年八月以降外筒氣室ピストン脚部其他各局部の大改良を加へ益々完全無欠實用無比の良器となるに至れり

今や季節に際し機逸するなく御購入あらんことを昨春の如きは實用適切にして成蹟佳價旗なるの高評を以て實に過多の注文に接し遂に製品に欠乏を告げ甚だしきに至りては三十に對し僅々六七の割を以て漸く需を詫ぶるの不得止の現狀を來せり當春は大に之れに鑑み如斯遺憾なからんことを期す希くは倍舊の愛顧あらんことを

詳細說明書一報次第呈す

價格

●進木式實用噴霧器（カ口出口ホース六尺）附着一臺金七圓五拾錢
●同方上害虫防除用四口出口ホース六尺附着一臺金七圓五拾錢
●中口出口用布入ゴムホース接續金附一ケ金壹圓
●小口出口用布入ゴムホース接續金附一ケ金壹圓

多數御購入の向へは割引可申特に大日本蠶絲會員諸君へは特別割引可申候

伯州倉吉町

進木工場

（發電器號　ンシキ）

◉蘚新河村式消毒用噴霧器販賣廣告◉

◉受領大日本蠶絲會第八回品評會銀杯

◉有効銀牌◉進歩銅牌◉二等褒狀◉有効銀牌◉

本器は如何に構造堅牢使用輕便價廉にして而も其成蹟佳良なるかは大方の公評認知せらるゝ處なり從て蠶日農商務省に開設せられし各府縣勸業主任會に於てすら當局大家の講話にも目下我邦にありて蠶病消毒用噴霧器中其首位を占むるものは河村式強力噴霧器なりとの事口頭に上り以來聲價倍揭が需用頓に加はり既に昨春の如きは高評遺憾なり注文過多にして遂に製品の缺乏を告げ遺憾なりから十に對する四五の比例を以て漸く需用者に詫ぶるの悲を來せり當春は大に之れに鑑み愛顧優渥なるに外ならずと信す是皆諸彦の御賜なる何に以て報ゆべきや目今に至り横に論者の賞讃を受け其形製は種々の改良を加へ手段を窮めしれ製品の續々現はれ華客を奪はんとす希くは倍舊の御愛顧を以て汎く御高需に應せんことを

特許式用噴霧器

實用噴霧器

●改良二ツ口自働噴霧器　金六圓八拾錢
●普通製　金五圓五拾錢
●布入ゴムホース六尺金具附金壹圓貳拾錢
●消毒用フォルマリン各種（相場時々變動ノ為御問合ノモノ）

其他

●以上各品共一時に多數御購用の向は特別大割引可仕候也

明細書は御申越次第直ちに送呈す

備後國福山新町裏通り

河村工場

製絲機械器具並蠶業用器具一式其他諸機械製作

●蠶絲之友（本誌製品類大體を掲げ六十餘頁の美版なる蠶絲之友を無料にて御申込の方へ送呈す）

發電略號（カタコ）

御入用の御方は往復はがきにて御申込を乞ふ

今回小生儀新潟縣中蒲原郡を辭任し大日本蠶絲會に入り專ら編輯事務に從事することに相成候間向後一層の御交誼を賜り度此段辱知諸君に謹告仕候也

明治三十九年四月　加藤知正

小生從來滋賀縣に奉職の處今般宮城縣に轉任せり此段辱知諸君に謹告す

明治三十九年四月　古藤泰助

本社は夏秋蠶の本場に在て專心斯業の改良普及に努め戰後蠶業の大發展を圖るため一層業務を擴張す

◎蠶家の精良强健なる養豐作の基なり蠶種は本社蠶種を飼育して實驗せられよ五分附一枚の收繭五貫目以上を保證す

本社の製造**秋蠶種風穴種夏蠶種**には責任證を附す

製造蠶種類　販賣時期　代金　割引法　特約販賣

其他營業案内御照會大第回答可申上候

◎**夏秋蠶傳習生**　募集す　委細は**社則**　申込次第進呈す

長野縣東筑摩郡本郷村南田松本郵便局下

信蠶社　主幹　鳥羽久吾

專賣特許

新案製絲器械

東京蠶業講習所教官　岩瀨修三氏發明

木製（甲）ケンネル式三口繰　定價一臺金八圓
但接緒器三個付

木製（乙）ケンネル式二口繰　定價一臺
但接緒器二個付

當分廣告のため　金五圓五十錢

本年六月一日より一臺金六圓五十錢に改定す

全部鐵製ケンネル式三口繰　但接緒器三個付
定價一臺金十六圓以上二十圓以内御注文により製作す

特許 接緒器

岩瀨修三氏發明

付器品共　一個金一圓五十錢

從來の製糸器械及足踏器械にも適用す

効用

右器械は岩瀨氏が多年の經驗と學理に徴し發明せるものにして新案製絲器械に於ては其構造簡易輕便且つ形體を大ならしめず足踏を以て動力を起し最新發明の接緒器を付せるか故に普通絲工女は勿論幼年者素人と雖僅ゝ數日の練習を以て容易に二日繰乃至三日繰製絲をなし一日一人五升乃至一斗五升の繭を繰絲し得らる、而して接緒器は最改良進歩せる者にして接緒法等簡易に百中百必外るゝことなく其生絲はデニールよく揃ひ品位優等絲量饒多殊に付節の甚少きは實驗者の驚嘆する所なり政府より同講習所に對し足踏器械の本邦に行はるゝものゝ中適當なるもの、選定方を委囑し來れるに同講習所に於ては諸種此等の器械調査の上右の新案製絲器械を指定せられたり

東京蠶業講習所の選定

過般遠隣國同修繕多年の經驗と學理に徴し發明せるものにして新案製絲器械に於ては其構造簡易輕便且つ形體を大ならしめず足踏を以て動力を起し最新發明の接緒器を付せるか故に普通絲工女は勿論幼年者素人と雖僅ゝ數日の練習を以て容易に二日繰乃至三日繰製絲を

福島縣伊達郡の講習

同郡に於ては今回修繕改良の図作が動機となり多年の希望たる折返絲の改良を企て從來の足踏器械のみを以ては接續法困難なるを以て右接緒器を採用し目下全郡を三十二ケ所に分ち三百二十人に講習しつゝあり好評嘖々たり

各府縣代理店の特設

常商會にては右器械の普及を謀り地方顧客の便宜をなさんため各府縣に代理店を設く代理店には相當なる條件を以て契約す目下協議中のもの東京府千葉縣群馬縣茨城縣福島縣秋田縣新潟縣奈良縣等にして既に契約せるものあり希望者は陸續御申込ありたし

東京市日本橋區元大工町四番地　電話本局七六一番

東京市下谷區同町四番地

繰絲工場　東京蠶業講習所長　岩瀨修三氏　前形縣蠶業講習所長　横木喜三郎君　中形縣殖産部長　齊藤美知麿君　山形縣技師　山口守格君　山形縣技手　毛呂正泰治君　山形縣技師　青野泰治君

賞勲局事務官　田中本多岩次郎君　東京蠶業講習所教官　岩瀨修三君　前形縣蠶業講習所長　横木喜三郎君　中形縣殖産部長　齊藤美知麿君　山形縣技師　山口守格君　山形縣技手　毛呂正泰治君　山形縣技師　青野泰治君　山形縣知事

東京蠶業講習所

繰絲器械商會

魯桑實生種栽培法

代價金貳拾七錢　郵稅四錢（前金の外一切發送せず郵券代用一割增）

本書は芦野泰治君か熱心家の希望を容れ之を世に普及せしめんとして簡明平易に著せる所なるものにして其の所說の緻密なる從來の栽法に見る能はさるところなり魯桑實生を栽培せんとするものは勿論一般桑苗の桑園改良の資に供すへき良著なり

山形市七日町

發行所　八文字屋　五十嵐太右衛門

特許神谷辰五郎發明

接緒器

壹個金壹圓五拾錢

本器は回轉式の不便を去り繭着式の缺點を除きたる完全無欠の添緒器に輸出を伸張して糸質を精美にし蛹殼繭類の繰上を適出して幹糸の切斷を豫防する利便無比の除節器を備ふ其構想の奇拔にして效果の卓絶なる世上在來の此器と遠く其選を異にし識者の爲めに眞に理想の接緒器と稱せらる

詳說書無料進呈

福島縣石城郡平町字古銀冶町九十一番地

神谷接緒器發賣所

最大最良最廉の蠶書

實用蠶業全書

附錄 製絲法

酒勾常明 農學博士 序
宮原忠正 農學士 新著（全部大増訂）

一卷にして十三部 蠶書を包羅 詳細目錄及廉賣價 本年一月蠶絲會報に四頁に渉り廣告せり

本年の第一版忽賣盡 第二版出來 特價廉賣

内容に於て 著者に於て 網羅せる 豊富なる 平易なる 點に於て 點に於て 點に於て

大日本蠶絲會報及び蠶業新報は如何に賞賛歡迎は故に自賛せず 大日本蠶絲會報及び蠶業新報は如何に賞賛歡迎 福島縣立蠶業學校長 桑原忠正 氏 蠶業界に於ける最新の研究者として有名なる氏が其の生涯の研究を傾注して作用すること三十年 蠶業界に於ける最新の研究者として有名なる氏が其の生涯の研究を傾注して作用すること三十年 及蠶絲尾部突起の一項は實に本書の一部分にして其の多くは大日本蠶絲會報に發表されたるものなり 蠶業界に於ける最新の研究者として有名なる氏が其の生涯の研究を傾注して作用すること三十年 及蠶絲尾部突起の一項は實に本書の一部分にして其の多くは大日本蠶絲會報に發表されたるものなり 蠶業界に於ける最新の研究者として有名なる氏が其の生涯の研究を傾注して作用すること三十年 及蠶絲尾部突起の一項は實に本書の一部分にして其の多くは大日本蠶絲會報に發表されたるものなり

廉賣價及詳細目錄

本年一月の大日本蠶絲會報に四頁に渉る大廣告あり同一の特價廉賣すべし

本書よりも多くを網羅せる、本書よりも平易なる本書よりも廉價なる蠶書が世上に之あり

若しあらば乞ふ之を示せ!!!

價に於て 蠶史（價二圓半）の外本書の如き大紙數（併も菊版）大重量の蠶書他に斷じてなし二百数以上の蠶書天下唯二種あれ共二圓以上也本書は三百五十数の大冊子特價に一圓二十五錢判 紙數 重量の割合他書の半額也 製本及体裁に於て 總クロース背金文字 紙に於て 總クロース背金文字は勿論表紙には文字を金にて印出なる蠶書中最大最高なる蠶書中本書に如くものなし、此大冊子一頁は約七百字高貴なる蠶書中本書に如くものなし、此大冊子一頁は約七百字高貴なる蠶書中本書に如くものなし、此大冊子一頁は約七百字

語數に於て 蠶史（一圓半）の外本書は三百四十六の厚さ四十六の大冊子にして且つ國入なり 語數に於て 蠶史（一圓半）の外本書は三百四十六の厚さ四十六の大冊子にして且つ國入なり 語數に於て 蠶史（一圓半）の外本書は三百四十六の厚さ四十六の大冊子にして且つ國入なり

紙數に於て 蠶史（一圓半）の外本書は三百五十六の大冊子にして且つ國入なり

重量に於て 蠶史（一圓半）の外本書は三百五十六の大冊子にして且つ國入なり

懸賞

本書よりも廉價なる蠶書の製絲會報の割合に於て本書よりも廉價なる蠶書を示されば本書を賞與せん

發行所 日本蠶絲協會 東京市京橋區本鄕三町目生駒 取次店 全國各地書店

斯學輓近の進歩を窺ふべき最新の大著

會場出品產業組合回四第 會場博覽會國內 回五第

牌銀 歩進 賞等參
會評品回八第 會組蠶本日大

杯銀 賞等受 貳

目錄

蠶業 稀有

目錄

（目錄省略）

●清春用絲棒印フオルマリン液

百木製作所

●新百木式足踏蠶具 一大改良 謹告

拜啓

會場出品產業組合回四第 會場博覽會國內 回五第

牌銀 歩進 賞等參
會評品回八第 會組蠶本日大

杯銀 賞等受 貳

目錄

（目錄省略）

●清春用絲棒印フオルマリン液

百木製作所

●新百木式足踏蠶具 一大改良 謹告

拜啓

最新著發刊謹告

前蠶業講習所長練木喜三先生新著

女子蠶業教科書

本書取纏め一時に多數御注文の向に限り相當割引可仕候

美製本紙數二百餘頁
密畫四十個挿入

正價金二十錢
郵稅金四錢

本書編纂の趣旨

一本書は蠶業に關する諸般の智識を女子に得せしむるを以て目的とし尋常小學校卒業若くは高等小學二年卒業程度の者にして實業補習學校及各種學校に於て短期學習上之を用ふるを要とし兼て女子家庭用及短期講習用の便に供するを旨となせり

一本書材料はつとめて系統的に排列し一般斯業に關する利弊を示摘し以て女子をして實際上適切なる確實なる纏りたる智識を收得せしむるを要となせり

一本書は極めて理解し易く簡にして要を悉くすを主としたるを以て言語體によりて難解の文字を避け條項的排列の樣式を採り又必要なる圖畫を多く挿入し依て以て解し易きを期したり

一本書は蠶業上の智識を主として養蠶方法に力を用ひたるも又女子の仕事の連絡上必要なる桑樹栽培のこと製絲のこと普通農事との關係のこと及び共同購入販賣等の事項をも加へり

一本書は蠶業上の智識に附帶して一般道德は勿論特に勤儉、貯蓄、廢物利用、公衆衞生等、修身齊家のことに力を用ひたり

一本書は約三十五六時間を以て學習するを期す又之を用ひて教授するに方りては教授者之れを善衍し之れを補ふを期し且曩きに著はしたる養蠶唱歌を參照せば頗る趣味を增加するものとす

目次

第一課 蠶業
第二課 桑のしたてかた
第三課 桑のうゑつけかた
第四課 桑ばたけの手いれ
第五課 桑のこやし
第六課 夏蠶と秋蠶とにやる桑の
第七課 したてかた
第八課 桑の葉のとれだか
第九課 桑のやまひ
第十課 桑のむし
第十一課 霜のがい
第十二課 蠶種と桑せきば
第十三課 蠶具
第十四課 大そーぢとしーどく
第十五課 蠶のうまれつき
第十六課 蠶種のよしあし
第十七課 蠶種のめかた
第十八課 蠶種のためにわるいこと
第十九課 蠶種のとりあつかひ
第二十課 蠶種のおらひ
第二十一課 蠶種のかこひかた
第二十二課 蠶種の書ませかた
第二十三課 [illegible]
第二十四課 [illegible]
第二十五課 蠶のねむりおき
第二十六課 蠶のよはひと大いさ
第二十七課 蠶のすききらひ
第二十八課 蠶のかずとかふものとのつりあひ
第二十九課 蠶のかひかた
第三十課 蠶のかふこころえ
第三十一課 はきおろし
第三十二課 桑のかけかた
第三十三課 蠶のしたとり
第三十四課 蠶のひろげ
第三十五課 ねむりおきのとりあつかひ
第三十六課 日日のかなかた
第三十七課 一れいのかひかた
第三十八課 二れいのかひかた
第三十九課 三れいのかひかた
第四十課 四れいのかひかた
第四十一課 五れいのかひかた
第四十二課 夏蠶と秋蠶とのかひかた
第四十三課 かきこのあげかた
第四十四課 繭のかきたくはへかた
第四十五課 繭のとりまひ
第四十六課 蠶種のとり
第四十七課 蠶のやまひ
第四十八課 絲とり
第四十九課 組合

本書發行の目的及び適用の範圍等は前項本書編纂の要旨及目錄に詳なれはまた贅せず夫れ蠶は女子の飼育を得て繭を成し繭は女子の丹精を得て絲となる女子にして育蠶繰絲の智識なくんば我蠶業を如何せん斯業教育の必要實に茲にあり而も之が教授に要する特殊の教科書の備はらざるは我實業教育上眞に大欠典となす今や幸ひに此良書を得たり殊に本書の正價の蠶業書中空前の廉價なるは前に先生の著はされたる養蠶唱歌同樣普及上便宜の爲め嚴に弊部に注意せられたるに依る希くは陸續採用の榮を賜らんことを

發兌元 東京市日本橋區箱屋町十四番地（特電話本局二〇八五番） 丸山舍書籍部

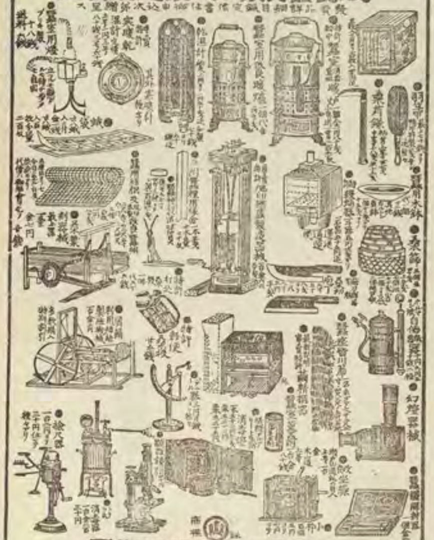
蠶具書籍 蠶種桑苗 改正總目錄

本年度發行の改正發賣品總目錄は例年の紙數を倍加し何も彼も詳しく分る樣致し候代價も送料も御送付に及ばず御申込次第進呈可致候

尚ほ弊舍印刷部も大に擴張致し候に付書籍雜誌御廣告とを問はず御用命仰付け被下度精々勉強可致候 活版、石版、寫眞版等何ても出來申候

本年度分發行致し候に付例年の途り御得意樣方ヘ贈呈可致の處舍務多忙を極め居り候に付諸君より御請求に從ひ直に差呈可致候間御遠慮なくハガキにて御通知被下度候　丸山舍敬白

改良蠶具類一式製造發賣元



蠶種桑苗蠶書蠶具問屋

東京市日本橋區箱屋町十四番地

丸山舍蠶具部（特電話本局二〇八五番）

育蠶の魂を捉へたる養蠶書

東京蠶業講習所長本多岩次郎先生序
町田治助
町田彥太郎君共著

（特色ある）

實驗養蠶要訣　全

發兌元　東京市日本橋區呉服町十八番地　合資會社北隆館　書籍雜誌店

●著者兩君は共に實務に當れるの士育蠶多年遂に其堂に入り奧を發き異に育蠶の魂を捉へ來り縱橫切實に敍述し得て些の遺憾なきもの即ち之れなり

●實驗養蠶要訣とす●要訣の普通の養蠶書と飛離れて如何にも奇なるやは恐らく想像の外にあるへし東京蠶業講習所長節序文の一に曰く著者獨創の見亦尠なからずと獨創の新見識に富める以て其一斑を窺ふべし

●豐作を期さんとする養蠶家及指導の任にあるの士速かに精讀して廣く高く且つ深き新見識を修養すべし本書の實價格如何に就ては聞より餘り多くを語らざるべし只一斑を一讀せらるべし左記目次の

●何人にも讀める言文一致●クロース美本紙數三百五十餘卷末に栽桑病理消毒法あり●正價金八十五錢小包料金十錢

●特色ある養蠶要訣目次の一斑

▲蠶種肉眼鑑定の要訣
▲蠶兒と蠶室の釣合
▲養蠶と人夫の釣合
▲稚蠶に適する桑葉
▲壯蠶に適する桑葉
▲桑葉の盛熟期と繭質の關係
▲給桑と𥿻沙の乾き加減
▲給桑と蠶兒食慾の關係
▲食慾の有無を鑑定する法
▲𥿻沙の乾き色に依り巧拙を批判すべし

目次の一斑（三編三十章百二十八節の內）

▲過乾過濕平均飼育
▲給桑回數減少育
▲給桑回數增加育
▲一回の給桑量を定むる法
▲一齡分箔上注意の四ケ條
▲蠶を强健にせんが爲除に沙勉むべし
▲食慾の多少ど蠶兒の體色
▲蠶兒の發育と體色の關係
▲眠前に充分飽食せしむる法
▲上簇は廿時間以內に終結すべし

▲光線と蠶兒の偏集
▲怪むべき蠶兒の偏集
▲換氣の良否を試驗する法
▲適當なる換氣の回數
▲低溫と蠶兒の抵抗力
▲高溫と蠶兒の抵抗力
▲濕害豫防法
▲蒸熱の害
▲此他蠶室の改繕蠶病の事
▲栽桑消毒法等悉く網羅せり

●改良春蠶種販賣廣告

專門製種

○龍玉
○大中 又昔
○大中 白玉
○姬蠶
此外多種類製造

代價割引方

▲壹枚	金壹圓四拾錢
▲五枚以上	金壹圓參拾錢
▲拾枚以上	金壹圓貳拾錢
▲五拾枚以上	金壹圓拾錢
▲百枚以上	金壹圓ツヽ
▲壹蛾	金參錢五厘
▲百蛾以上	金參錢
▲五百蛾以上	金貳錢五厘
▲千蛾以上	金貳錢參厘

爲替は埼玉縣兒玉町局宛て小金は郵便切手にても宜し但し箱代送料等は本社支辨のこと

○本社が蠶種改良の要主は蠶性强壯にして絲量多く飼育容易之なり故に古今流行種類と同名なるも性質一變して寒烈風濕の除害なく發育善良他種と比較的必ず有益なることを證す繭の形狀は何れも一升に付平均貳百六十粒なり

本社實業監督敎授は兼て御存じの競進社一等敎授にして同社蠶術擴張の爲め二十有餘年間各府縣へ出張本業に專ら盡力せられたる逸見恒三郎君なれば各國風土に適する種類を選拔し飼育又た之れに伴ふ妙術を施し以て各家の豐作を期す萬一違作すれば再試驗用種を進呈す

◎代價は現今時節柄に對し特に大割引の內規有之に付御問合せ被下度候也

埼玉縣兒玉郡東兒玉村沼上九十三番地
蠶種改良會社
（電信略號サン）

廣告

專賣特許

蠶上簇藁折疊器

壹個定價金六圓（拾個以上割引あり）

右器械を用ゆれば藁三たけ若くは四たけを接續し得て一個となし一日に四十個以上（手練に依りては五百個）を製出し得るなり之を手折に比すれば四人前以上の手間を省き蠶箔一枚は一個にて足り藁を冗費せず能く筋目を通し一線亂れず整然たるが故に箔上に布列するに倒るゝの患なく手數殆ど三倍を減じ又玉汚繭等は至て少し且器械の重量僅か三貫目未滿なれば運搬自在にして婦女子と雖も容易に使用し得べき輕便堅牢の器にして實に方今に於ける養蠶上一大好發明たることを疑はず其效用に至ては片紙の能く盡し得べきにあらざれば各位幸に實物に就き御試驗の上陸續御購下されたく冀上候謹具

製造發賣本舖　信州下伊那郡下川路村　國益社

○特約販賣所御申越に依り御相談可仕候

戰後經營多端の秋に際し朝野の志士國本の培養産業の奬勵を絶叫せさるなし就中蠶絲業の改良發展を要するの急なるは大旱の雲霓に於けるか如し我社は大に玆に見る處あり益々規模を擴張して本邦無比の良種類を製造し汎く蠶業家の需要に應して任意に種類の改良を謀らんとす幸に我社の誠意を諒とし寛くは多數の御注文あらんことを

天覽を賜りたる春蠶繭伊達錦は石幡社員の製産なり

石幡社の伊達錦 は我社獨特の技倆を以て選拔したる無比の良種類なり

石幡社の伊達錦 は蠶兒強健繭果長大にして絲量豐富解舒頗る佳良なり

石幡社の伊達錦 は製絲改良上缺くへからさる唯一の良種類なり

石幡社の各種類 は飼育容易繭質佳良にして全國到る處の飼育に適す

石幡社の蠶種 は精選にして到る處豐作多收の好評を博しつつあり

石幡社員製造 の蠶種繭は博覽會又は品評會に於て常に優賞を受領しつつあり

春蠶種 伊達錦 青熟 又昔 白玉 白錦 寶玉 あら玉 姫蠶

秋蠶種 青熟 姫蠶

代價 原種用框製廿八蛾付拾枚迄壹枚金八拾四錢 卅枚迄金七拾五錢宛卅壹枚以上金七拾錢宛 普通製全面附拾枚迄壹枚金壹圓七拾錢五拾枚迄金壹圓六拾錢宛五拾壹枚以上金壹圓五拾錢宛

但し農會又は公私共同團體の多數御注文に對しては特に協定すへし

普通製名入又は原種多數御注文は六月廿日以前に申込まるへし

御注文の際は左の割合を以て保證金を御送附せられんことを請ふ

原種壹枚金貳拾錢宛　普通製壹枚金五拾錢宛

福島縣伊達郡伊達崎村字吉沼五拾六番地

石幡社社員

石幡吉之丞
石幡新之丞
石幡新三郎
石幡吉左衛門
石幡吉三郎
石幡吉造
石幡竹次郎
石幡新四郎
石幡吉四郎
石幡吉之助
石幡要吉

石幡社

高山社分教場長高橋清七先生著

高山社蠶兒飼育法

全一冊●紙數二百五十餘頁●插圖夥多●正價六拾錢郵税六錢

蠶業界に於ける高山社の名は其飼育術の巧妙なるを以て天下に嘖々たり本書は同社に於ける飼育秘術を詳說して餘蘊なし

前兵庫縣蠶業學校教諭田路實造先生著

蠶桑寶典

本書は著者が多年兵庫縣蠶業學校に教鞭を採れるの傍ら該博なる學殖を以て豐富なる材料に依り栽桑養蠶製絲等に關する東西諸大家の學說と各種試驗の成績を網羅し華を拔き要を撮みて編纂せられたるものにして加ふるに内外國に於ける詳密なる蠶絲業上の統計と現行諸法令を記載し凡そ蠶絲業に關する事項は一として漏すことなく記事簡明にして字々皆金玉ならざるは無し技師及敎師は獨案の友として學生は机上の參考書として當業者は座右の指南として必ず一本を備へざる可からざる斯學界無二の寶典なりと云ふ愛讀の榮を玉はんことを

總クロース金字入堅牢美裝 ポケツト入紙數五百餘頁 正價八十五錢 郵税六錢

出野信慶君著

新版

蠶病豫防法解釋

全一冊總かな付 正價三十錢 郵税四錢

蠶病は我蠶業界に比年巨額の損害を及ぼせり是を以て政府當局者は勿論蠶業者は早くこれが撲滅を謀らむとし調査研究すること多年其の結果遂に新法令蠶病豫防法となりて現はれたり本書は本法を最も平易明晩に解說したるもの今汎く之を頒布して以て我が蠶業界の發達改良の資に供せむとす今や追々發蠶期の切迫せるに依り蠶病豫防吏員及び一般蠶業者に於ては必ず一讀せざるべからず附錄として本法及び本法に基きたる規定の全部を添へたり

農學博士大森順造先生講述

●蠶病學講義

正價八十五錢 郵税十錢

京都蠶業講習所長松永伍作先生著

●**蠶桑實驗說** 正價五十錢 郵税六錢

●再訂增補 **養蠶術講義** 正價四十錢 郵税四錢

田島梅平君著

●**蠶桑之眞理** 正價四十八錢 郵税六錢

末松格平君著

●**蠶桑進化論** 正價五十錢 郵税四錢

石井民司君著

●**實用蠶桑書** 正價四十五錢 郵税四錢

小幡信篤君譯 ニーベルランド氏

●**養蠶論** 正價八十五錢 郵税十錢

田村多門君著

●學理經驗 **實地養蠶論** 正價四十八錢 郵税六錢

理學博士佐々木忠次郎先生著

●**養蠶術問答** 正價二十五錢 郵税四錢

ボルレー氏

●**蠶兒飼育法** 正價二十錢 郵税二錢

池田幸之助先生著

●實地應用 **栽桑養蠶術** 正價三十錢 郵税四錢

青田[illegible]次君著

●**全葉飼育蠶業法** 正價十五錢 郵税二錢

上垣守國君著

●**養蠶秘錄** 正價五十五錢 郵税六錢

成田重兵衛君著

●**養蠶絹篩** 正價五十五錢 郵税四錢

發兌 東京市京橋區南傳馬町二丁目 書肆 **有隣堂**

製絲器械專賣

◉農商務省蠶業講習所模範器械ハ自分ノ製造ニ係ル

◉佛國製器械ヲ模造セシ御法川鐵製器械ヲ改造セリ

◉選羅國政府ノ模範製絲器械モ亦自分ノ製造ニ係ル

◉今ヤ戰後經營ニ對スル經濟的永久施設ノ爲メ鑄鐵製繰臺（膳臺）ヲ主唱シテ各地方ニ供給シ居レリ

京橋區炭町九番地

宮澤文吉

製械部　製鑵部　特設鑄造部

毎版始メ全部改訂

本書のなり

日本養蠶病消毒法

京都蠶業講習所長　松永伍作先生序文
京都蠶業講習所技師農學士石渡繁胤先生校閲
東京蠶業講習所技師農學士辻鶴太郎先生校閲
京都蠶業講習所技師農學士川島藤次郎先生校閲
東京蠶業講習所技師農學士林鶴作先生校閲
池田榮太郎先生著述

菊版クロース本銀金文字入
紙質上等
全紙數四百餘頁
精圖百餘個入
正價金壹圓
小包料拾錢

目次

第一篇　各論
第二篇　病原菌論
第三篇　消毒法論
第四篇　特殊消毒論

本書が初版以來如何に此上ない歓迎を受けたるかを天下の認ひる所今更贅言を要せず昨年四版賣切後暫く品切中の處今回全部大增補を加へ第五版を發行す請ふ當局者及實業家諸に本書一部を需め其の理を究め其術を誤らざらんと希ム

農商務技師　松田昌臨、池田榮太郎南先生著

正價金二十五錢

最新實驗蠶病消毒法　郵税六錢

多年京都蠶業講習所に於ける實驗を基礎とし應用的蠶病消毒の方法を簡明に忌憚せし良書也

發兌元　東京市日本橋區箔屋町十四番地　**丸山舍書籍部**

實驗蠶病消毒法　郵税六錢

著者多年東京蠶業講習所に於て其局に常り試驗せる結果に依り實地應用を主とし一京都市上京區中立賣通千本東入　**渡邊商店**

林式乾繭裝置

特許 專賣

本裝置は農商務省蠶業講習所に採用せられたるを始めとし各縣廳各郡衙補助奬勵の模範用乾繭室の指定に撰拔せらるること數拾回其他農林學校農學校農事試驗場農事講習所縣農會郡農會等の模範用として指定採用を受けたる事數拾回

本裝置は經驗を重ね進歩完全したりと雖も尚且つ當局技師の指導と當業者の實地使用の結果等を參酌して年々實用的を基礎として學理的應用改良を加へつゝ進歩すること拾年間世間には其間に於て投機者流のもの牽强附會に考案を加へ乾燥機の發明特許を得たりとて事實有得可からざる誇大の廣告運動を爲したるもの數十式孰れも貳參年にして新陳代謝殆んと波動の如し何れも龍頭蛇尾の憾ありて雲散霧消して社會上其痕迹を止めざるに至る斯間に處して終始一貫嶄然頭角を顯はし無比の成績を以て名聲嘖々として當業者間に歡迎せられ拾年間毎年三四十室宛の新設注文を受け居るものは獨り本乾燥室のみ是蓋し自然淘汰優勝劣敗の原則の然らしむる處なり果せる哉輓近世間に行はるゝ乾燥式にして博覽會にて賞牌を得たるもの獨り林式のみ

本年は尚一層の改良を加へたり代價の義は參室已上並に五室以上連合注文（但し一戸方に限る）の場合は工事監督費の省略を得るに依り各々幾分の割引を爲す

東京市芝區三田豊岡町壹番地

林工場主　林庫次郎

（電話新橋千九百五十四番）

九州蠶種家之泰斗

埼玉縣ニ開催セラレタル日本農民會第九回全國物産共進會ニ於テ進歩壹等賞金牌ヲ會頭從三位前田正名君ヨリ授與ノ榮ヲ荷フ

精良 蠶種豫約販賣廣告

◎春蠶種　又青熟　一升　一百四十粒　長巢
　青熟　一升　一百二十粒
　小石丸　一升　一百　粒
　一升　一百五十　粒
◎夏秋蠶種　白繭　一升　一百二十粒
　又黄　一升　一百四十粒
（發生は何時にても隨意溫泉浴風穴貯藏）

◎代　價（極製原種用　全面附　一蠶　金壹圓五拾錢　金貳圓同賜入は割引まり）

本場製蠶種は各種共義に拠る右田直三郎考案ニ農蠶學を專攻せし時撰拔せし種始にして農科大學卒業以來拾數年間本場に於て精撰せしものにて飼育最も容易絲歩多く均齊解舒佳良光澤優美にして形狀好適なり多少に拘らず豫約御申込み御試育あらんことを

帝國農科大學

熊本縣鹿本郡菱形村大字邊田野

右田農場

（肥後國植木郵便局區内）

健全免疫性 蠶種實費分讓廣告

◎春蠶種　又青熟　一升　一百五十粒
　青熟　一升　一百十粒
　赤熟　一升　一百粒
　小石丸　一升　一百五十粒
　一升　一百六十粒
　大粒豆　又黄　一升　一百二十粒
　大形　又　一升　一百二十粒
◎夏秋蠶種　白繭　一升　一百二十粒
　長巢白繭　一升　一百四十粒
（發生は何時にても隨意溫泉浴風穴貯藏）

◎實費（極製原種用　全面附　一蠶　金壹圓五拾錢　金貳圓）

◎割引　春蠶種は毎年七月三十日（夏秋蠶種は毎年九月三十日）迄に實費の金額御拂込かの方へは貳割引にて分讓す

本社製蠶種は各種共の選擇により特撰せし純粹種にして繼續健全飼育容易成繭優美にして絲歩多く光澤解舒共に佳良なり多少共製造期に豫約御申込みあらんことを

熊本縣鹿本郡山本村

弘盛社蠶業講習所

（名譽金銀賞牌拜受）　所長　細谷久一郎

（肥後植木郵便局區内）

成進社長
同養蠶講習所長

實驗 養蠶法 全

下田伊左衛門先生著

（既刊）

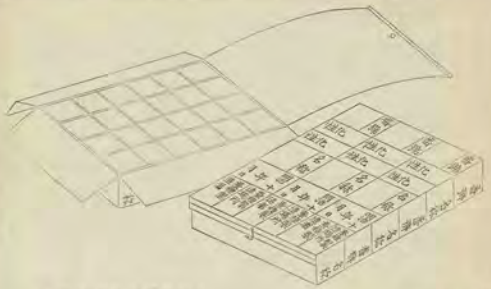
菊版脊皮總クロース洋製美本
正價金九拾錢
郵税金八錢

五部以上申込ノヒトニハ特ニ正價壹割引トス

目次

●第壹章蠶室○第一節蠶室○第二節蠶室の位置及方向○第三節蠶室と太陽の光線○第四節蠶室の構造○蠶室ノ害敵ノ天敵○第五節蠶室の消毒○第六節蠶室の器具○第七節蠶室の設備○第八節蠶室の修繕○第九節蠶室の清潔○第十節蠶室の乾燥○第十一節蠶室の保護○第十二節蠶室の管理○第十三節蠶室の整理○第十四節蠶室の整頓○第十五節蠶室の整理法

●第貳章蠶種○第一節蠶種の選擇○第二節蠶種の種類○第三節蠶種の保護○第四節蠶種の保護○第五節蠶種の貯藏○蠶種ノ貯藏法○第六節蠶種の準備○第七節蠶種の準備法○第八節蠶種の準備法○第九節蠶種の準備法○第十節蠶種の準備法○第十一節蠶種の準備法○第十二節蠶種の準備法○第十三節蠶種の準備法○第十四節蠶種の準備法○第十五節蠶種の準備法○第十六節蠶種の準備法○第十七節蠶種の準備法○第十八節蠶種の準備法○第十九節蠶種の準備法○第二十節蠶種の準備法○第二十一節蠶種の準備法○第二十二節蠶種の準備法○第二十三節蠶種の準備法○第二十四節蠶種の準備法○第二十五節蠶種の準備法○第二十六節蠶種の準備法○第二十七節蠶種の準備法○第二十八節蠶種の準備法○第二十九節蠶種の準備法○第三十節蠶種の準備法○第三十一節蠶種の準備法○第三十二節蠶種の準備法○第三十三節蠶種の準備法○第三十四節蠶種の準備法○第三十五節蠶種の準備法○第三十六節蠶種の準備法○第三十七節蠶種の準備法○第三十八節蠶種の準備法○第三十九節蠶種の準備法○第四十節蠶種の準備法○第四十一節蠶種の準備法○第四十二節蠶種の準備法○第四十三節蠶種の準備法○第四十四節蠶種の準備法○第四十五節蠶種の準備法○第四十六節蠶種の準備法○第四十七節蠶種の準備法○第四十八節蠶種の準備法○第四十九節蠶種の準備法○第五十節蠶種の準備法○第五十一節蠶種の準備法○第五十二節蠶種の準備法○第五十三節蠶種の準備法○第五十四節蠶種の準備法○第五十五節蠶種の準備法○第五十六節蠶種の準備法○第五十七節蠶種の準備法○第五十八節蠶種の準備法○第五十九節蠶種の準備法○第六十節蠶種の準備法○第六十一節蠶種の準備法○第六十二節蠶種の準備法○第六十三節蠶種の準備法○第六十四節蠶種の準備法○第六十五節蠶種の準備法○第六十六節蠶種の準備法○第六十七節蠶種の準備法○第六十八節蠶種の準備法○第六十九節蠶種の準備法○第七十節蠶種の準備法○第七十一節蠶種の準備法○第七十二節蠶種の準備法○第七十三節蠶種の準備法○第七十四節蠶種の準備法○第七十五節蠶種の準備法○第七十六節蠶種の準備法○第七十七節蠶種の準備法○第七十八節蠶種の準備法○第七十九節蠶種の準備法○第八十節蠶種の準備法○第八十一節蠶種の準備法○第八十二節蠶種の準備法○第八十三節蠶種の準備法○第八十四節蠶種の準備法○第八十五節蠶種の準備法○第八十六節蠶種の準備法○第八十七節蠶種の準備法○第八十八節蠶種の準備法○第八十九節蠶種の準備法○第九十節蠶種の準備法○第九十一節蠶種の準備法○第九十二節蠶種の準備法○第九十三節蠶種の準備法○第九十四節蠶種の準備法○第九十五節蠶種の準備法○第九十六節蠶種の準備法○第九十七節蠶種の準備法○第九十八節蠶種の準備法○第九十九節蠶種の準備法○第百節蠶種の準備法○第百一節蠶種の準備法○第百二節蠶種の準備法○第百三節蠶種の準備法○第百四節蠶種の準備法○第百五節蠶種の準備法○第百六節蠶種の準備法○第百七節蠶種の準備法○第百八節蠶種の準備法○第百九節蠶種の準備法○第百十節蠶種の準備法○第百十一節蠶種の準備法○第百十二節蠶種の準備法○第百十三節蠶種の準備法○第百十四節蠶種の準備法○第百十五節蠶種の準備法○第百十六節蠶種の準備法○第百十七節蠶種の準備法○第百十八節蠶種の準備法○第百十九節蠶種の準備法○第百二十節蠶種の準備法○第百二十一節蠶種の準備法○第百二十二節蠶種の準備法○第百二十三節蠶種の準備法○第百二十四節蠶種の準備法○第百二十五節蠶種の準備法○第百二十六節蠶種の準備法○第百二十七節蠶種の準備法○第百二十八節蠶種の準備法○第百二十九節蠶種の準備法○第百三十節蠶種の準備法○第百三十一節蠶種の準備法○第百三十二節蠶種の準備法○第百三十三節蠶種の準備法○第百三十四節蠶種の準備法○第百三十五節蠶種の準備法○第百三十六節蠶種の準備法○第百三十七節蠶種の準備法○第百三十八節蠶種の準備法○第百三十九節蠶種の準備法○第百四十節蠶種の準備法○第百四十一節蠶種の準備法○第百四十二節蠶種の準備法○第百四十三節蠶種の準備法○第百四十四節蠶種の準備法○第百四十五節蠶種の準備法○第百四十六節蠶種の準備法○第百四十七節蠶種の準備法○第百四十八節蠶種の準備法○第百四十九節蠶種の準備法○第百五十節蠶種の準備法○第百五十一節蠶種の準備法○第百五十二節蠶種の準備法○第百五十三節蠶種の準備法○第百五十四節蠶種の準備法○第百五十五節蠶種の準備法○第百五十六節蠶種の準備法○第百五十七節蠶種の準備法○第百五十八節蠶種の準備法○第百五十九節蠶種の準備法○第百六十節蠶種の準備法○第百六十一節蠶種の準備法○第百六十二節蠶種の準備法○第百六十三節蠶種の準備法○第百六十四節蠶種の準備法○第百六十五節蠶種の準備法○第百六十六節蠶種の準備法○第百六十七節蠶種の準備法○第百六十八節蠶種の準備法○第百六十九節蠶種の準備法○第百七十節蠶種の準備法○第百七十一節蠶種の準備法○第百七十二節蠶種の準備法○第百七十三節蠶種の準備法○第百七十四節蠶種の準備法○第百七十五節蠶種の準備法○第百七十六節蠶種の準備法○第百七十七節蠶種の準備法○第百七十八節蠶種の準備法○第百七十九節蠶種の準備法○第百八十節蠶種の準備法○第百八十一節蠶種の準備法○第百八十二節蠶種の準備法○第百八十三節蠶種の準備法○第百八十四節蠶種の準備法○第百八十五節蠶種の準備法○第百八十六節蠶種の準備法○第百八十七節蠶種の準備法○第百八十八節蠶種の準備法○第百八十九節蠶種の準備法○第百九十節蠶種の準備法○第百九十一節蠶種の準備法○第百九十二節蠶種の準備法○第百九十三節蠶種の準備法○第百九十四節蠶種の準備法○第百九十五節蠶種の準備法○第百九十六節蠶種の準備法○第百九十七節蠶種の準備法○第百九十八節蠶種の準備法○第百九十九節蠶種の準備法○第二百節蠶種の準備法○第二百一節蠶種の準備法○第二百二節蠶種の準備法○第二百三節蠶種の準備法○第二百四節蠶種の準備法○第二百五節蠶種の準備法○第二百六節蠶種の準備法○第二百七節蠶種の準備法○第二百八節蠶種の準備法○第二百九節蠶種の準備法○第二百十節蠶種の準備法○第二百十一節蠶種の準備法○第二百十二節蠶種の準備法○第二百十三節蠶種の準備法○第二百十四節蠶種の準備法○第二百十五節蠶種の準備法○第二百十六節蠶種の準備法○第二百十七節蠶種の準備法○第二百十八節蠶種の準備法○第二百十九節蠶種の準備法○第二百二十節蠶種の準備法○第二百二十一節蠶種の準備法○第二百二十二節蠶種の準備法○第二百二十三節蠶種の準備法○第二百二十四節蠶種の準備法○第二百二十五節蠶種の準備法○第二百二十六節蠶種の準備法○第二百二十七節蠶種の準備法○第二百二十八節蠶種の準備法○第二百二十九節蠶種の準備法○第三百節蠶種の準備法○第三百一節蠶種の準備法○第三百二節蠶種の準備法○第三百三節蠶種の準備法○第三百四節蠶種の準備法○第三百五節蠶種の準備法○第三百六節蠶種の準備法○第三百七節蠶種の準備法○第三百八節蠶種の準備法○第三百九節蠶種の準備法○第三百十節蠶種の準備法○第三百十一節蠶種の準備法○第三百十二節蠶種の準備法○第三百十三節蠶種の準備法○第三百十四節蠶種の準備法○第三百十五節蠶種の準備法○第三百十六節蠶種の準備法○第三百十七節蠶種の準備法○第三百十八節蠶種の準備法○第三百十九節蠶種の準備法○第四百節蠶種の準備法○第四百一節蠶種の準備法○第四百二節蠶種の準備法○第四百三節蠶種の準備法○第四百四節蠶種の準備法○第四百五節蠶種の準備法○第四百六節蠶種の準備法○第四百七節蠶種の準備法○第四百八節蠶種の準備法○第四百九節蠶種の準備法○第四百十節蠶種の準備法○第四百十一節蠶種の準備法○第四百十二節蠶種の準備法○第四百十三節蠶種の準備法○第四百十四節蠶種の準備法○第四百十五節蠶種の準備法○第四百十六節蠶種の準備法○第四百十七節蠶種の準備法○第四百十八節蠶種の準備法○第四百十九節蠶種の準備法○第五百節蠶種の準備法○第五百一節蠶種の準備法○第五百二節蠶種の準備法○第五百三節蠶種の準備法○第五百四節蠶種の準備法○第五百五節蠶種の準備法○第五百六節蠶種の準備法○第五百七節蠶種の準備法○第五百八節蠶種の準備法○第五百九節蠶種の準備法○第五百十節蠶種の準備法○第五百十一節蠶種の準備法○第五百十二節蠶種の準備法○第五百十三節蠶種の準備法○第五百十四節蠶種の準備法○第五百十五節蠶種の準備法○第五百十六節蠶種の準備法○第五百十七節蠶種の準備法○第五百十八節蠶種の準備法○第五百十九節蠶種の準備法○第六百節蠶種の準備法○第六百一節蠶種の準備法○第六百二節蠶種の準備法○第六百三節蠶種の準備法○第六百四節蠶種の準備法○第六百五節蠶種の準備法○第六百六節蠶種の準備法○第六百七節蠶種の準備法○第六百八節蠶種の準備法○第六百九節蠶種の準備法○第六百十節蠶種の準備法○第六百十一節蠶種の準備法○第六百十二節蠶種の準備法○第六百十三節蠶種の準備法○第六百十四節蠶種の準備法○第六百十五節蠶種の準備法○第六百十六節蠶種の準備法○第六百十七節蠶種の準備法○第六百十八節蠶種の準備法○第六百十九節蠶種の準備法○第七百節蠶種の準備法○第七百一節蠶種の準備法○第七百二節蠶種の準備法○第七百三節蠶種の準備法○第七百四節蠶種の準備法○第七百五節蠶種の準備法○第七百六節蠶種の準備法○第七百七節蠶種の準備法○第七百八節蠶種の準備法○第七百九節蠶種の準備法○第七百十節蠶種の準備法○第七百十一節蠶種の準備法○第七百十二節蠶種の準備法○第七百十三節蠶種の準備法○第七百十四節蠶種の準備法○第七百十五節蠶種の準備法○第七百十六節蠶種の準備法○第七百十七節蠶種の準備法○第七百十八節蠶種の準備法○第七百十九節蠶種の準備法○第八百節蠶種の準備法○第八百一節蠶種の準備法○第八百二節蠶種の準備法○第八百三節蠶種の準備法○第八百四節蠶種の準備法○第八百五節蠶種の準備法○第八百六節蠶種の準備法○第八百七節蠶種の準備法○第八百八節蠶種の準備法○第八百九節蠶種の準備法○第八百十節蠶種の準備法○第八百十一節蠶種の準備法○第八百十二節蠶種の準備法○第八百十三節蠶種の準備法○第八百十四節蠶種の準備法○第八百十五節蠶種の準備法○第八百十六節蠶種の準備法○第八百十七節蠶種の準備法○第八百十八節蠶種の準備法○第八百十九節蠶種の準備法○第九百節蠶種の準備法○第九百一節蠶種の準備法○第九百二節蠶種の準備法○第九百三節蠶種の準備法○第九百四節蠶種の準備法○第九百五節蠶種の準備法○第九百六節蠶種の準備法○第九百七節蠶種の準備法○第九百八節蠶種の準備法○第九百九節蠶種の準備法○第十百節蠶種の準備法○第十百一節蠶種の準備法○第十百二節蠶種の準備法○第十百三節蠶種の準備法○第十百四節蠶種の準備法○第十百五節蠶種の準備法○第十百六節蠶種の準備法○第十百七節蠶種の準備法○第十百八節蠶種の準備法○第十百九節蠶種の準備法○第十百十節蠶種の準備法○第十百十一節蠶種の準備法○第十百十二節蠶種の準備法○第十百十三節蠶種の準備法○第十百十四節蠶種の準備法○第十百十五節蠶種の準備法○第十百十六節蠶種の準備法○第十百十七節蠶種の準備法○第十百十八節蠶種の準備法○第十百十九節蠶種の準備法○第十百二十節蠶種の準備法○第十百二十一節蠶種の準備法○第十百二十二節蠶種の準備法○第十百二十三節蠶種の準備法○第十百二十四節蠶種の準備法○第十百二十五節蠶種の準備法○第十百二十六節蠶種の準備法○第十百二十七節蠶種の準備法○第十百二十八節蠶種の準備法○第十百二十九節蠶種の準備法○第十百三十節蠶種の準備法○第十百三十一節蠶種の準備法○第十百三十二節蠶種の準備法○第十百三十三節蠶種の準備法○第十百三十四節蠶種の準備法○第十百三十五節蠶種の準備法○第十百三十六節蠶種の準備法○第十百三十七節蠶種の準備法○第十百三十八節蠶種の準備法○第十百三十九節蠶種の準備法○第十百四十節蠶種の準備法○第十百四十一節蠶種の準備法○第十百四十二節蠶種の準備法○第十百四十三節蠶種の準備法○第十百四十四節蠶種の準備法○第十百四十五節蠶種の準備法○第十百四十六節蠶種の準備法○第十百四十七節蠶種の準備法○第十百四十八節蠶種の準備法○第十百四十九節蠶種の準備法○第十百五十節蠶種の準備法○第十百五十一節蠶種の準備法○第十百五十二節蠶種の準備法○第十百五十三節蠶種の準備法○第十百五十四節蠶種の準備法○第十百五十五節蠶種の準備法○第十百五十六節蠶種の準備法○第十百五十七節蠶種の準備法○第十百五十八節蠶種の準備法○第十百五十九節蠶種の準備法○第十百六十節蠶種の準備法○第十百六十一節蠶種の準備法○第十百六十二節蠶種の準備法○第十百六十三節蠶種の準備法○第十百六十四節蠶種の準備法○第十百六十五節蠶種の準備法○第十百六十六節蠶種の準備法○第十百六十七節蠶種の準備法○第十百六十八節蠶種の準備法○第十百六十九節蠶種の準備法○第十百七十節蠶種の準備法○第十百七十一節蠶種の準備法○第十百七十二節蠶種の準備法○第十百七十三節蠶種の準備法○第十百七十四節蠶種の準備法○第十百七十五節蠶種の準備法○第十百七十六節蠶種の準備法○第十百七十七節蠶種の準備法○第十百七十八節蠶種の準備法○第十百七十九節蠶種の準備法○第十百八十節蠶種の準備法○第十百八十一節蠶種の準備法○第十百八十二節蠶種の準備法○第十百八十三節蠶種の準備法○第十百八十四節蠶種の準備法○第十百八十五節蠶種の準備法○第十百八十六節蠶種の準備法○第十百八十七節蠶種の準備法○第十百八十八節蠶種の準備法○第十百八十九節蠶種の準備法○第十百九十節蠶種の準備法○第十百九十一節蠶種の準備法○第十百九十二節蠶種の準備法○第十百九十三節蠶種の準備法○第十百九十四節蠶種の準備法○第十百九十五節蠶種の準備法○第十百九十六節蠶種の準備法○第十百九十七節蠶種の準備法○第十百九十八節蠶種の準備法○第十百九十九節蠶種の準備法○第二十百節蠶種の準備法○第二十百一節蠶種の準備法○第二十百二節蠶種の準備法○第二十百三節蠶種の準備法○第二十百四節蠶種の準備法○第二十百五節蠶種の準備法○第二十百六節蠶種の準備法○第二十百七節蠶種の準備法○第二十百八節蠶種の準備法○第二十百九節蠶種の準備法○第二十百十節蠶種の準備法○第二十百十一節蠶種の準備法○第二十百十二節蠶種の準備法○第二十百十三節蠶種の準備法○第二十百十四節蠶種の準備法○第二十百十五節蠶種の準備法○第二十百十六節蠶種の準備法○第二十百十七節蠶種の準備法○第二十百十八節蠶種の準備法○第二十百十九節蠶種の準備法○第二十百二十節蠶種の準備法○第二十百二十一節蠶種の準備法○第二十百二十二節蠶種の準備法○第二十百二十三節蠶種の準備法○第二十百二十四節蠶種の準備法○第二十百二十五節蠶種の準備法○第二十百二十六節蠶種の準備法○第二十百二十七節蠶種の準備法○第二十百二十八節蠶種の準備法○第二十百二十九節蠶種の準備法○第三十百節蠶種の準備法○第三十百一節蠶種の準備法○第三十百二節蠶種の準備法○第三十百三節蠶種の準備法○第三十百四節蠶種の準備法○第三十百五節蠶種の準備法○第三十百六節蠶種の準備法○第三十百七節蠶種の準備法○第三十百八節蠶種の準備法○第三十百九節蠶種の準備法○第三十百十節蠶種の準備法○第三十百十一節蠶種の準備法○第三十百十二節蠶種の準備法○第三十百十三節蠶種の準備法○第三十百十四節蠶種の準備法○第三十百十五節蠶種の準備法○第三十百十六節蠶種の準備法○第三十百十七節蠶種の準備法○第三十百十八節蠶種の準備法○第三十百十九節蠶種の準備法○第四十百節蠶種の準備法○第四十百一節蠶種の準備法○第四十百二節蠶種の準備法○第四十百三節蠶種の準備法○第四十百四節蠶種の準備法○第四十百五節蠶種の準備法○第四十百六節蠶種の準備法○第四十百七節蠶種の準備法○第四十百八節蠶種の準備法○第四十百九節蠶種の準備法○第四十百十節蠶種の準備法○第四十百十一節蠶種の準備法○第四十百十二節蠶種の準備法○第四十百十三節蠶種の準備法○第四十百十四節蠶種の準備法○第四十百十五節蠶種の準備法○第四十百十六節蠶種の準備法○第四十百十七節蠶種の準備法○第四十百十八節蠶種の準備法○第四十百十九節蠶種の準備法○第五十百節蠶種の準備法○第五十百一節蠶種の準備法○第五十百二節蠶種の準備法○第五十百三節蠶種の準備法○第五十百四節蠶種の準備法○第五十百五節蠶種の準備法○第五十百六節蠶種の準備法○第五十百七節蠶種の準備法○第五十百八節蠶種の準備法○第五十百九節蠶種の準備法○第五十百十節蠶種の準備法○第五十百十一節蠶種の準備法○第五十百十二節蠶種の準備法○第五十百十三節蠶種の準備法○第五十百十四節蠶種の準備法○第五十百十五節蠶種の準備法○第五十百十六節蠶種の準備法○第五十百十七節蠶種の準備法○第五十百十八節蠶種の準備法○第五十百十九節蠶種の準備法○第六十百節蠶種の準備法○第六十百一節蠶種の準備法○第六十百二節蠶種の準備法○第六十百三節蠶種の準備法○第六十百四節蠶種の準備法○第六十百五節蠶種の準備法○第六十百六節蠶種の準備法○第六十百七節蠶種の準備法○第六十百八節蠶種の準備法○第六十百九節蠶種の準備法○第六十百十節蠶種の準備法○第六十百十一節蠶種の準備法○第六十百十二節蠶種の準備法○第六十百十三節蠶種の準備法○第六十百十四節蠶種の準備法○第六十百十五節蠶種の準備法○第六十百十六節蠶種の準備法○第六十百十七節蠶種の準備法○第六十百十八節蠶種の準備法○第六十百十九節蠶種の準備法○第七十百節蠶種の準備法○第七十百一節蠶種の準備法○第七十百二節蠶種の準備法○第七十百三節蠶種の準備法○第七十百四節蠶種の準備法○第七十百五節蠶種の準備法○第七十百六節蠶種の準備法○第七十百七節蠶種の準備法○第七十百八節蠶種の準備法○第七十百九節蠶種の準備法○第七十百十節蠶種の準備法○第七十百十一節蠶種の準備法○第七十百十二節蠶種の準備法○第七十百十三節蠶種の準備法○第七十百十四節蠶種の準備法○第七十百十五節蠶種の準備法○第七十百十六節蠶種の準備法○第七十百十七節蠶種の準備法○第七十百十八節蠶種の準備法○第七十百十九節蠶種の準備法○第八十百節蠶種の準備法○第八十百一節蠶種の準備法○第八十百二節蠶種の準備法○第八十百三節蠶種の準備法○第八十百四節蠶種の準備法○第八十百五節蠶種の準備法○第八十百六節蠶種の準備法○第八十百七節蠶種の準備法○第八十百八節蠶種の準備法○第八十百九節蠶種の準備法○第八十百十節蠶種の準備法○第八十百十一節蠶種の準備法○第八十百十二節蠶種の準備法○第八十百十三節蠶種の準備法○第八十百十四節蠶種の準備法○第八十百十五節蠶種の準備法○第八十百十六節蠶種の準備法○第八十百十七節蠶種の準備法○第八十百十八節蠶種の準備法○第八十百十九節蠶種の準備法○第九十百節蠶種の準備法○第九十百一節蠶種の準備法○第九十百二節蠶種の準備法○第九十百三節蠶種の準備法○第九十百四節蠶種の準備法○第九十百五節蠶種の準備法○第九十百六節蠶種の準備法○第九十百七節蠶種の準備法○第九十百八節蠶種の準備法○第九十百九節蠶種の準備法○第十百節蠶種の準備法○第十百一節蠶種の準備法○第十百二節蠶種の準備法○第十百三節蠶種の準備法○第十百四節蠶種の準備法○第十百五節蠶種の準備法○第十百六節蠶種の準備法○第十百七節蠶種の準備法○第十百八節蠶種の準備法○第十百九節蠶種の準備法○第二百節蠶種の準備法○第二百一節蠶種の準備法○第二百二節蠶種の準備法○第二百三節蠶種の準備法○第二百四節蠶種の準備法○第二百五節蠶種の準備法○第二百六節蠶種の準備法○第二百七節蠶種の準備法○第二百八節蠶種の準備法○第二百九節蠶種の準備法○第三百節蠶種の準備法○第三百一節蠶種の準備法○第三百二節蠶種の準備法○第三百三節蠶種の準備法○第三百四節蠶種の準備法○第三百五節蠶種の準備法○第三百六節蠶種の準備法○第三百七節蠶種の準備法○第三百八節蠶種の準備法○第三百九節蠶種の準備法○第四百節蠶種の準備法○第四百一節蠶種の準備法○第四百二節蠶種の準備法○第四百三節蠶種の準備法○第四百四節蠶種の準備法○第四百五節蠶種の準備法○第四百六節蠶種の準備法○第四百七節蠶種の準備法○第四百八節蠶種の準備法○第四百九節蠶種の準備法○第五百節蠶種の準備法○第五百一節蠶種の準備法○第五百二節蠶種の準備法○第五百三節蠶種の準備法○第五百四節蠶種の準備法○第五百五節蠶種の準備法○第五百六節蠶種の準備法○第五百七節蠶種の準備法○第五百八節蠶種の準備法○第五百九節蠶種の準備法○第六百節蠶種の準備法○第六百一節蠶種の準備法○第六百二節蠶種の準備法○第六百三節蠶種の準備法○第六百四節蠶種の準備法○第六百五節蠶種の準備法○第六百六節蠶種の準備法○第六百七節蠶種の準備法○第六百八節蠶種の準備法○第六百九節蠶種の準備法○第七百節蠶種の準備法○第七百一節蠶種の準備法○第七百二節蠶種の準備法○第七百三節蠶種の準備法○第七百四節蠶種の準備法○第七百五節蠶種の準備法○第七百六節蠶種の準備法○第七百七節蠶種の準備法○第七百八節蠶種の準備法○第七百九節蠶種の準備法○第八百節蠶種の準備法○第八百一節蠶種の準備法○第八百二節蠶種の準備法○第八百三節蠶種の準備法○第八百四節蠶種の準備法○第八百五節蠶種の準備法○第八百六節蠶種の準備法○第八百七節蠶種の準備法○第八百八節蠶種の準備法○第八百九節蠶種の準備法○第九百節蠶種の準備法○第九百一節蠶種の準備法○第九百二節蠶種の準備法○第九百三節蠶種の準備法○第九百四節蠶種の準備法○第九百五節蠶種の準備法○第九百六節蠶種の準備法○第九百七節蠶種の準備法○第九百八節蠶種の準備法○第九百九節蠶種の準備法○第十百節蠶種の準備法○第十百一節蠶種の準備法○第十百二節蠶種の準備法○第十百三節蠶種の準備法○第十百四節蠶種の準備法○第十百五節蠶種の準備法○第十百六節蠶種の準備法○第十百七節蠶種の準備法○第十百八節蠶種の準備法○第十百九節蠶種の準備法○第二十百節蠶種の準備法○第二十百一節蠶種の準備法○第二十百二節蠶種の準備法○第二十百三節蠶種の準備法○第二十百四節蠶種の準備法○第二十百五節蠶種の準備法○第二十百六節蠶種の準備法○第二十百七節蠶種の準備法○第二十百八節蠶種の準備法○第二十百九節蠶種の準備法○第三十百節蠶種の準備法○第三十百一節蠶種の準備法○第三十百二節蠶種の準備法○第三十百三節蠶種の準備法○第三十百四節蠶種の準備法○第三十百五節蠶種の準備法○第三十百六節蠶種の準備法○第三十百七節蠶種の準備法○第三十百八節蠶種の準備法○第三十百九節蠶種の準備法○第四十百節蠶種の準備法○第四十百一節蠶種の準備法○第四十百二節蠶種の準備法○第四十百三節蠶種の準備法○第四十百四節蠶種の準備法○第四十百五節蠶種の準備法○第四十百六節蠶種の準備法○第四十百七節蠶種の準備法○第四十百八節蠶種の準備法○第四十百九節蠶種の準備法○第五十百節蠶種の準備法○第五十百一節蠶種の準備法○第五十百二節蠶種の準備法○第五十百三節蠶種の準備法○第五十百四節蠶種の準備法○第五十百五節蠶種の準備法○第五十百六節蠶種の準備法○第五十百七節蠶種の準備法○第五十百八節蠶種の準備法○第五十百九節蠶種の準備法○第六十百節蠶種の準備法○第六十百一節蠶種の準備法○第六十百二節蠶種の準備法○第六十百三節蠶種の準備法○第六十百四節蠶種の準備法○第六十百五節蠶種の準備法○第六十百六節蠶種の準備法○第六十百七節蠶種の準備法○第六十百八節蠶種の準備法○第六十百九節蠶種の準備法○第七十百節蠶種の準備法○第七十百一節蠶種の準備法○第七十百二節蠶種の準備法○第七十百三節蠶種の準備法○第七十百四節蠶種の準備法○第七十百五節蠶種の準備法○第七十百六節蠶種の準備法○第七十百七節蠶種の準備法○第七十百八節蠶種の準備法○第七十百九節蠶種の準備法○第八十百節蠶種の準備法○第八十百一節蠶種の準備法○第八十百二節蠶種の準備法○第八十百三節蠶種の準備法○第八十百四節蠶種の準備法○第八十百五節蠶種の準備法○第八十百六節蠶種の準備法○第八十百七節蠶種の準備法○第八十百八節蠶種の準備法○第八十百九節蠶種の準備法○第九十百節蠶種の準備法○第九十百一節蠶種の準備法○第九十百二節蠶種の準備法○第九十百三節蠶種の準備法○第九十百四節蠶種の準備法○第九十百五節蠶種の準備法○第九十百六節蠶種の準備法○第九十百七節蠶種の準備法○第九十百八節蠶種の準備法○第九十



實用新案登錄證一一七九號

▲特別に戰後の經營として實費▼

改良蛾袋 母蛾保存器

定價 金壹百個 一百個以上百個ニ付金八十五錢 千個以上同金八十錢 五千個以上同金七十七錢 一萬個以上特ニ便宜御取扱可申候

▲販賣獨占代價一個一本年に限る▼

△本器は二尺五方碩に壹千餘個容る

○本器は數年間用ゐ得る事

○蛾袋は本館に於て半額を支辨す但し見本入用の御方は郵稅五錢封入のこと

○母蛾對人作業者通紙袋の三倍以上にして附鍵順序を誤る虞なし

○蛾袋は本館に於て半額を支辨す但し見本入用の御方は郵稅五錢封入のこと

○母蛾對人作業者通紙袋の三倍以上にして附鍵順序を誤る虞なし

○本器は一縣下一名若くは二名に分權を與し同業者の便利を計らんと御希望の御方は明年より着手の豫定を以て御申越相成度候

○蛾袋は簡單にして闕蛾する恐なし

○蛾屎蛾液の爲め地區へ毒液を流通するの虞なし

○母蛾生命の長短を驗する事何時にても自由を得

○母蛾混雜同居或は劣悪なる雄蛾を封入するに非常なる手數を費し消し爲めに製造する不得止に至る嗚呼實に遺憾の事に候然りとは雖も安價なる物は實用に收支相償はず由つて以て不肖茲に數年間の結果考案したる母蛾保存器は第一使用者の經費を輕減し夫を省き缺蛾を防ぎ雄液地區流通を防止する等の功要は兼て富ふるに過ぎず一縣に要するに弊館を犧牲に供する意とせず可及的本器を製作し戰後の經營として本年度に限り實費にて發賣し以て蠶種業界の便利普及を圖らんとす希くば當業者諸君澤山御使用上の余の專心成功の結果を評せられんことを切望する而已

愛縣幡豆郡横須賀町

蠶種製造者 蠶桑館主 **榊原新一郎**

上篠盤照會に付き注意

前々號より本誌に廣告掲載致候處諸々製絲器御購求相成候得共間々說明書に依り器械面已御求め被下候處未だ實物を御評知なき向は機形に依り熟見相成ざれば製絲器使用出來ざる故と存候依て御入用の向は御申越に從ひ貳個の試に各要部へ符號を以て壹個の習械に依り四種の製造方法を示したるも蠶業經濟を図る致べく候間御試驗の上當業者の諸君が何れにても蠶業經機形の宜敷きものを御使用あらん事を希望致候

小小包料共四拾錢 說明書三錢 製絲器四壹圓五拾錢

島根縣邑智郡谷村

小田忠四郎

春夏秋蠶蟻量 壹匁飼育標準表

壹枚 金壹錢 郵稅貳拾枚迄貳錢

右は東京蠶業講習所試驗飼育の標準表なりしが本會々報第百四十五號附錄として會員に頒ち爾後所望者非常に多く依て更に數萬部を印刷し廣く當業者に頒つ

大日本蠶絲會

品評會開設豫告

當支會は戰後經營の一端として來る十月中旬を期し第二回品評會を開催せんとす會員諸君は大に賛同せられ有志を勸誘し奮て出品あらんことを希望す

出品は左の五種とす

蠶種 繭 生絲 桑苗木 蠶具

明治三十九年四月 **大日本蠶絲會山形支會**

精良なる蠶種を謹て廣告すへし

實に販賣するため養蠶業案內申綴次第送呈す

長野縣東筑摩郡松本町女鳥羽川岸

信州蠶種販賣組合事務所

産業組合法により本組合を設立に際す定數及び養蠶家の需要

◉**我縣下一定春蠶種改良又昔**

右販路鶴眞の貸付種用種製造費一箱五厘にて豫約墓集す希望者は來る六月拾八日迄に豫約金一枚に付拾五錢相添へ至急申込あれ送料箱代弊館支拂郵券代用承諾す翻引せず

島根縣八束郡忌部村 板原產市

嶄新装置火力乾燥

特許

譽田式乾燥器

○火力乾燥の經濟的にして且便利なるは何人も是認する處たり然れども火災、乾燥不均一等の點あるは火力乾燥の通弊なり
○本器は前記の通弊をして遺憾なく悉く除去し得たり之れ火力乾燥の一大進歩にして本器の特許を得たる主眼玆にあり左に信州六工社より送られたる實見證明書を掲け以て本器の成蹟が如何に好良なるかを證告せんとす

證明書

一特許譽田式乾燥器

右は本年五月中本社武州上尾町出張所に於て二臺据付の以後實驗せる成蹟に據れば

一容易に最高熱度に昇すことを得て而かも其昇降自由なること
一室内の溫度極めて均一にして乾燥に不平均なく光澤解舒共に良好なること
一燃料の少なきは顯著なる事實にして他に比類を見ず

世間乾燥器の種類多しと雖も低廉且簡易にして其成蹟の好良なる蓋し本器の如きは其最も優れるものたるを信す

右實驗の結果に依り證明候也

明治三十八年十二月

信州松代町六工社
社長 羽田桂之進 印

●一室生繭四石入●乾燥一回七時間●
●晝夜三回工程十二石●代價金貳百五拾圓●
說明書申込次第進呈

横濱市辨天通六丁目百四番地

特許譽田式乾燥器販賣所

●—●蠶業界空前の大發行高●—●

良好なる教科書簡明なる參考書

東京蠶業講習所技師 農學士 林 䮾作先生著

第七版

通俗蠶業教科書

菊版背皮總クロース金文字入本文中彩色挿圖其他精圖蠶室圖等

百有餘個入

用紙最上

正價金壹圓貳拾五錢

小包料十錢

目次大要

● 桑樹栽培 第一章桑樹○第二章桑樹の品種○第三章桑樹の苗木（實播法、壓條法、挿木法、接木法）○第四章桑園の栽植○第五章株植及仕立法○第六章肥料及施肥法○第七章管理及收穫（摘採、株植及結束收穫）○第八章病蟲害及豫防

● 蠶體解剖 第一章家蠶○第二章家蠶の外形（蠶卵、蟻蠶、蠶兒、蠶蛹、蛾）○第三章皮膚、皮膚の附屬器○第四章消化器（蠶兒の消化器、蛹の消化器）○第五章血管系（蠶兒の血管）○第六章呼吸器（蠶兒の呼吸器、蛹の呼吸器）○第七章筋肉組織○第八章神經系及感覺器（蠶兒の神經系及感覺器、蛹の神經系及感覺器）○第九章生殖器（蠶兒の生殖器、蛾の生殖器）

● 蠶體生理 第一章營養（食物の消化、營養）○第二章呼吸（呼吸作用、吸氣及呼氣）○第三章蠶と外界（溫度濕度光線）○第四章脱皮及成長○第五章○第六章脱皮及成長○第七章繁殖及遺傳（蠶卵の發育、遺傳及變異）○第八章化性及品種

● 蠶體病理 第一章蠶病○第二章微粒子病（總論、病徴、病原、豫防法）○第三章○第四章硬化病（總論、病徴、病原、豫防驅除）○第五章軟化病（總論、病徴、病原、豫防驅除）○第六章蠅蛆病（總論、病徴、病原、豫防驅除）○第七章蠶病消毒法（總論、蠶室消毒法、蠶具消毒法）

● 春蠶飼育法 第一章蠶室（蠶室の位置、蠶室の構造、貯桑室）○第二章蠶具○第三章蠶種の品種、蠶種の選擇、蠶種の洗滌、蠶種の貯藏、催青○第四章飼育、掃立、給桑、除沙、擴座、眠起處理○第五章上簇法○第六章採繭法（繭の保護、採種）

● 夏秋蠶飼育法 第一章、夏秋蠶及四化蠶（夏蠶、秋蠶、四化蠶）

● 製絲法 第一章、貯繭（殺蛹、繭乾燥、繭貯藏）○第二章製絲場（製絲場の位置、製絲場の構造、製絲器械）○第三章繰絲（煮繭、索緒、抄緒、繰絲、揚返）○第四章絲の檢査○第五章生絲の品位（繊度、強力、伸度及纖減）

「附」春夏秋蠶飼育標準表 改正濕度表

日進學術の進歩に隨伴して常に增補改訂しつゝ出版するものは實に本書也襄に初版發行以來續々各府縣農學校蠶業學校の教科書として採用せられ天下の好評を得つゝあるかを第七版を發行するに至れり農商務省蠶業講習所を始め地方農學校及蠶業學校並に同蠶業講習會等の在學者は勿論今より入學せんと欲する諸君は必らず本書壹部を座右に供ふべきなり

東京市日本橋區通旅籠町拾四番地（特電話本局二千八十五番）

發兌書肆 丸山舍書籍部

山梨縣蠶種同業組

戰勝紀念として伊勢山田に開かれたる大日本蠶絲會第八回品評會に於て蠶種の優賞は多く我山梨の出品之を占むるに至れり以て如何に我山梨の蠶種が天賦の地利に據り近年改善の實を擧げたるやを知るに足るべし殊に一化性風穴秋蠶種の如きは我縣の發明に係り富士風穴と共に獨特の長所を有す我等同業者は鋭意天與の特質を發揮するに力め春蠶、風穴二化蠶共益精良なる蠶種を製出して永く此榮譽を汚損せざらんことを期すべし請ふ四方の蠶業家諸彦奮て御注文あらんことを

東八代郡石和町　株式會社　八　達　館　北巨摩郡岡野村　望富館　小澤孝太郎
東八代郡相興村　芙蓉堂　早川文太郎　東山梨郡日川村　美原屋　小野治甫
甲府市八日町郵便局前　蠶種豊富館　東山梨郡日川村　順氣館　小野義太郎
東山梨郡日川村　松同館　堀内甚之丈　東山梨郡加納岩村　古久七　奥山七良右衛門
東山梨郡日川村　清風館　小野元兵衛　東八代郡祝村　渡邊元亨

合員蠶種販賣廣告

甲都留郡瑞穂村　報德館　渡邊孝　東八代郡富士見村　内田故輔
中巨摩郡豊村　豊榮館　河野德三郎　西山梨郡山城村　山梨蠶種合資會社
東山梨郡上萬力村　代永正平　東山梨郡上萬力村　山下藤太郎
東山梨郡上萬力村　代永清作　北巨摩郡岡野村　眞壁嘉吉
東山梨郡上萬力村　代永龜太郎　東山梨郡日川村　松本喜錄
東山梨郡上萬力村　代永金太郎　東山梨郡七里村　富貴館
東山梨郡諏訪村　竹居治　東山梨郡上萬力村　古屋久昌
東山梨郡七里村　竹摸館　東山梨郡日川村　古屋丹作
東山梨郡日川村　田邊館　田邊佐藤　東山梨郡日川村　古桑館
東山梨郡日川村　津島館　津島友善　東山梨郡日下部村　小林房吉
中巨摩郡三恵村　塚原水次郎　東八代郡一宮村　桃隣館　小池五兵衛
東八代郡竹野原村　土屋平作　東山梨郡春日居村　聯珠館　雨宮五郎
西山梨郡千塚村　大木館　根津榮次郎　東山梨郡勝沼町　芦澤多左衛門
東山梨郡二富村　名取喜十郎　東八代郡豊富村　雨宮伊七
東八代郡相興村　相興社　成島半平　南巨摩郡曙村　有泉辨作
東山梨郡日川村　富桑館　長野染太郎　東山梨郡上萬力村　曙蠶種合資會社
北巨摩郡登美村　中村文太郎　東八代郡一宮村　嶽北館　佐藤三郎兵衛
西山梨郡住吉村　内藤幸十郎　東山梨郡日川村　霜下蠶種合資會社
東山梨郡後屋敷村　中島高知　西山梨郡山城村　向陽館　志村政誠
東八代郡竹野原村　扶桑館　上田喜之助　東山梨郡日川村　篠原永太郎
東八代郡竹野原村　上野幸右衛門　東八代郡後屋敷村　關口種甫
東山梨郡日川村　磯野丑太郎　東八代郡金生村　鈴木常吉
鈴木勢次郎

田口卯吉君序　相馬愛藏先生著（全一冊）改版大增補第三版發行

蠶種製造論

正價金五十錢
郵稅金六錢

田口卯吉、璧月二郎、兩氏肖像、傳記評論挿入

目次

●緒論 ●種取りと繭取りの別 ●善良なる種類 ●製種に特別なる飼育法 ●遺傳の法則 ●蠶及病毒遺傳 ●先祖への關係 ●陽光上の關係 ●空氣の關係 ●桑葉力の關係 ●肥料の關係

●飼育の原理 ●美大の子孫を得るの秘訣 ●特別なる取扱法 ●上簇より製種に到る迄の注意 ●蠶種の製造及保護 ●蠶病論 ●種類の淘汰及蠶種の進化 ●種類の優劣と熟色の關係 ●蠶種の鑑定

●總論 ●傳播の蠶種の品位 ●支那蠶種の品位 ●日本蠶種の缺点 ●西ヶ原傳習所蠶種製造を評す ●長野、群馬、福島三大種場の消長 ●將來の蠶種製造地、附たり北海道蠶種 ●夏蠶種の製造

●秋蠶種の製造 ●春蠶製造作の原因 ●春蠶十期 ●經濟事情と飼育法の變遷 ●製作に際し蠶種を如何にすべきや ●蠶種製造者同業者に告ぐ ●蠶室新築に就く ●春蠶飼育法は一定すべきものなるや ●養蠶試驗報告の價値

●[illegible] ●[illegible]蠶種製造業の急務 ●[illegible]淘汰法の準備 ●蠶種の種類に就て ●日本人と[illegible]改良論 ●農作物種子改良論

蠶種製造に關するや凡及古今東西の製法を研究評論せるのみならず蠶種製造家が倒産するの𛀁き理由より一般養蠶經濟論の如き活眼を開て活世界を論破せし者と謂つべし然れば製造家は勿論國家經濟を論ずるの士は必ず一讀せざる可らず

京都蠶業講習所長松永伍作先生著

養蠶教科書

（再版發行）

總クロース上製
紙數二百餘頁
挿圖銅木版寫眞版入
正價六拾五錢
小包料拾錢

目次 ●緒言 ●第一章 [illegible] ●第七章 育蠶 ●第八章 蠶種の製造 ●[illegible] ●第十章 [illegible] ●附錄 [illegible] ●第五章 蠶室及器具 ●第六章 蠶種の保護

著者松永先生は現に農商務省京都蠶業講習所長として其任に在るの人なり先生が玆に二十幾年我蠶業の教育に從事せられたる功績の如何に大なるやは既に已に天下の認知する所今更弊舍の贅言を要せず而して本書は先生が公務多忙の餘暇を驅りて農學校及講習會等の教科書又蠶業家の參考書として世に資すべく著はされたるものなり請ふ先生の舊著に係し深大の御愛讀を垂れ給はんことを切望す

發兌元　東京市日本橋區箔屋町十四番地　丸山舍書籍部　【電話本局二〇八五番】

片岡紀念會經過決算報告

本會ハ昨年八月之ヲ組織シ同時ニ紀念品製造ノ企畫ヲ立テ[illegible]且ツ弘ク有志ノ賛同ヲ求メタリ[illegible]故片岡紀之助君[illegible]大ニ[illegible]蠶業[illegible]

右ノ經營ヲ決成セラレ[illegible]本年一月ニ及ンデ全ク竣工[illegible]

明治三十九年　發起人　岩崎正隆　高橋太吉　小山幸右衛門　中澤豊五郎　鈴木彦六　沼崎正夫

明治三十九年一月廿五日付申請蠶種保護器献納ノ件許可ス

明治三十九年一月十二日　岩手縣知事　押川則吉

以上ハ會務經過ノ概略ナリトス左ニ收支ノ決算ヲ揭ゲテ各位ノ清覽ニ供スヘシ

一收入之部
金參百五拾六圓　是ハ醵出金總額其詳細ハ別紙醵出者芳名錄之通リ

一支出之部
金貳百拾圓　是ハ蠶種貯藏器拾四個ノ製造費
金參拾圓　是ハ右貯藏器運搬費トモ
金壹拾七圓　是ハ印刷費通信費其他諸雜費
計金貳百五拾七圓

收支差引殘金九拾九圓
[illegible]

一金八拾六圓
內
金貳拾五圓
金六拾壹圓

明治三十九年四月一日　片岡紀念會發起人　岩崎正隆　高橋太吉　小山幸右衛門　中澤豊五郎　鈴木彦六　沼崎正夫

醵出金芳名錄（申込ノ順序ニ依ル）

一金五拾圓	氣仙製絲組合	一金五拾圓	東山製絲組合
一金三拾圓	前澤製絲組合	一金拾圓	大追製絲組合
一金貳拾圓	愛宕製糸組合	一金拾圓	下閉伊製絲組合
一金廿圓	下閉伊全製絲組合	一金拾圓	西磐井製糸組合
一金貳圓	渋田壽治	一金壹圓	佐々木善五郎
一金貳圓	工藤丑五郎	一金壹圓	中澤與兵衛
一金貳圓	石川徳次郎	一金壹圓	高橋林五郎
一金五圓	石川元三郎	一金五圓	林初太郎
一金五圓	大谷蠶種株式會社	一金五圓	今井治郎
一金五圓	渋谷[illegible]	一金[illegible]	丸岡寛三郎
一金貳圓	岩清馬太之介	一金壹圓	岩本長次郎
一金壹圓	岩持[illegible]郎	一金壹圓	鈴木清藏
一金壹圓	原田[illegible]衛	一金壹圓	島香泰助
一金壹圓	伊藤健夫	一金壹圓	佐藤清吉
一金壹圓	久保寛次郎	一金壹圓	村上萬平
一金貳圓	吉原倉次郎	一金壹圓	岩内文介
一金壹圓	島橋伊勢永	一金壹圓	花澤[illegible]
一金壹圓	島羽源藏	一金壹圓	杉田健次郎
一金五圓	盛岡蠶業組合	一金七圓	新里常吉
一金拾圓	二戸郡有志者	一金拾五圓	上閉伊郡有志者
一金貳拾圓	川原田愛五郎		新井伊郎
	膽澤民蠶業組合	一金參拾圓	九戸郡有志者

計金參百五拾六圓　發起者一同

農學博士 大森順造先生新著

蠶業教科書 第壹篇 桑樹栽培論

目次

第一章 總論
第二章 桑樹の種類
第三章 桑の早中晩生の關係
第四章 桑樹繁殖
第五章 栽植法
第六章 高刈
第七章 桑樹の營養論
第八章 管理
第九章 收穫
第十章 保護及除害
外に試驗問題百四十七

クロース上製 精圖五十餘個入

正價金六拾五錢 郵稅金八錢

農學博士 大森順造先生新著

蠶業教科書 第貳篇 蠶體解剖生理論

目次

第一章 總論
第二章 幼蟲の外景
第三章 幼蟲と溫度
第四章 幼蟲と濕氣幷に光線
第五章 蛹體の外景
第六章 成蟲の外景
第七章 蠶體の構造
第八章 皮膚と蛻皮
第九章 新陳代謝
第十章 蠶兒の飼料
第十一章 消化
第十二章 血液循環
第十三章 呼吸
第十四章 排尿器
第十五章 結繭の本質
第十六章 絹絲腺
第十七章 筋肉
第十八章 脂肪組織
第十九章 神經系
第二十章 知覺器
第廿一章 生殖器
第廿二章 卵と溫度及び濕氣
第廿三章 蠶卵の呼吸
第廿四章 人工孵化法
第廿五章 蠶卵の構造
第廿六章 胚子の發育
外に試驗問題百七十一

三月十日發刊

クロース上製 精圖五十餘個入

正價金六拾五錢 郵稅金八錢

著者は世人の知らるゝ如く農科大學及大學院に於て八ケ年間蠶業を研究し其間種々の發見を世に公にせられ其後又七年間專ら蠶業の教育に從事し此間其研究せる蠶業に關する論文を提出して學位を授けられ今現に官立盛岡高等農林學校に教授たり其記載の簡明にして周到なるかは今更書肆の贅言を要せざるなり請ふ續々御愛讀の榮を給へ

發兌元 東京市日本橋區箔屋町十四番地（特電話本局二〇八五番） 丸山舍書籍部

蠶業新報

毎月一回廿五日發行 一部郵稅共十二錢 十二冊前金郵稅共壹圓廿錢 廿四冊前金郵稅共二圓參拾錢

三月廿五日發行第百五十六號目次左の如し

▲口繪 片倉兼太郎兄弟の肖像及び其邸宅と製絲工場
▲製絲工女功績調査に就き
▲育蠶用寒暖計
▲戰後の經營
▲蠶病豫防法に對する余の意見
▲羅馬尼亞國の蠶業
▲桑栽培に關する實驗
▲本邦戰後の經濟
▲生絲貿易の前途
▲低溫飼育と蠶の抗疫力
▲蠶業瑣談
▲獨逸國の人造絹絲
▲滿州の蠶業

記者　理學博士 佐々木忠次郎　京都蠶業講習所長 松永伍作　衆議院議員 工藤善助　岸村喜藏　在佛國 小野元兵衛　橋本重兵衛　紫藤章　農學士 石田孫太郎　佐野理八　鈴木梅太郎　農學博士 鹽谷清多郎

右の外本號には本社獨得の探訪に成れる世界一の製絲家**片倉兼太郎**氏の事業と家庭は一讀天下を驚動せし蠶業界に**成功**を望む者は讀め氏の奮鬪は趣味實益多き哉其他雜錄三件、寄書二篇、問答、批評、統計、雜報、海外彙報、附錄（佛國蠶業會書記）蠶界の時事と政府蠶政の是非とを忌憚なく直論横議するは實に本誌の特色にして本邦斯業雜誌中唯一のものたり其趣味と實益を兼ね備へたるは已に世の定論のあるあり今更自讚の吹聽を要せず、苟も蠶界に職くものは先つ本誌を一讀せざる可らず

發行所 東京市日本橋區箔屋町十四番地 蠶業新報社

蠶卵臺紙

○一化性用千枚 一等 貳拾五圓 二、貳拾參圓半 三、貳拾貳圓
○二化性用千枚 一等、拾五圓 二、拾四圓 三、拾貳圓半
○枠製二重白紙千枚 一等、拾四圓 二、拾參圓半 三、拾貳圓
○二重厚麗最優等百枚 貳圓六拾錢箱入送料共參圓（普通枠形振△諸品評會出品用）
○速接蛾袋和紙上等千組六圓内外早期の御買入は凡て御便益不尠候可成早々御用命を乞ふ

詳細は御一報次第營業案内送附

蠶卵臺紙業 長野縣小縣郡長瀬 倘信堂（電略シラ）

魯桑實豫約實費分與廣告

近時蠶業の發達に伴ひ夏秋蠶用速成桑園設置の必要なる事を認め採種實費にて客年聊か熱心家諸君の求めに應ずる目的を以て本會報の餘白を藉り世に公にせし所意外に希望諸君多く爲めに折角の申込者の半數たも滿足に應ずる能はず乍遺憾空しく代金返送の止むなきに至る是れ啻に相互の失費を要せしのみならず返つて其目的を遂り蠶界の進路を沮害せし事尠少に止まらず故に前年の罪を謝するゝ共に本年採種は實費分與の豫約をなす
委細は往復郵書にて照會ありたし
岩手、宮城、福島の三縣は實費の半額を以て分與す

德島縣板野郡西分村 遠藤庄八

蠶種豫約販賣廣告

一春蠶 **伯州又昔**

代價 挺製壹蛾 參錢五厘 平八分附壹枚 壹圓六拾錢 多數の購入者には割引す

本會が製造する蠶種伯洲又昔より産出したる繭が解舒良好纖度整齊類節の寡少にして製絲に適する事は伯洲絲の年々歳々横濱阜頭第一の好評を博し價格全國の最上位を占む他なし改良の結果なり

本會は東伯郡中重なる蠶種業者數名の結社にして製造の蠶種は伯洲又昔の一種に限り會員相戒めて麁製を防ぎ益々東伯蠶種の聲名を永久に發揚せんとするにあれば個人的營利一偏の業にあらざる事を了知せられ其實益を收め給わん事を之れ祈る

明治三十九年

鳥取縣倉吉町

東伯蠶種改良會

製絲機械製造販賣

明治二年東京築地製絲機械所創設以來斯業繼續

東京市京橋區柳町十二番地

川口屋 佐山商店

●精良春蠶種販賣廣告

●良白(一名島村)長大巣 一升二百二三十顆
●大巣白龍 大巣 一升二百顆内外
●大又 中巣 一升二百五六十顆
●丸志保 中巣 一升二百六七十顆
●改良又昔 長中巣 一升二百五六十顆
●白玉(一名白姫蠶)中巣 一升二百五十顆

前掲蠶種は天理の原則に法り自然の道理に基き大氣の清通を旨として四十餘日間利根川沿岸の良桑を以て飼育し殊に精巧の顯微鏡撰種法とトリラー式消毒法とを以て專ら日進の學術を應用し病毒を除き抗疫性に富む完全純良の蠶種に御座候猶種類の義は多年の經驗を以て飼育し易く繭質善良纖維均一絲量最も多きものを改良撰擇せしものに御座候間多少に不拘御試育相願度此段養蠶家諸君へ拜告仕候

代價 全面平附壹枚金壹圓四拾錢●框製壹蛾生 金貳錢五厘

割引●平附拾枚原種用壹千蛾以上壹割引●農會其の他團體等に於て一手に多數御購求の節は特別に御相談可仕候

●郵便爲替は上野國佐波郡島村局へ御振込みの事●蠶種郵送料箱代は弊園の負擔に候也

桑柘園 群馬縣佐波郡島村勸業社 **田島彌平蠶事部**

夏蒔 魯桑

新種豫約販賣

正價壹合に付
壹合賣 金六十錢
二合以上 金五十五錢
五合以上 金五十錢
壹升以上 金四十五錢

但精撰種壹升の量目風袋共凡そ百八拾匁郵税金六錢

弊社は桑苗製造販賣專業にて農科大學農商務省蠶業講習所其他法官廳農蠶學校等之御用達なり今般夏蒔魯桑種子の新種純粹品改良製造撰種法運搬等に付精しく研究して充分之發芽力を有する最良種を豫約販賣仕候其販賣期間も僅少の日數に付御購買諸君往復御照會を省くこと尤も御注意の上豫約御注文被下候

●豫約御申込は六月十五日限●種子發送は七月十五日限

●代會は總て前金に申受け候●正價割引は一切不仕候

東京府豊多摩郡淀橋町字角筈一番地

桑蠶社

AVIS.

1°. Le bulletin de l'Association séricicole du Japon est l'organe des membres de cette société qui compte actuellement plus de 8.100 membres.

2°. Cette Association a pour but de développer toutes les industries de la soie en publiant un rapport mensuel, dans lequel il sera mentionné tous les faits et études sur la soie émanant de savants et intéressés.

3°. Dans ce rapport sera inscrit dans les langues européennes le mouvement mensuel de la Condition des soies de Yokohama, lequel sera distribué aux intéressés étrangers.

4°. L'Association recueillera et publiera les essais et études faits par les interessés étrangers en matière des soies.

La Direction de l'Association Séricicole du Japon.

NOTICE.

1) The report of the sericultural Association of Japan are intended to serve the interest of the members of the association, whose number is over 8.100.

2) This association has for its object the development of all silk industries by publishing a monthly report containing the facts and studies on silk by specialists and persons interested in silk.

3) In this report the monthly statement of the Yokohama Silk Conditioning House will be published in a European language for distribution among foreigners interested in silk.

4) The association will collect and publish articles and studies foreigners of topics concerning silk.

The Direction of the Sericultural Association of Japan.

農科大學教授理學博士 佐々木忠次郎先生校閲
實驗 蠶體生理
全一冊第三版 正價金一圓 小包金拾錢
洋四クロース背金文字入彩色石版、寫眞銅版、西洋木版等入十有餘圖入

東京蠶業講習所技師 農學士 廣瀬次郎先生著
蠶體病理
全一冊第七版 正價金三十五錢 郵稅金四錢
洋裝彩色石版、寫眞銅版、西洋木版等五十有餘圖入

廣瀬次郎先生 金成金產先生 合著
養蠶示教
全一冊再版 正價金三十五錢 郵稅金四錢
洋裝假綴背クロース寫眞銅版及西洋木版等十數個入

農科大學助教授農學博士 澤村眞先生 農科大學助手 山崎德吉先生 合著
蠶兒 軟化病之研究
全一冊再版 正價金五十錢 郵稅金六錢
洋裝極彩色石版二十九版及西洋木版數個入

農學博士 澤村眞先生著
蠶生理化學
全一冊 正價金三十錢 郵稅金四錢
洋裝假綴

東京蠶業講習所技手 岩淵平介先生 長岡哲三先生 合著
通俗 蠶病豫防法
全一冊再版 正價金五十錢 郵稅金八錢
洋裝クロース背金文字入西洋木版十數個入

高田重右衛門先生口述 金成金產先生編
實驗 桑樹栽培改良法
全一冊三版 正價金六十錢 郵稅金八錢
洋裝總クロース背金文字入 寫眞銅版四密畫石版六、西洋木版十數個入

京都蠶業講習所長松永伍作先生 生絲檢查所技師今西直次郎先生 編輯
珍袖 蠶絲寶典
全一冊第四版 正價金七十五錢 郵稅金四錢
附和、佛、伊、英、獨、蠶業專門語集釘裝頗最上優美ポケット入

高野與組次郎先生著
顯微鏡使用法
全一冊再版 正價金五十錢 郵稅金六錢
洋裝總クロース背金文字入西洋木版三十有餘個入

前生絲檢查所技師 高橋信貞先生著
製絲法
全一冊第三版 正價金一圓 小包金十一錢
洋裝總クロース背金文字入密書石版四十有餘圖入

同 高橋信貞先生講述
生絲繭蠶種審查法
全一冊第五版 正價金四十錢 郵稅金六錢
洋裝總クロース背金文字入密書石版及木版十數個入

同 高橋信貞先生編著
世界各國 產繭標本寫眞
全二葉再版 正價金二十錢 郵稅金四錢
解說一冊付額面用縱一尺二寸橫一尺四寸

福島縣蠶業大家 高橋久右衛門先生著
養蠶術原論
全一冊 正價金一圓 小包金十二錢
洋裝美本總クロース背金文字入密書石版西洋木版等入

同 高橋久右衛門先生講述
高橋養蠶談
全一冊 正價金五十錢 郵稅金四錢
洋裝總クロース背金文字入密書石版西洋木版等入

發兌元 東京市神田區美土代町三丁目十四番地 明文堂

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK

	Soie. Silk.				Maximum du prix. Highest prices.	
OURS. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Prix. Prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	80	214	47	—	Sofiitukan	1.000
2	111	141	28	—	Takataseishijo	1.000
3	82	123	113	2.552	Tenriugawasha	1.030
4	—	—	—	—		
5	43	195	51	—	Hirosuekan.	1.080
6	221	263	37	—	Jiosnisha	1.100
7	86	197	58	—	Gunzoseishikwaisha	1.120
8	108	293	31	—	Nakaizumisha	1.070
9	56	235	40	329	Kazamasha	1.120
10	90	263	51	—	Fukokuken	1.025
11	—	—	—	—		
12	85	300	33	—	Dairikukon	1.055
13	201	342	48	1.436	Shinyosha	1.037½
14	136	255	18	—	Kazamaseishijo	1.100
15	134	71	27	—	Unrikuan	1.050
16	41	74	53	1.264	Samposha.	1.080
17	131	53	7	204	Kokubosha	1.080
18	—	—	—	—		
19	111	259	3	—	Yokosukasha	1.090
20	203	77	3	554	Fukukawasha	1.080
21	—	—	—	—		
22	202	194	25	—	Yokosukasha.	1.095
23	262	176	31	—	Shinyosha	1.085
24	104	410	56	250	Tanshiseishijo	1.080
25	—	—	—	—		
26	71	120	54	—	Hiramotoseishijo	1.080
27	201	349	101	92	Tenriugawasha.	1.095
28	60	205	80	—	Kioshinsha.	1.070
29	119	246	30	855	Mariwaseishijo	1.100
30	72	145	12	584	Mizusseistijo	1.030
31	81	92	32	353	Makabosha.	1.065
Total	3.091	5.391	1.070	8.410		

1 yen vaut environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Mars 1906.)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(March 1906.)

	Report.	Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Exported.	Renvoyé. Sent back	Arsgetter. Brought forward.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*
Filature.	5.305	2.837	3.296	—	709	4.157
Filature.	1.905	74	1.714	—	180	86
Zaguri. Retsel.	419	159	411	—	120	47
Kakada. Orihayashi.	78	31	—	—	64	48
Autres. Other.	7.707	3.071	5.391	8.410	1.070	4.338
Total.	3.420	3.312	3.964	3.772	940	1.849
1905.						

CONTENTS.

Contributions:
- On sericultural industry.......... *Baron*, K. Kaneko.
- The spinning industry of Tussah in Manchuria and *Chifu*.......... S. Shiotani.
- My opinion on the letter of silkworm and mulberry.......... S. Niwa.
- On nature and price of Formalin .... *Nōgakushi* C. Tsuji.

Opinions:
- On japanese customs on the selection of a spouse, having observed from the principle of artificial selection.......... *Rigakuhakushi* K. Mitsukui.
- Characteritics on sericulture of Japan.......... *Nōgakushi* S. Ishiwata.
- On the exigencies of the times.......... Y. Katō.
- New method for the protection of a nursery against frost.......... *Ringakuhakushi* S. Honda.
- On the so-called "silkworms without production of threads.".......... K. Sakairi.
- To silkwormrearers.......... T. Etō.
- On sericulture in Korea.......... T. Namba.
- On method of the climbing up.......... S. Iwata.
- Necessity of study of English in technical kingdom.......... T. Maeda.
- On the causes of the victory of Japan .... Earl, T. list.
- On necessity of special mulberry plantation to Bivoltini and Trivoltini and its education.......... R. Masaki.
- On method of setting of account in spinning industry.......... R. Okamura.

Report of the first general assembly of the Japan'Sericultural Association:
- The state of the assembly.
- The information of the result of various businesses.
- The election of counselors.
- The third publishment of merits.
- The congratulating addresses and the answer.
- The lectures of guests.

General News:
- Examination on the management of cocoons before the cooking.......... T. Mitani.
- Method of prevention for mice and rabbits and the treatment of their injury.

Conversations:
- Cares on the setting up of sericulture in Korea.......... *Nōgakushi* D. Hayashi.
- The presents from Italy.......... H. Nomura.

Lactures:
- On disinfection of silkworm diseases.......... T. Tsuchiya.

Queries and Answers:
- On kinds of rearing method and incubation, etc., etc.

Condition of Rawsilk Markets:
- Yokohama market.
- Lyon market.
- New York market.

Foreign News:
- Silk industry in British India.
- Sericultural industry in Java.

Miscellaneous News:
- Reports of the Japan Sericultural Association, etc., etc.

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Voici la situation de notre marché au mois de Mars dernier:

Pendant les 20 premiers jours, les stocks à la vente ont été très réduits par suite de l'activité continue de notre marché depuis le commencement de cette année. Bien que le temps soit venu où les nouvelles soies du printemps vont jouer un grand rôle, leur arrivage sur notre place a été sans importance, l'appauvrissement des marchandises devient de plus en plus apparent. Tl en résulte que les marchands japonais montrent assez de résistance, et les acheteurs étrangers assez de réserve. De là, accalmie générale sur le marché. C'est état de choses s'exqlique par le fait que malgré l'activité très vive que montrent les fabriques de soieries européennes et américaines la production mondiale de la soie de l'année deraière accusait une diminution considérable; la demande et la fourniture ne vont pas sur le même niveau. Mais à la fin du mois, les maisons de commerce américaines ayant fait des achats importants et continus,les prix de la soie commencent à s'élever de plus en plus. Au moment où nous écrivons cette revue, quelques articles atteignent 1.120 de yen, Comparé au mois correspondant de l'année dernière, l'arrivage des marchandises à Yokohama accuse une diminution de 446 balles; mais le nombre des marchandises renvoyées, enregistrées et livrées accuse contrairement une augmentation de 214, 1,499½ et 2,538 balles respectivement.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant le mois dernier.

RAW SILK MARKET.

MARKET OF YOKOHAMA.

The condition of the rawsilk market during March last:—

In the first and the middle decades the stocks diminished extremely, by reason of the continuous active condition from January. And there was no arrival of the great cargo of the spring spinning silks to compensate it. Thus the suitable goods for demand made up a deficiency, the native merchants held out the high price, and the foreign merchants also tended towards the buying. But no bargain was driven in them. So the market was calm in general and sometimes it appeared as a holiday. Such a condition has happened, because the supply could not compensate for demand on account of a small sum of production of rawsilk in the world, in spite of the active condition of european silk industry. Therefore though we heard the cries as dullness, leisure, and slack, the market was good constantly. Especially near to the month the many mercantile firms to American market began to buy goods one after the other and the market price, as the result, has risen—at the time of writing of this coppy there was some one of 1120 yen indeed. And the whole bales to Yokohama were diminution of 446, having compared with it in the same season of last year. But we found the increase of 214 by returning, 1499½ by trading, and 2538 by selling.

The following list shows the movement of rawsilk during last march.

BULLETIN

DE

L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No 167.

20. Avril 1906.

SOMMAIRE.

Articles de fond:
Sur l'industrie sericicole.....*Baron K. Kanoko.*
Sur la fabrication de tussah à Manchourie et à Chefoo.....S. Shiotani.
Explication littéraire sur les mots "Ver-à-soie" et "Mûrier".....S. Niwa.
Sur la nature et le prix de la formaline.....*Nogakushi* C. Tenji.

Opinions:
Coutume de notre pays sur l'accouplement.....*Hogakchakushi* K. Mitsukuri.
Fruit distinctif de la sericiculture japonaise.....*Nogakushi* S. Ishiwata.
Tendance de l'époque.....Y. Kato.
Nouvelle méthode d'abriter la pépinière contre la gelée blanche.....*Hogakchakushi* S. Honda.
Sur les vers-à-soie qui ne bavent pas.....K. Sakuiri.
A Messieurs les sericulteurs.....T. Yeto.
Sur l'industrie sericicole de la Corée.....Y. Nauba.
Sur la montée.....S. Iwata.
Nécessité d'étudier la langue anglaise pour le monde technique.....T. Mayeda.
Cause de la victoire du Japon.....Comte Trieste.
La nécessité de champ des mûriers destinés exclusivement aux vers-à-soie d'été et de printemps, et la culture de ces mûriers.....R. Masaki.
Sur la comptabilité du commerce des soies grèges.....R. Ozamura.

Compte-rendu de la premiere assemblée générale de notre Association:
Etat de l'assemblée générale.—Rapports de gestion.—Rectifications des comptes.—Troisième distribution des prix.—Paroles de félicitation et réponses.—Discours des invités.

Essais et Faits divers:
Expérience d'arrangement des cocons avant la cuisson.....T. Mitaki.
Manière de chasser des rats des champs et des lapins et le remède au dommage éprouvé.

Visite et Entretien:
Attention à faire pour l'industrie soyeuse en Corée.....*Nogakushi* D. Hayashi.
Paroles sur le voyage en Italie.....H. Nonura.

Cours:
La dé-infection des vers malades.

Questions et Réponses:
Sur les races des vers et sur l'incubation.

Marché des Soies:
Marché de Yokohama.—Marché de Lyon.—Marché de New York.

Nouvelles étrangères:
La filature des soieries aux Indes britanniques.—La sericiculture à Java.

Nouvelles diverses:
Notes sur le service de notre Association.
etc. etc. etc.

TOKYO.

Association Sericicole du Japon.
(Dai Nippon Sanshi Kwai)
No 2. Mitsohiroche, Sanchome, Kanda Japon.